Endeavor

NT7100Pro

ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

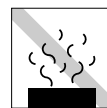
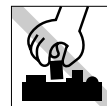
安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

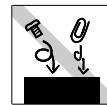
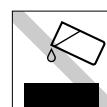
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警 告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスコールセンターまたはカスタマーサービスセンターにご相談ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。

電源は、交流100V以外では使用しないでください。
交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。

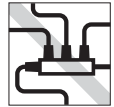
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスコールセンターまたはカスタマーサービスセンターにご相談ください。

⚠ 警告

破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- 電源コードを加工しない。
- 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- 電源コードの上に重いものを載せない。
- 発熱器具の近くに配線しない。

電源コードが破損したら、販売店、サービスコールセンターまたはカスタマーサービスセンターにご相談ください。

電源コードのたこ足配線はしないでください。
発熱し、火災の原因となります。
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。

電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。
取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、加熱しないでください。
破裂などで火傷の原因となります。

バッテリパックの端子をショートさせないでください。
火傷の原因となります。

付属のACアダプタやバッテリパックの分解や改造をしないでください。
火傷や、化学物質による被害の原因となります。

小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。
なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリパックは、落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリパックは指定されている以外の充電方法で充電しないでください。
発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。

電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま本機を分解しないでください。
感電や火傷の原因となります。

雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。
感電の原因となります。

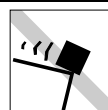
無線LANに関する警告（無線LAN機能搭載モデル）

無線LAN機能が搭載されている場合は、次の内容をよく理解してから本機をご使用ください。

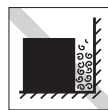
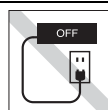
<table>
<tr><th colspan="2">⚠ 警 告</th></tr>
<tr><td>航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。</td><td></td></tr>
<tr><td>植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本機を22cm以上離して使用してください。
電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。</td><td></td></tr>
<tr><td>医療機関の屋内では次のことを守ってください。
・ 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
・ 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
・ ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
・ 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
・ 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。</td><td></td></tr>
<tr><td>自宅療養など医療機関以外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。</td><td></td></tr>
</table>

⚠ 注 意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

本機の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。

- 押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
- じゅうたんや布団の上には設置しない。
- 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

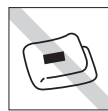
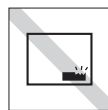
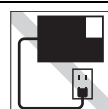
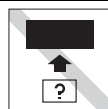
本機を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。

- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

付属のACアダプタやバッテリパックは、本機以外には使用しないでください。
また、本機には、指定のACアダプタやバッテリパック以外は使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。
低温火傷の原因になります。

ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。
火傷・火災の危険があります。

⚠ 注 意

破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。	
ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。	
長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。	
メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。 火傷の危険があります。 作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。	
液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。 火傷や化学物質による被害の原因となります。 万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。	
ひざの上で長時間使用しないでください。 本機底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。	
モジュラーベイに装着されているモジュラーベイモジュールを取り外した状態で、本機を使用しないでください。 本機内部にホコリやゴミなどが付着して、火災の原因となります。	
モジュラーベイには、弊社が指定した以外の機器を装着しないでください。 本機がショートして火災の原因となります。	
スリムドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。 内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。	
本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。 本機には重金属（鉛はんだなど）が使用されています。 液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には、水銀が含まれています。	

● 使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方や切り方、セットアップについて説明します。

● コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、スリムドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

● システムの拡張

メモリの増設･交換方法やコンピュータに接続できる装置について説明します。

● BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

● ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

● こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

● 付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

目　次

使い始めるまでの準備

コンピュータの基本操作

システムの拡張

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

こんなときは

付　録

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。

『　』

本書とは別のマニュアルを示します。
例)『梱包品の確認』:本機に添付の『梱包品の確認』を示します。

•••▶

説明文が次ページに続くことを示します。

☞

参照先を示します。

1 2

操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

［　］で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

［↵］はEnterキーを表します。また、［N］は［N み］のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。
この例では、［Ctrl］を押したまま［Z］を押します。

名称の表記

本書ではコンピュータに関連する製品の名称を次のように略して表記します。

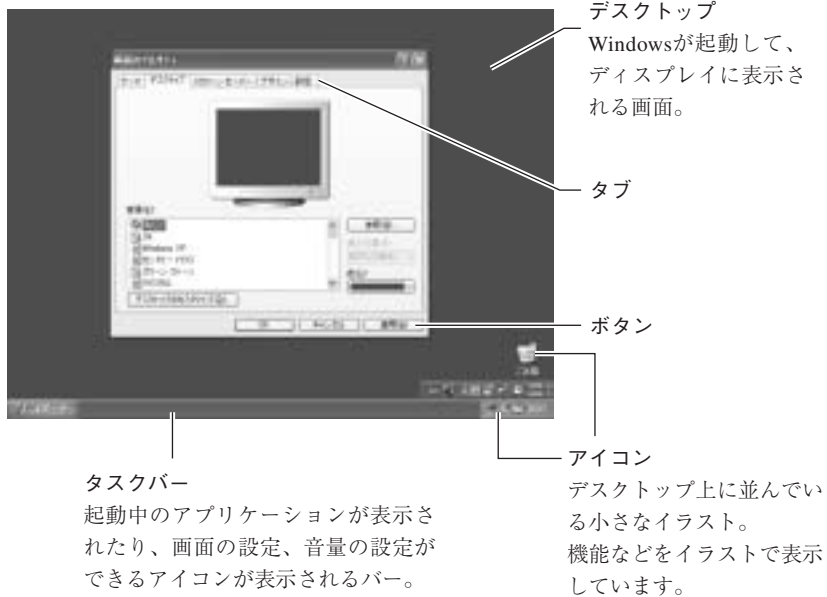
HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書ではオペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
MS-DOS	Microsoft® MS-DOS® Operating system

Windows XPの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

ボタンは[ ]で囲んで記載します。

例 [スタート]ボタン：[スタート]、[OK]ボタン：[OK]

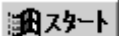
Windows XPの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows XP画面上で行う操作手順を次のように記載します。

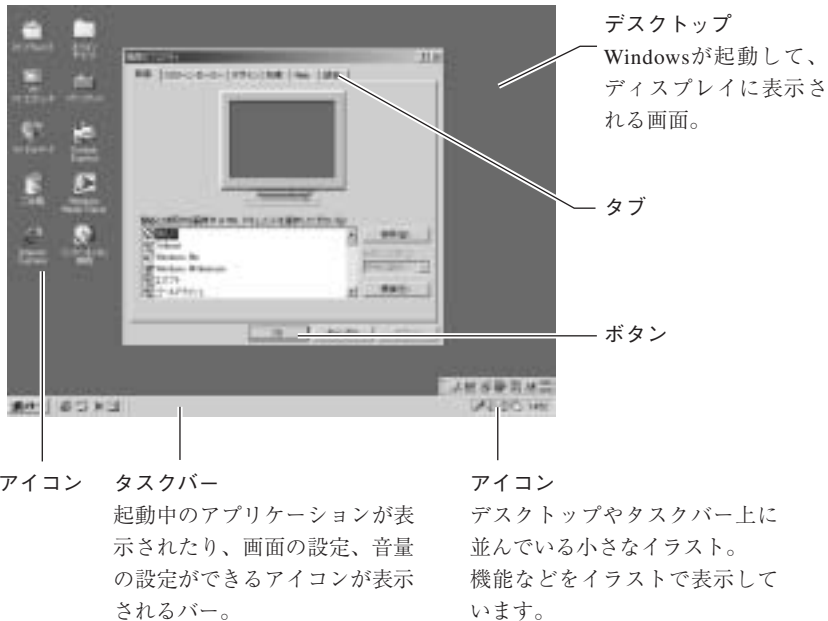
記載例　：[スタート]－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作：① [**スタート**]をクリックします。

② 表示されたメニューから「**すべてのプログラム**」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「**Internet Explorer**」をクリックします。

Windows 2000の画面表示に関する記載方法

本書では、Windows 2000画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

※マニュアル中で採用している画面は、主にWindows XPのものです。Windows 2000で表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。

ボタンは、[ ]で囲んで記載します。

例 スタート :[スタート]、 OK :[OK]

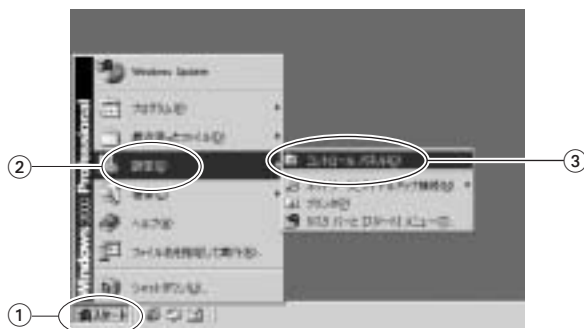
Windows 2000の画面操作に関する記載方法

本書では、Window 2000画面上で行う操作手順を次のように記載します。

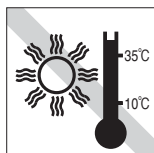
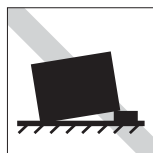
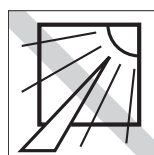
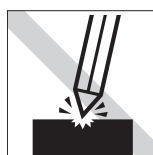
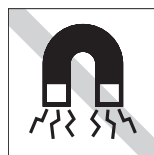
記載例　　：[スタート]–「設定」–「コントロールパネル」をクリックします。

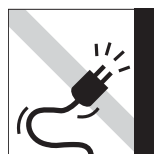
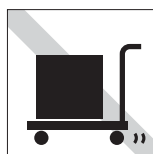
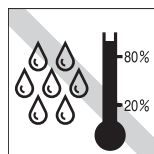
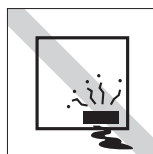
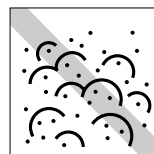
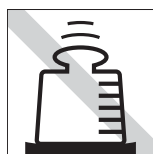
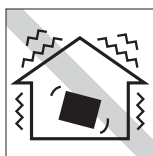
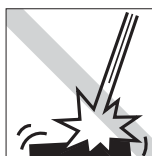
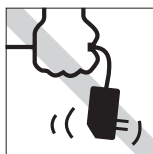
実際の操作：① [**スタート**]をクリックします。

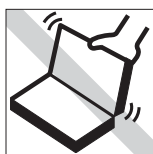
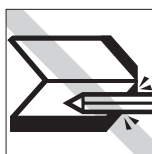
② 表示されたメニューから「**設定**」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「**コントロールパネル**」をクリックします。

製品保護上の注意

使用・保管時の注意

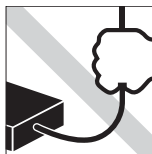
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。

直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、データが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。

湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20%～80%です。

本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機にセットしたままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

本機の上に重い物を載せたり、強く押え付けないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

本機を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破壊しないでください。

本機のLCDユニット(液晶ディスプレイ部)を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。

キーボードの上などに、物(ボールペンなど)を挟んだまま、LCDユニット(液晶ディスプレイ部)を閉じないでください。

USB FDD(オプション)

オプションのUSB FDDを使用するときは、次の注意事項を必ず守って、正しく取り扱ってください。

落としたり、衝撃を与えないでください。
故障、誤動作の原因になります。

着脱はプラグ部分を持って行ってください。ケーブルを持ってコネクタの着脱を行わないでください。
ケーブルの断線や接触不良の原因になります。

上に物を置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

FDD本体をぶらさげた状態で保持することは避けてください。
ケーブルの断線や接触不良の原因になります。

表面を上にして水平に置いて使用してください。裏返しや傾けて使うとエラー発生の原因になります。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

- FD　FD
- CD-ROM･CD-R･CD-RW･DVD-ROM、DVD+RW、DVD+Rなど　CD
- メモリースティック(Pro対応)、マルチメディアカード、SDメモリーカード　小型

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

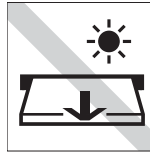
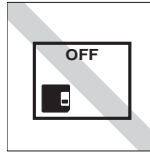
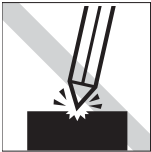
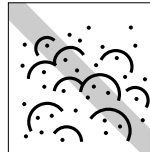
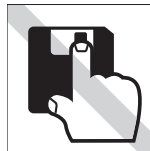
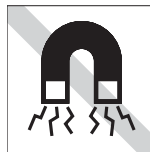
直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温･多湿となる場所には置かないでください。

上に物を載せないでください。

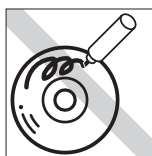
キズを付けないでください。

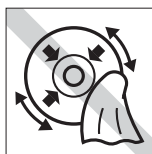
クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

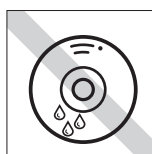
磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。FD

アクセスランプが点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を押したり、再起動しないでください。

使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

ゴミやホコリの多いところでは使用しないでください。また、そのような場所に記録メディアを保管しないでください。

アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。
FD 小型

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。FD 小型

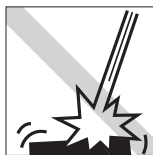
信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。CD

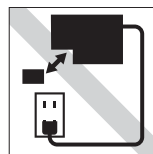
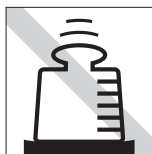
レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。CD

スリムドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD

レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMなどのメディアは、内側から外側に向かって拭いてください。
CD

シールを貼らないでください。CD

温度差の激しい場所に置かないでください。結露する場合があります。
CD

モジュラーベイモジュール

モジュラーベイモジュールを使用するときは、次の注意事項を必ず守って、正しく取り扱ってください。

モジュラーベイモジュールを落としたり、衝撃を与えないでください。破損、故障の原因になります。

モジュラーベイモジュールは、ごみやホコリの多い場所で保管しないでください。本機のモジュラーベイに装着して使用する際に故障、誤動作の原因になります。

モジュラーベイモジュールを交換する場合は、必ず本機の電源を切った状態で行ってください。電源が入った状態で行うと故障、誤動作の原因になります。

モジュラーベイモジュールの上に重い物を載せたり、強く押さえつけたりしないでください。破損、故障の原因になります。

無線LAN使用時におけるセキュリティに関する注意

（無線LAN機能搭載モデル）

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

・IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

・メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）

・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）

・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）

・コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

弊社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方や
切り方、セットアップについて説明します。

ご使用の前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品の確認

まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。

 『梱包品の確認』

安全にお使いいただくために

正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。必ずお読みください。

 表紙裏面

製品保護上の注意

正しく取り扱っていただくための情報を確認します。
必ずお読みください。

 p.16「製品保護上の注意」

ご使用の前に

本機を使用する前に必要な情報を確認します。

 p.24「ご使用の前に」

各部の名称と働き

本機の各部の名称と働きを確認します。

 p.29「各部の名称と働き」

ハードウェアをセットアップしましょう

各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。

 p.34「ハードウェアをセットアップしましょう」

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

電源を入れ、Windowsをはじめて起動したときに実行されるWindowsのセットアップを行います。

 p.40「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

電源の切り方

Windowsを終了し、本機の電源を切ります。

 p.54「電源の切り方」

ご使用前の確認事項

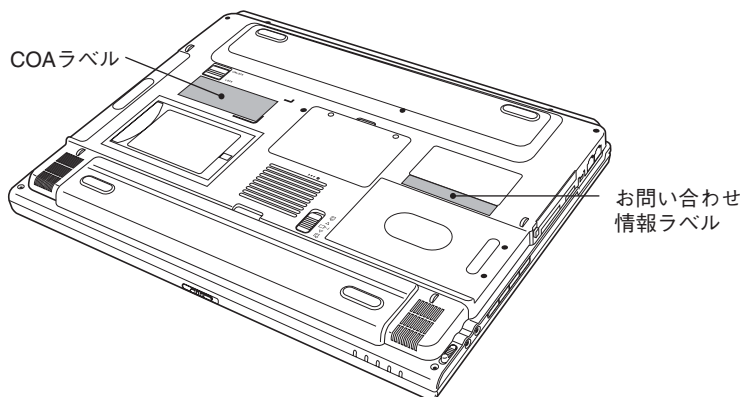
本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

● お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

● COAラベル

「COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)」は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。絶対にはがさないでください。

本機の特長

メモリ容量

DDR対応のSDRAMを装着して、最大1GBまで増設が可能です。

表示装置

15.4型TFT WSXGA+、15.4型TFT WXGA、または15型TFT SXGA+液晶ディスプレイを搭載しています。外付けディスプレイにも接続できます。

CPU性能

インテルPentium Mプロセッサを搭載しています。

PCカードスロット

PC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットを1本装備しています。

ポインティングデバイス

スクロールボタン付きタッチパッドを搭載しています。

そのほか

- モデム機能を搭載しています。
- USB2.0機能を搭載しています。
- IEEE1394機能を搭載しています。

モジュラーベイ

スリムドライブが装着されています。スリムドライブを取り外して、オプションのモジュラーベイモジュールを装着することができます。

メモリカードスロット

メモリースティック(Pro対応)、マルチメディアカード、SDメモリーカード対応のスロットを1本装備しています。

ネットワーク機能

- 1000Base-TX対応のLANコネクタを装備しています。
- IEEE802.11a/b/gに対応した無線LAN機能を搭載しています。（無線LAN機能搭載モデル）

スリムドライブ

モジュラーベイに装着/脱着が可能なドライブを搭載しています。

オペレーティングシステム

Windows XP、またはWindows 2000をインストール済みです。

＊本書中の本機のイラストでは、LCDユニットに15.4型液晶ディスプレイを搭載したモデルを使用しています。

添付されているソフトウェア

本機に添付のCDに登録されているソフトウェアは次のとおりです。CDはソフトウェアの再インストールの際に使用します。

表中記号の見方

:購入時にHDDにインストールされています。

:購入時には、HDDにインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

リカバリCD

Windowsの再インストールの際に使用します。

ソフトウェア	Windows XP	Windows 2000
● Windows Windowsは、最新のものがインストールされています。		※

※Windows 2000のリカバリCDは添付されていません。

ドライバCD

デバイスドライバ、ソフトウェアの再インストールの際に使用します。

ソフトウェア	Windows XP	Windows 2000
● インテル855PMチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするドライバです。		
● ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。		
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。		
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。		
● ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線LAN）を使用するためのドライバです。		
● 無線LANドライバ（無線LAN機能搭載モデル） 無線LAN機能を使用するためのドライバです。		
● 無線LANユーティリティ（無線LAN機能搭載モデル） 無線LAN機能の設定を行うためのユーティリティです。		
● FAXモデムドライバ FAXモデム機能を使用するためのドライバです。		

ドライバCD

デバイスドライバ、ソフトウェアの再インストールの際に使用します。

ソフトウェア	Windows XP	Windows 2000
● インスタントキードライバ Fn キーと組み合わせて使用する機能キーや、インスタントキーを使用するためのドライバです。		
● 赤外線通信設定プログラム 赤外線通信を使用するためのプログラムです。		
● メールユーティリティ メール着信ランプを機能させるためのユーティリティです。		
● スピードステップユーティリティ 使用電源をチェックして、CPU の最適速度でコンピュータを動作させるためのユーティリティです。	※	
● Power Gear (パワーギア)ユーティリティ CPU 速度や LCD 輝度を調整して消費電力を抑えるためのユーティリティです。		
● Windows Media Player 9 Windows上で、音楽CDや動画などを再生するためのソフトウェアです。		
● DirectX9 ゲームなどのマルチメディアソフトを快適に使うためのソフトウェアです。		
● JWord Plugin Internet Explorer のアドレスバーから日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。		
● Norton AntiVirus2004 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。		
● Adobe Reader PDF(Portable Document Format)形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。		

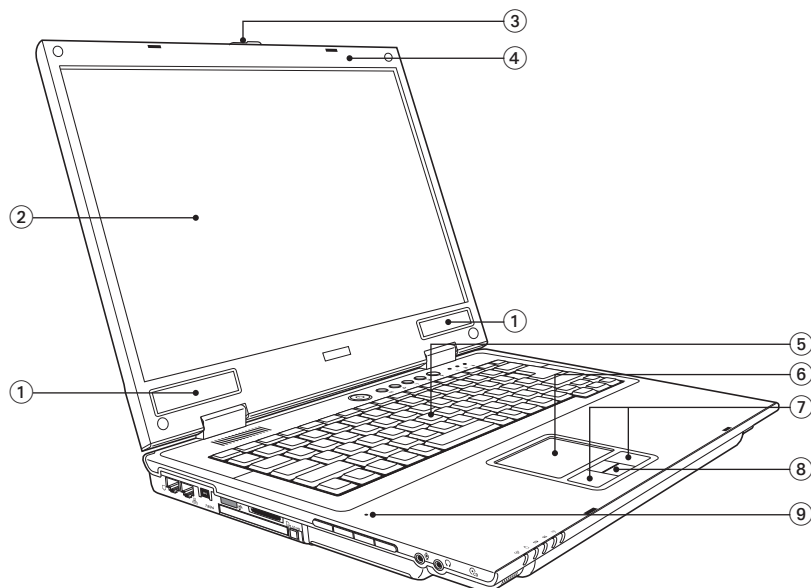
※ Windows XPが標準で機能を持っています。

各ソフトウェア専用のCD(CD-ROMドライブモデルを除く)

ソフトウェアの再インストールの際に使用します。

ソフトウェア	Windows XP	Windows 2000
● B's Recorder GOLD スリムドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。データ、音楽、画像などのメディアへの書き込みや、メディアのコピーもできます。 CD名:「B's Recorder GOLD CD-ROM」		
● Win DVD DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。 CD名:「Win DVD CD-ROM」		

各部の名称と働き

正面

① 内蔵ステレオスピーカ＊[1]
警告音や音声などを鳴らします。

② LCD画面
入力した文字や、作業内容を表示します。

③ LCDラッチ
LCDユニットを開くときにスライドさせます。

④ LCDユニット＊[2]
LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

⑤ キーボード
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

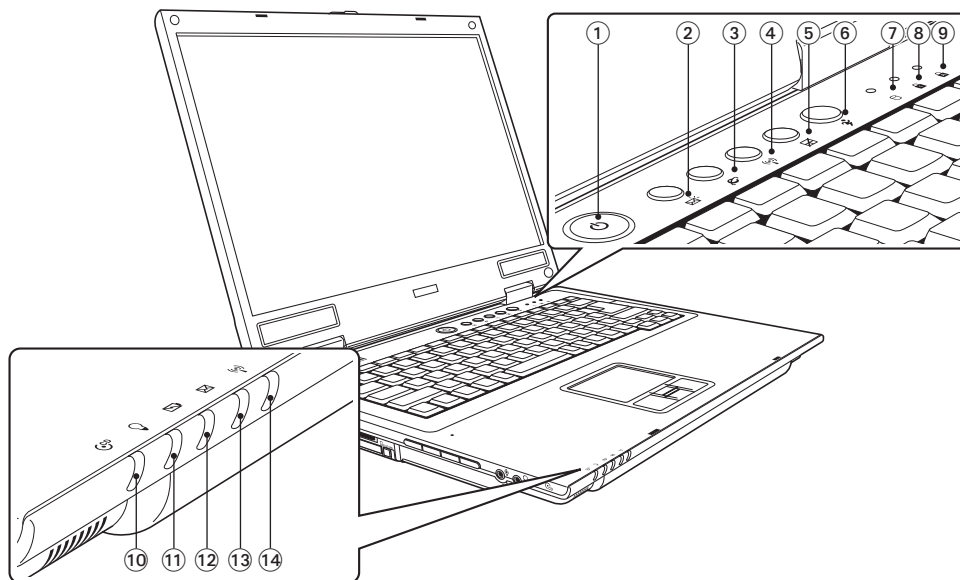
⑥ タッチパッド
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

⑦ クリックボタン
マウスの左右ボタンに相当します。

⑧ スクロールボタン
「画面をスクロールさせる」など、特定の機能を実行します。

⑨ 内蔵マイク
音声をコンピュータに取り込むときに使用します。

＊1 15.4型液晶ディスプレイモデルのみ搭載しています。
＊2 本書のイラストでは、LCDユニットに15.4型液晶ディスプレイを搭載したモデルを使用しています。

インスタントキー／ステータス表示ランプ

① 電源スイッチ
本機の電源の入/切を行ったりスタンバイや休止状態からの復帰にも使用できます。また、電源が入っているときは、電源スイッチの周りが青く点灯します。

② メールキー
「Outlook Express」を起動します。

③ インターネットキー
「Internet Explorer」を起動します。

④ 無線LANキー
無線LANの有効/無効を切り替えます。キーを押すたびに、有効/無効が切り替わります。(無線LAN機能搭載モデルのみ機能します。)

⑤ タッチパッドキー
タッチパッドの有効/無効を切り替えます。キーを押すたびに、有効/無効が切り替わります。

⑥ Power Gearキー
4段階にモード設定されたパフォーマンス(処理速度)を切り替えて消費電力を低減します。使用するには、Power Gearユーティリティのインストールが必要です。

⑦ アクセスランプ
HDDやスリムドライブなど、ドライブアクセス中に青色に点灯します。

⑧ NumLockランプ
NumLockキーの設定状態を表示します。青色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

⑨ Caps Lockランプ
Caps Lockキーの設定状態を表示します。青色に点灯しているときは、Shift キーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

⑩ CDランプ
CD電源ボタンで電源を入れると点灯します。

⑪ 電源ランプ
電源状態を示します。

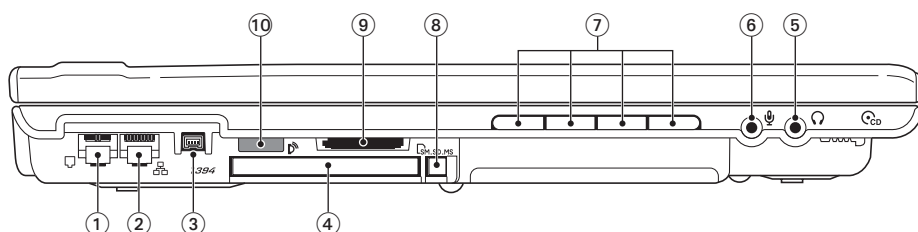
緑点灯	通常モード
緑点滅	スタンバイモード
消　灯	電源切断時または休止状態

⑫ バッテリ充電ランプ
バッテリの充電状態を示します。

橙点灯	充電中
消　灯	満充電

⑬ メール着信ランプ
「Outlook Express」または「Outlook」使用時に未開封メールがあると青色に点灯します。使用するにはメールユーティリティのインストールが必要です。

⑭ 無線LAN状態ランプ
無線LANを有効に設定すると点灯します。購入時、無線LAN機能は、無効に設定されています。(無線LAN機能搭載モデルのみ機能します。)

左側面

① モデムコネクタ
電話回線を接続します。

② LANコネクタ
LANケーブルを接続します。

③ IEEE1394コネクタ 1394
IEEE1394機器を接続します(4ピン)。

④ PCカードスロット
PC Card Standard 規格準拠のPCカードをセットして使用します。

⑤ ヘッドフォン出力コネクタ
ヘッドフォンを接続します。

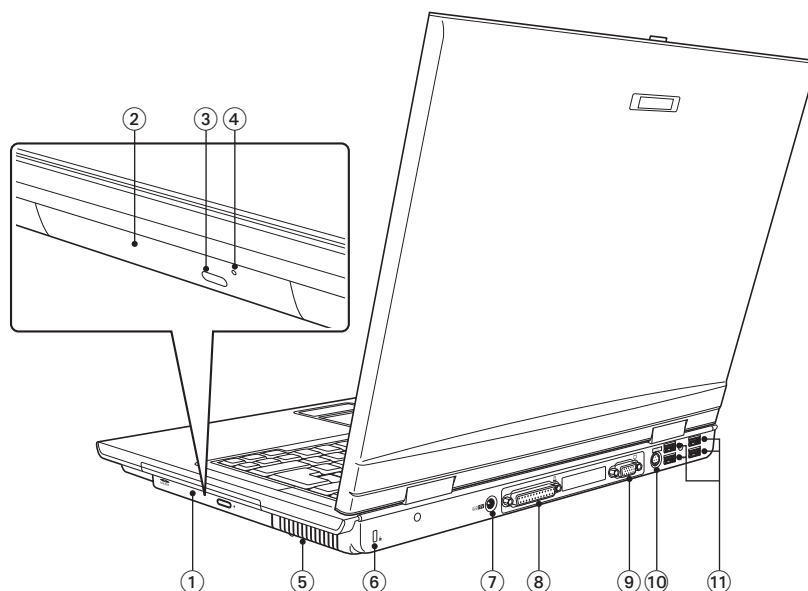
⑥ マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

⑦ 音楽CD再生ボタン
音楽CDの再生などを操作します。

⑧ PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

⑨ メモリカードスロット MMC.SD.MS/PRO
小型記憶メディアをセットし、データの読み出しや書き込み、書き換えを行います。

⑩ 赤外線ポート
赤外線通信を行うときに赤外線の送受信を行います。

背面・右側面

① モジュラーベイ
モジュラーベイモジュールを装備できます。購入時にはスリムドライブが装着されています。

② スリムドライブ
ドライブに適応するメディアの読み込みや書き込みなどを行うことができます。

③ イジェクトボタン*
ディスクトレイを開けるときに押します。

④ イジェクトホール*
ディスクトレイが開かなくなったときに押すとメディアを取り出すことができます。

⑤ 通風孔
コンピュータ内部で発生する熱を逃がしたり、冷したりします。

⑥ セキュリティロックスロット
市販の盗難防止用ケーブル(ワイヤー)を接続します(ケンジントン社製セキュリティロックに対応しています)。

⑦ ACアダプタコネクタ DC IN
付属のACアダプタを接続します。

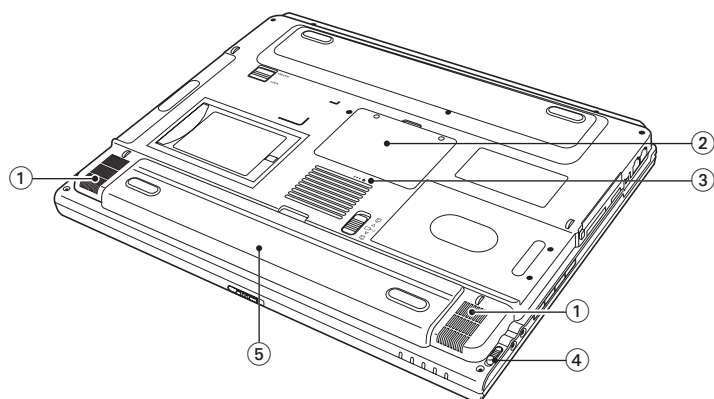
⑧ パラレルコネクタ
パラレルコネクタに対応したプリンタやスキャナなどを接続します。

⑨ VGAコネクタ
CRTディスプレイなど外付けディスプレイ(アナログタイプ)を接続します。

⑩ ビデオ出力ジャック
テレビのS端子と接続します。

⑪ USB2.0コネクタ
USB対応機器を接続します。

* ③④の位置は、お使いのスリムドライブの種類によって異なりますが、機能は同じです。

底面

① 内蔵ステレオスピーカ
警告音や音声などを鳴らします。

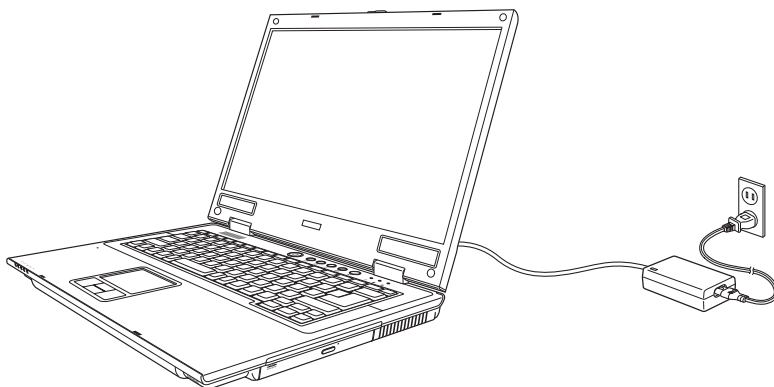
② メモリスロットカバー
メモリスロットカバーを開けると、メモリスロットが1本装備されています。メモリスロットには、メモリを増設・交換することができます。

③ リセットホール ⊳⊲
コンピュータを再起動します。

④ CD電源ボタン
コンピュータの電源が切れた状態で、音楽CDを再生するための電源スイッチです。

⑤ バッテリパック
バッテリパック(メインバッテリ)が装着されています。

ハードウェアをセットアップしましょう

本機を、基本的なシステム構成でセットアップする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ終了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して、接続とセットアップを行ってください。

設置における注意

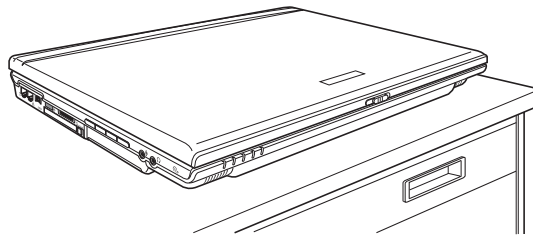
- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。
- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

各種コードやバッテリパック装着時の注意

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

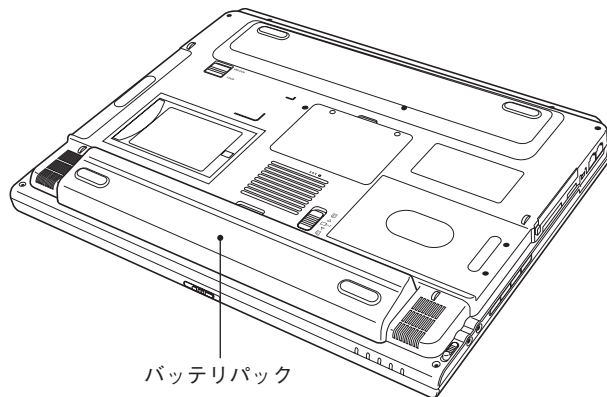
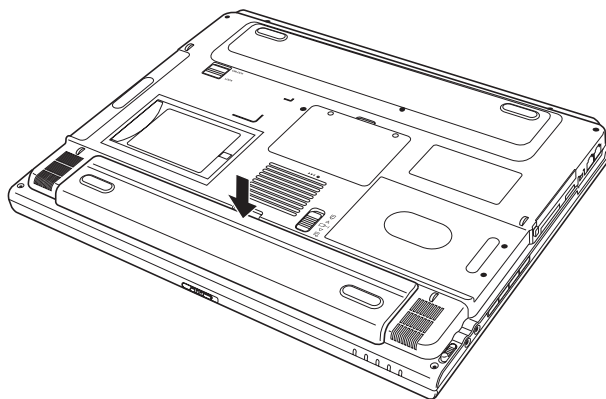
各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設置する

1 本機を設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。

バッテリパックを装着する

2 バッテリパックを装着します。

❶ 本機の底面部を上にして置きます。

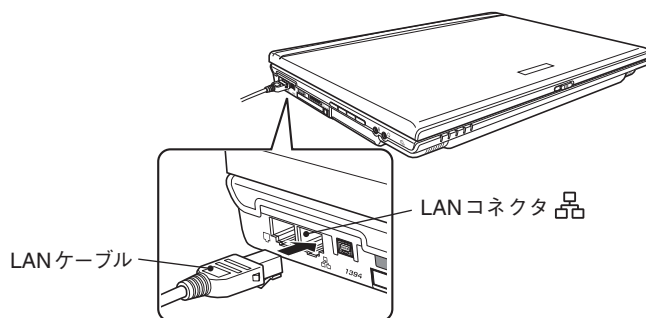
❷ 下図のとおりバッテリパックを本機に合わせます。

❸ バッテリパックを「カチッ」と音がするまで押し込みます。バッテリが固定されます。

出荷時のバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

p.58「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

ネットワークへ接続する

3 ネットワーク機能(有線LAN)を使用する場合は、市販のLANケーブルでネットワークと接続します。

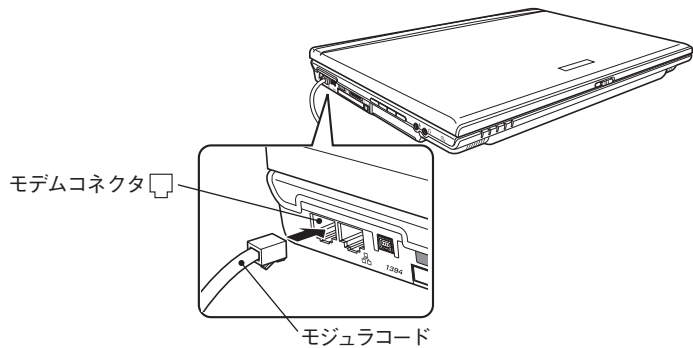
市販のLANケーブルをLANコネクタ(品)に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

ネットワークの詳細は、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方に確認してください。

電話回線への接続をする

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。

- 構内交換機(PBX)
- 2線式でない回線(ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

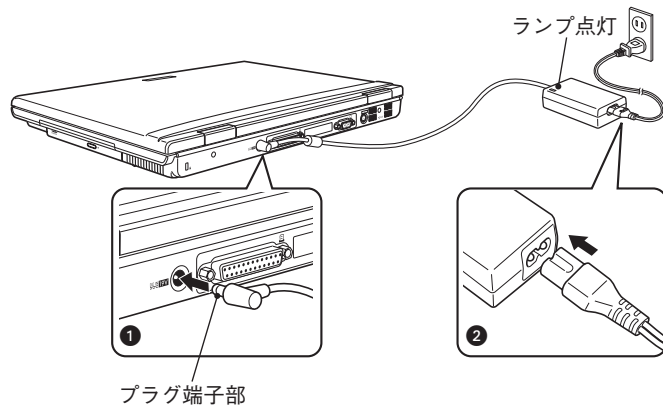
4 FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線への接続を行います。

- 付属のモジュラコードをモデムコネクタ( )に「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。

ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

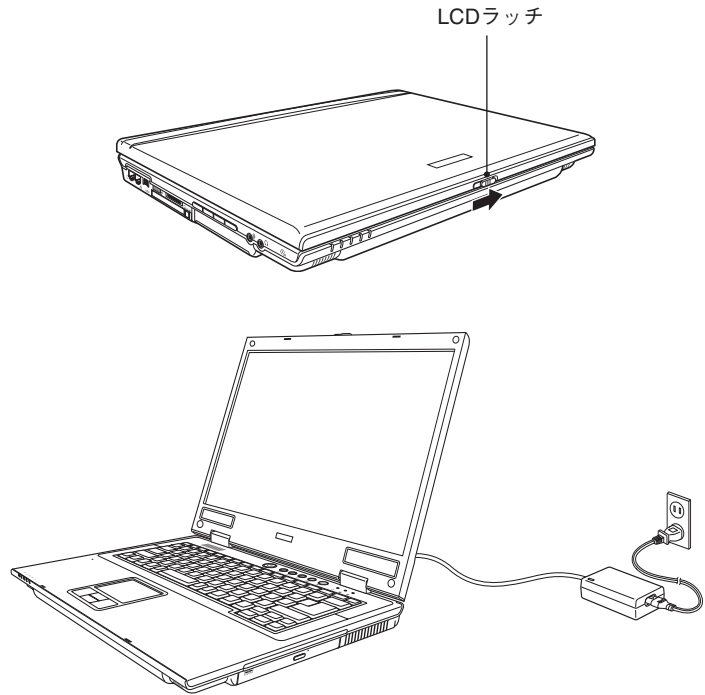
5 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

❶ ACアダプタのプラグ部を本機右側面のACアダプタコネクタ(DC IN)に接続します。
「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

❷ 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

ACアダプタを接続して使うときも、必ずバッテリパックをセットした状態で使ってください。

LCDユニットを開ける

6 前面のLCDラッチを矢印方向にスライドさせて、LCDユニットを開けます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。

これでハードウェアのセットアップは終了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後にはじめて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

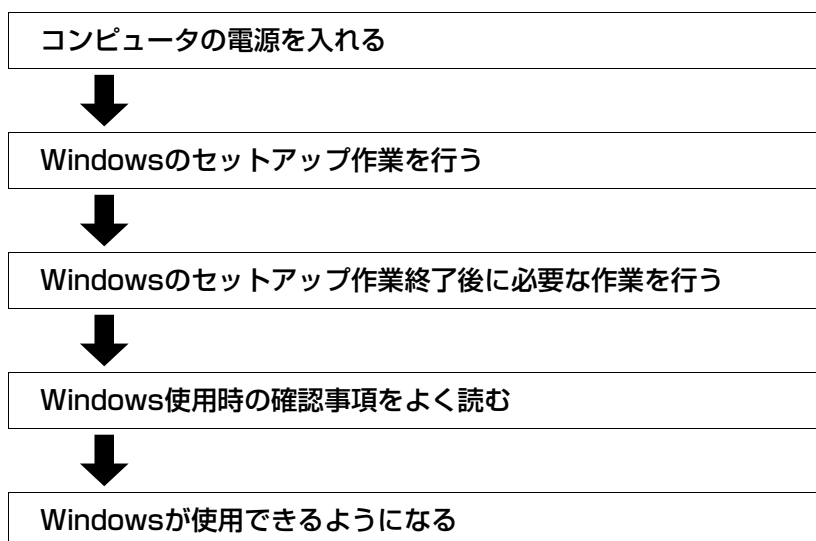
作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。

コンピュータの電源を入れる

Windowsのセットアップ作業を行う

Windowsのセットアップ作業終了後に必要な作業を行う

Windows使用時の確認事項をよく読む

Windowsが使用できるようになる

電源を入れる前に

Windowsのセットアップ

「Windowsセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単にセットアップを行うことができます。

セットアップ中に入力する項目について

Windowsのセットアップでは、次の項目の入力が必要です。

● コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

・ネットワークに接続しない場合：セットアップ時のコンピュータ名を変更する必要はありません。

・ネットワークに接続する場合　：ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。詳しくは、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

● パスワード（Windows XP ProfessionalおよびWindows 2000のみ）

本機を個人で使用/管理する場合は、任意のパスワードを設定します（設定しなくても問題ありません）。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

このパスワードは、「Administrator」アカウントのパスワードです。「Administrator」アカウントでログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

パスワードを設定した場合は、忘れないようにしてください。

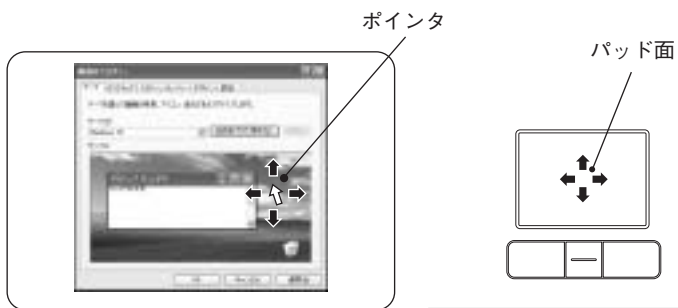
「Administrator」アカウントについて

「Administrator」アカウントとは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

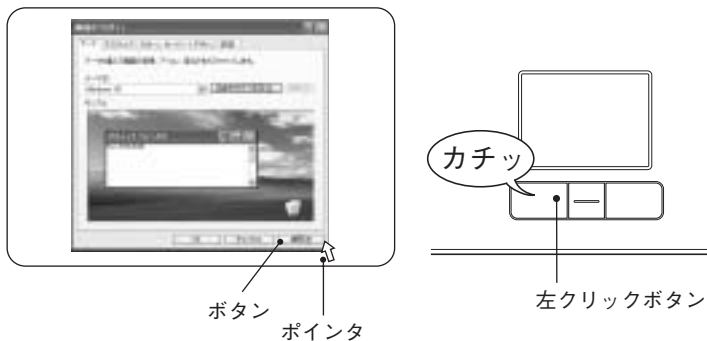
● **ポインタを動かす**

人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。

● **ボタンをクリックする**

❶ 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

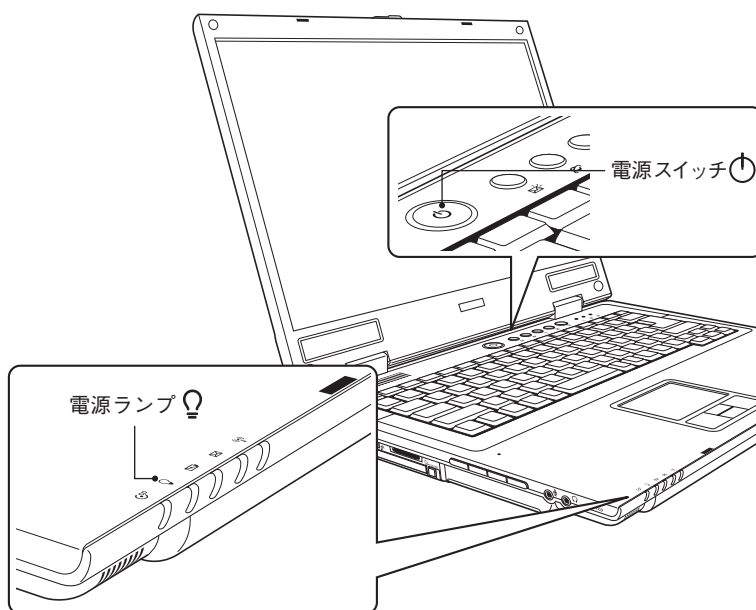
❷ 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は次のとおりです。

1 **電源スイッチ( )を押して、本機の電源を入れます。電源ランプが点灯します。**

電源を入れたときに電源ランプ ( )が点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認し、正しく接続し直してください。

2 **黒い画面の中央にロゴが表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**

次の調節をして画面を見やすくします。

- 角度　LCDユニットを前後に動かします。
- 画面の明るさ　Fn+F5：暗くなります。
  Fn+F6：明るくなります。

続いてWindowsのセットアップを行います。

- Windows XP

  p.44「Windows XPのセットアップ」
- Windows 2000

  p.47「Windows 2000のセットアップ」

Windowsのセットアップ

Windows XPのセットアップ

Windows XPのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

Microsoft Windowsへようこそ

セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

「このコンピュータの名前」を入力します。

p.41「セットアップ中に入力する項目について」

パスワードの設定

Windows XP Professionalをお使いの場合に設定します。

p.41「セットアップ中に入力する項目について」

インターネットへの接続

ここでは接続を行いませんので[省略]をクリックします。

ユーザー登録

ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、[次へ]をクリックします。

コンピュータを使用するユーザーの指定

ここで入力するユーザー名には「コンピュータの管理者（Administrator）」権限が与えられます。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

セットアップの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2 **Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。**

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に、入力したユーザー名が入った「ようこそ」画面が表示されます。使用するユーザー名をクリックすると上記の画面が表示されます。

続けてp.49「セットアップ終了後の作業」に移ります。

ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について

- セットアップ中にスキップした、ユーザー登録を行う場合は、[スタート]－「ファイル名を指定して実行」－「REGWIZ □/R」(□はスペース)を実行し、ウィザード画面の指示に従ってください。ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。
- 弊社より提供されたWindows XP(購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「リカバリCD」より再インストールを行ったもの)は、ライセンス認証を行う必要はありません。

Windows 2000のセットアップ

Windows 2000のセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

Windows 2000セットアップウィザードの開始

ライセンス契約

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。

※「同意しない」を選択すると Windows のセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

ユーザー情報として名前と組織名を入力します。

※ 名前を入力後 Tab を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を入力します。

p.41「セットアップ中に入力する項目について」

日付と時刻の設定

「日付と時刻」で現在の日時を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows 2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動]をクリックするとコンピュータが再起動します。

2 Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows 2000セットアップ」は終了です。

続けてp.49「セットアップ終了後の作業」に移ります。

セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

Norton AntiVirus2004のインストール

「Norton AntiVirus2004」は、コンピュータウィルスを検索し駆除するためのソフトウェアです。購入時には、「Norton AntiVirus2004」はインストールされていません。インターネットへ接続する場合は、本機に添付の「Norton AntiVirus2004」をインストールすることをおすすめします。

『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』

ネットワークに接続する

ネットワーク機能(有線LAN)や無線LAN機能搭載モデルで無線LAN機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

p.162「ネットワーク(有線LAN)を使う」
p.163「無線LANを使う(無線LAN機能搭載モデル)」

FAXモデムの設定

FAXモデム機能を使用してインターネットへの接続を行う場合は、FAXモデムの設定を行います。

p.129「インターネットに接続するには」
p.132「FAXモデムを使う」

赤外線通信の設定

赤外線通信機能を使用する場合は、赤外線デバイスの設定をする必要があります。

p.109「赤外線通信を使う」

メールユーティリティのインストール

メールユーティリティをインストールすると、「Outlook Express」または「Outlook」を起動している間、未開封メールがあるとメール着信ランプ（✉）が点灯します。購入時にはメールユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.225「メールユーティリティのインストール」

Power Gearユーティリティのインストール

Power Gear ユーティリティは省電力機能の1つで、4段階のパフォーマンス（CPU速度とLCD輝度）を切り替えて、消費電力を抑えることができます。
購入時にはPower Gearユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.224「Power Gearユーティリティのインストール」

セカンドHDDモジュール（オプション）の準備

オプションのセカンドHDDモジュール（以降、セカンドHDD）をはじめて使用する場合は、モジュラーベイに装着して、HDD領域を作成する必要があります。

- **モジュラーベイに装着する**

  本機右側面のモジュラーベイには、購入時にスリムドライブが装着されています。スリムドライブを取り外して、セカンドHDDを装着します。

  p.89「モジュラーベイモジュールの交換」

- **HDD領域を作成する**

  購入時のセカンドHDDは、HDD領域が作成されていません。セカンドHDDをはじめて使用する場合は、HDD領域を作成する必要があります。

  p.255「HDD領域の作成」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項の確認を行ってください。
Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータの電源を入れるときには、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。**
  Windowsが省電力モードに移行すると、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。
  p.153「省電力機能を使う」
- **電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。**
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- **周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。**
  コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

Windows Updateについて

はじめてインターネットに接続する場合、最初に「Windows Update」を行います。「Windows Update」を行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウィルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用することができるようになります。

「Windows Update」は、次の手順で行います。
Windows XP　：［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Update」
Windows 2000：［スタート］－「Windows Update」

Windowsを再インストールした場合も、必ず「Windows Update」を行ってください。また、「Windows Update」では常に新しいプログラムが登録されているので、定期的に「Windows Update」を行ってください。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

次のキーを押して、音量を調節します。

Fn+F10を押すとミュートになり、もう一度押すとミュートが解除されます。

Fn+F11を押すと音量が小さくなります。

Fn+F12を押すと音量が大きくなります。

省電力機能

本機では、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、Windowsが省電力モードに移行して画面表示が消えます。この場合、キーボードの操作でもとに戻ります。

p.153「省電力機能を使う」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD Disc1」(Windows XPの場合)をセットしてください(Windows 2000の場合は、Windows 2000のCDをご用意の上、セットしてください)。

SBSIの実行について(Windows XP)

「SBSI(ステップバイステップインタラクティブ)」を実行すると、Windows XPの使い方の詳細をデスクトップ上で見ることができます。「ステップバイステップインタラクティブ」を実行するには、[スタート]−「すべてのプログラム」−「アクセサリ」−「Microsoftインタラクティブトレーニング」−「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

コントロールパネルの表示(Windows XP)

Windows XPのコントロールパネルの表示には、項目をカテゴリごとにまとめて表示する「カテゴリの表示」形式と、項目をすべて表示する「クラシック表示」形式の2種類があります。
Windows XPで、はじめてコントロールパネルを開くと、「カテゴリの表示」形式で表示されます。本書では、コントロールパネルを開いて設定を行う手順を、「カテゴリの表示」形式から行うことを前提に記載しています。
2種類の表示形式は、それぞれの画面の左側にある「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックすることで、切り替えることができます。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。

- 電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDD などの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。
- アクセスランプ点灯中に電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。
- 本機は電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり、コンセントに接続されていると、コンピュータ内部には微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。

Windows XPの終了と電源の切り方

必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

1 **[スタート]－「終了オプション」をクリックします。**

2 **「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。**
Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。

3 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows XP終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]－[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、[いいえ]をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってください。すべてのユーザーのログオフが終了したら、再度、[終了オプション]－[電源を切る]を選択してください。

Windows 2000の終了と電源の切り方

必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

1 **[スタート]-「シャットダウン」をクリックします。**

2 **「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。**

Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。

3 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

再起動

次のような場合には、コンピュータを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

Windows XP　：[スタート]-[終了オプション]-「再起動」をクリック

Windows 2000：[スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択

ハングアップしたときは

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合は、Ctrl+Alt+Del を押して応答のないプログラムを終了してから、コンピュータを再起動します。

p.230「コンピュータ本体の不具合」

Windowsの強制終了

Ctrl+Alt+Del を押しても反応がない場合は、あわてず次のように対処します。

コンピュータの電源スイッチを押す

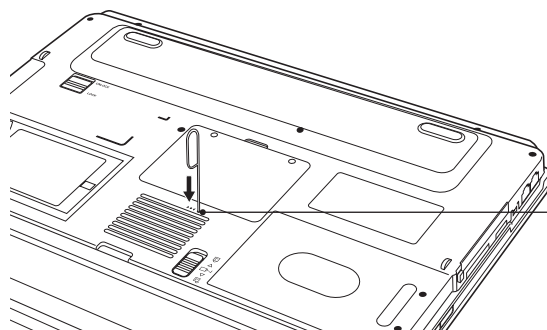
↓ コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを５秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

リセットホールでの再起動

本機底面にあるリセットホールを使用して、コンピュータを再起動することもできます。リセットホールは、プログラムがハングアップしてCtrl+Alt+Del を押しても反応がない場合に使用します。

本機底面にあるリセットホールの位置を確認し、リセットホール(⋈)に丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。

コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、スリムドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックを使って使用することができます。

- ACアダプタや、バッテリパックの分解や改造をしないでください。火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。
- バッテリパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。破損すると、火傷や化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックは指定されている以外の充電方法で充電しないでください。発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。

- 連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 付属の ACアダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。また、本機以外には、指定のACアダプタやバッテリパック以外は使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリパックの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

- ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリパックを装着して本機を使用してください。
- バッテリパックを使用しているときは、電源が入っている状態でACアダプタを抜き差しすることができますが、動作中はなるべくACアダプタを抜かないでください。電源が切れている状態で抜いてください。
- ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。
- ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。

ACアダプタの接続方法は、p.38「ACアダプタを接続する」をご覧ください。

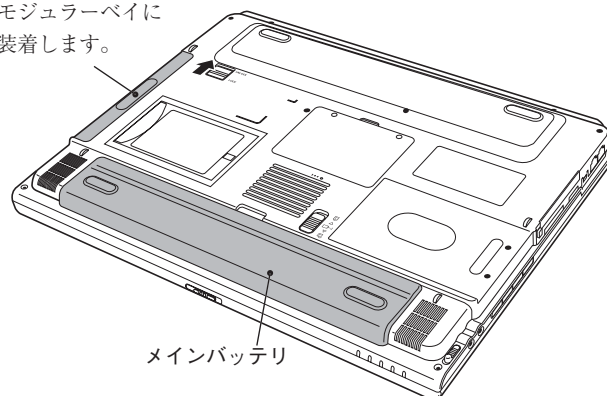
バッテリパックを使う

バッテリパック(以降、バッテリ)は着脱可能な充電式の電池です。バッテリを使用すれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン(Li-ion)バッテリを使用しています。

本機では、次のバッテリパックを使用することができます。

- メインバッテリ(本機購入時に付属)
- セカンドバッテリモジュール(オプション)

  セカンドバッテリモジュール(以降、セカンドバッテリ)は、モジュラーベイに装着します。セカンドバッテリは、メインバッテリを装着した状態で使用します。セカンドバッテリを使用すると、本機の使用可能時間を延ばすことができます。

  p.87「モジュラーベイを使う」

バッテリ使用時の注意

次の注意事項を確認して、バッテリを正しくお使いください。

- セカンドバッテリを装着して本機を使用する場合は、メインバッテリと同時に使用してください。
- 省電力モードのまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力モードに入っているときも電力が消費されています。

  p.153「省電力機能を使う」
- バッテリは本機の電源を切っていても自然放電によって電力が消費されています。長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリは温度が10～30℃の環境で使用すると使用時間や寿命を延ばすことができます。10℃以下の場所に放置していたバッテリは性能が低下しています。10～30℃の温度範囲の場所でしばらく慣らしてから使用することをおすすめします。
- バッテリの特性上、残量が正しく表示されず、使用中に急激に残量が減ってしまうことがあります。バッテリが急に終わって困らないようにバッテリ使用後は常に充電をすることをおすすめします。

使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

バッテリ構成	使用可能時間*(満充電の場合)
メインバッテリのみ	5時間
メインバッテリとセカンドバッテリ	8.5時間

* JEITA(電子情報技術産業協会)の測定方法Ver1.0に基づいています。

バッテリだけで使用している場合は、省電力モードに移行したりCPUパフォーマンスなどを調整して消費電力を抑え、使用可能時間を延ばすことができます。

p.153「省電力機能を使う」
p.159「パフォーマンスを調整する」

バッテリ残量の確認

制限

バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。

p.65「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

本機では残量の確認を次の方法で行うことができます。

● タスクバーの「バッテリ」アイコンの上にマウスポインタをあわせる。
セカンドバッテリ装着時は、メインバッテリとセカンドバッテリの残量の合計が表示されます。

バッテリアイコン

● プロパティ画面を開いて確認する。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ

〈Windows XPの場合〉

バッテリ残量が少なくなったら

低バッテリの通知

残量が少なくなると、本機は次のように通知(警告)します。直ちに下記の対処を行ってください。完全放電してシャットダウン(電源切断)してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

「バッテリ切れアラーム」で設定したバッテリ残量になると、低バッテリメッセージが表示されます。この設定は、p.63「バッテリアラームの設定」で変更することができます。

〈Windows XPの場合〉

対処方法

バッテリ残量の低下が通知されたら、直ちに次のいずれかの処置を行ってください。

● ACアダプタを接続する

電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電ランプ( )が点灯します。

● 電源を切る

作業中のデータをHDDなどに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。

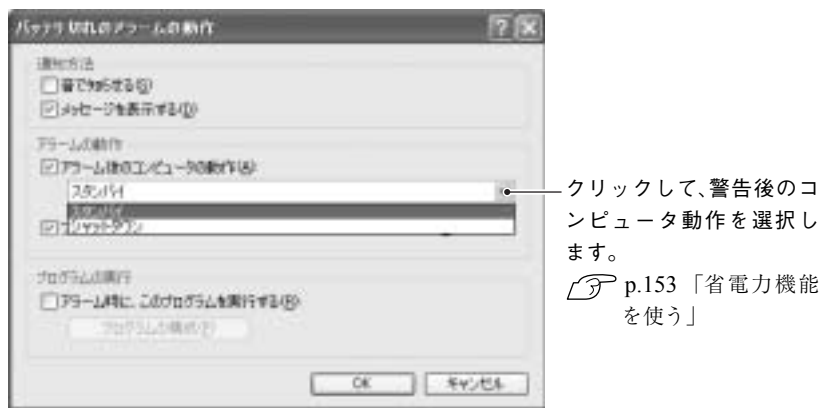
交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリアラームの設定

バッテリ残量が低下したときの通知方法を次のプロパティ画面から変更できます。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「アラーム」タブ

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「アラーム」タブ

p.153「省電力機能を使う」

〈Windows XPの場合〉

バッテリの充電

ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。
バッテリが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は安全のためにACアダプタを外しておきます。

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

バッテリ構成	充電時間*
メインバッテリのみ	約3時間
メインバッテリとセカンドバッテリ	約5.5時間

*電源が入っている状態で充電を行っている場合には、使用状況により差があります。

セカンドバッテリの充電は、メインバッテリを装着した状態で行います。メインバッテリが満充電状態になったあと、セカンドバッテリの充電が開始されます。

バッテリ充電ランプの表示

バッテリ充電ランプ( )の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
充電中	橙点灯
満充電	消灯

温度条件について

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。
温度が10〜30℃の環境で充電すると、最も効率のよい充電ができます。

バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。
満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下するような場合は、バッテリのリフレッシュを行ってみてください。

バッテリのリフレッシュ方法

バッテリのリフレッシュは、次の手順で行います。

セカンドバッテリのリフレッシュは、メインバッテリのリフレッシュと同時に行います。セカンドバッテリのみのリフレッシュはできません。

1 **ACアダプタが接続されていることを確認します。**

2 **コンピュータの電源を入れて、F2を押し、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。**

p.191「BIOS Setupユーティリティの起動」

3 **「Power」メニュー画面－「Start Battery Calibration」を選択し、↵を押すと「Battery Calibration Utility」が起動します。**

4 **画面のメッセージの最終行に「It is charging the battery, please wait」と表示されたら、バッテリの充電が開始されます。**

バッテリを完全に充電するには、メインバッテリのみで最大約3時間、メインおよびセカンドバッテリ同時では、最大約5.5時間かかります。
途中で中止したい場合は、電源スイッチを押してコンピュータの電源を切ります。

5 **画面のメッセージの最終行に「PLEASE LEAVE THE BATTERY RUNNING OUT OF POWER.」と表示されたら、ACアダプタを抜いてそのまま放置します。**

バッテリを完全に放電するには、メインバッテリのみで約3時間、およびセカンドバッテリ同時では約5.5時間かかります。

6 **バッテリの放電が完了すると、自動的に電源が切れます。**

これでバッテリのリフレッシュは終了です。
バッテリの充電をする場合は、ACアダプタを接続してください。

バッテリの寿命

バッテリは、消耗品です。バッテリのリフレッシュを行っても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。新しいバッテリに交換してください。

バッテリの交換

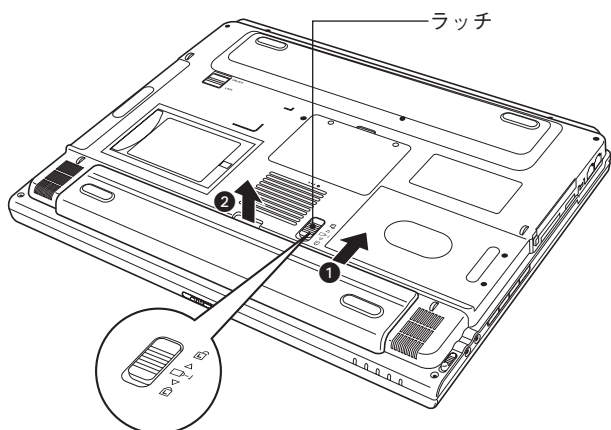
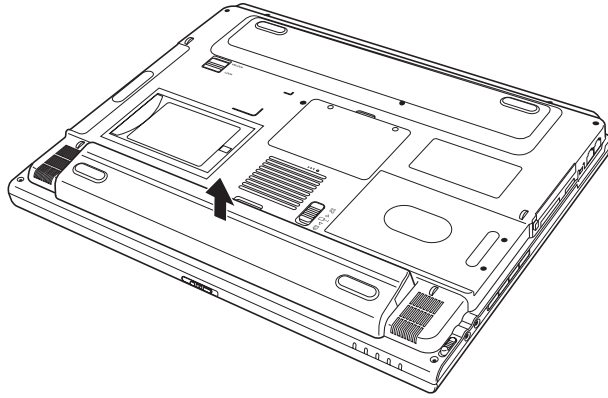
メインおよびセカンドバッテリをそれぞれ複数購入して使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。

メインバッテリの交換

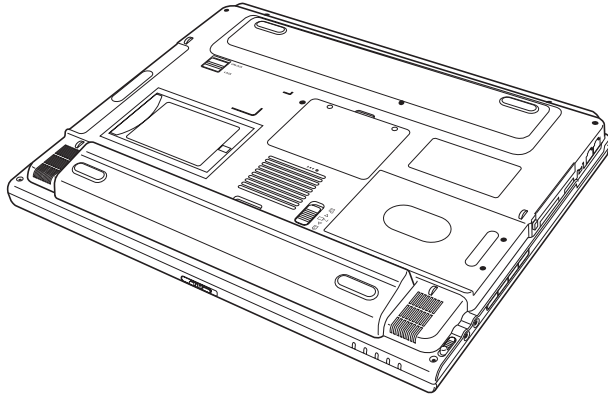
メインバッテリの交換は次の手順で行います。

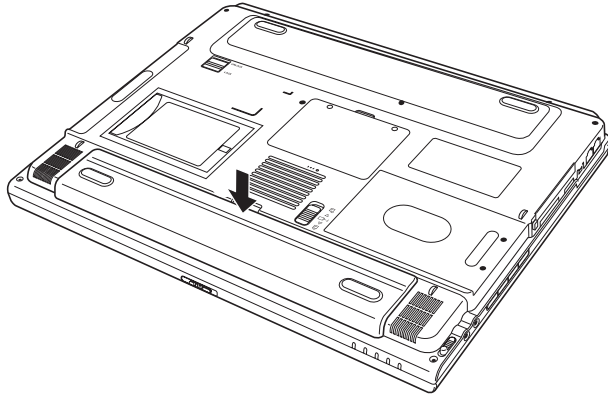
1. **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**
2. **本機の底面部を上にして置きます。**
3. **バッテリを取り外します。**

❶ ラッチをロック解除位置( )までスライドさせます。

❷ ラッチをスライドさせたまま、バッテリを矢印の方向へ持ち上げます。

❸ バッテリを取り外します。

4 バッテリを取り付けます。

❶ 新しいバッテリを下図のとおり本体に合わせます。

❷ バッテリを「カチッ」と音がするまで押し込みます。

バッテリが固定されます。

5 本機のLCDユニット側を上にして置き、取り外したACアダプタを取り付けます。

セカンドバッテリの交換

セカンドバッテリを使用している場合は、モジュラーベイからセカンドバッテリを取り外して、新しいセカンドバッテリと交換します。

p.89「モジュラーベイモジュールの交換」

バッテリ保管上の注意

小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、バッテリの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温・多湿の場所をさけてください。保管したバッテリは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。

コンピュータを保管するときは、必ずコンピュータ本体からバッテリを取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリが液もれしたり、バッテリと本体の接点が腐食することがあります。

使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン(Li-ion)バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、バッテリがショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

不要なバッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

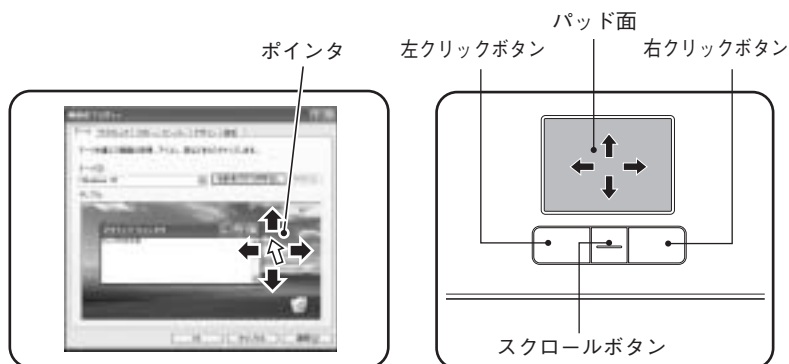
本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。

タッチパッドの操作

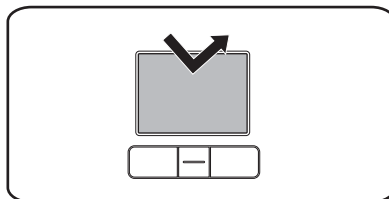
タッチパッドは、パッド面とクリックボタン、スクロールボタンから構成されています。

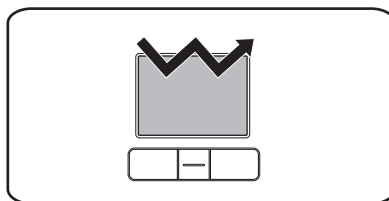
パッド面は、ポインタを移動させる働きのほかに、左クリックボタンの働きもします。ボタンを押す代わりにパッド面を軽くたたくことにより左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。

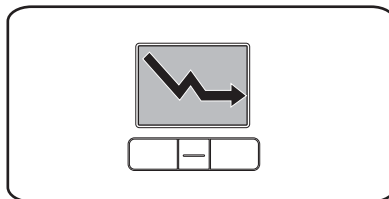
ポインタの移動

人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。

クリック

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック

ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール

スクロールバーのある画面を操作しているときに、スクロールボタンを上または下方向に押すと、それぞれの方向にスクロールします。

タッチパッド機能を無効にする

キーボード入力を行うときに、タッチパッドに手があたってマウスポインタが動いてしまい入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的に無効にすると便利です。タッチパッド機能の有効･無効の切り替えは、タッチパッドキー（ ）で行います。

p.77「インスタントキー」

タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うとタッチパッドがより操作しやすくなります。

タッチパッドユーティリティの各種設定は次の場所から実行します。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「マウス」

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「マウス」

「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして［設定］ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

〈Windows XPの場合〉

USBマウス（オプション）の接続

本機背面のUSBコネクタ（ ）にオプションのUSBマウスを接続して使うことができます。詳しくは、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

キーボードを使う

本機のキーボードは、日本語対応89キーボードです。また、5個のインスタントキーも搭載しています。

キーの種類と役割

入力キー

89個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

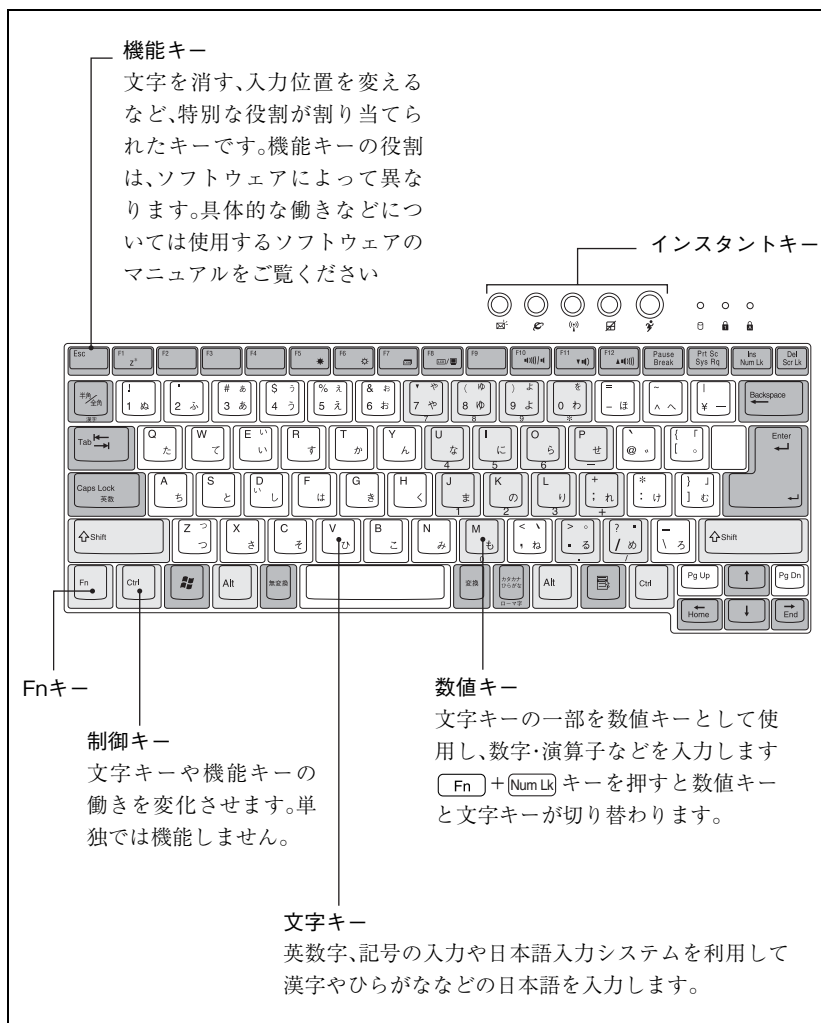
機能キー
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください

インスタントキー

Fnキー

制御キー
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

数値キー
文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字･演算子などを入力します
Fn ＋ Num Lk キーを押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

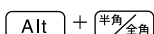
文字キー
英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。入力モードによって入力される文字が異なります。

- 直接入力モード：キートップのアルファベットをそのまま入力します。
- 日本語入力モード
  - → ローマ字入力：キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
  - → かな入力：キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え

直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。

Alt ＋ 半角/全角

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったりヘルプを参照します。

<Windows XPの場合>

<Windows 2000の場合>

① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。

② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。

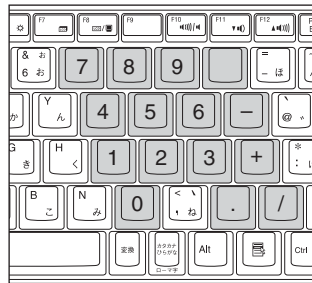
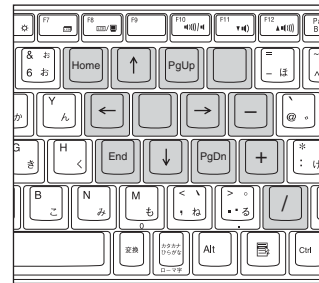
③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
ボタンが押されている状態　：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

Fn ＋ Num Lk を押すと、NumLock ランプ（1）が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに Shift を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード

Shift を押したとき

アルファベット入力モード

Shift ＋ Caps Lock を押すと、CapsLock ランプ（A）が点灯して、アルファベットが大文字で入力できます。この状態のまま小文字で入力するには Shift を押しながら入力します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは Fn キーと組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn + F1	省電力モードに移行します。購入時の設定では、スタンバイモードに移行します。 p.153「省電力機能を使う」
Fn + F5	LCD画面を暗くします。 p.112「明るさの調整」
Fn + F6	LCD画面を明るくします。 p.112「明るさの調整」
Fn + F7	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。 p.113「バックライトの消灯」
Fn + F8	表示装置を切り替えます。 p.115「表示装置の切り替え方法」
Fn + F10	スピーカ音声出力の入/切を切り替えます。 p.124「音量の調節」
Fn + F11	スピーカの音量を小さくします。 p.124「音量の調節」
Fn + F12	スピーカの音量を大きくします。 p.124「音量の調節」

Windowsキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー名	機　能
(Windowsキー)	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
(アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

インスタントキー

本機には、5個のインスタントキーが搭載されています。インスタントキーには、Internet Explorerを起動するなどの機能が割り付けられています。インスタントキーを押すとキーに割り当てられた機能を実行します。
各インスタントキーの機能は、次のとおりです。

インスタントキー	機　能
メールキー	Outlook Expressを起動します。
インターネットキー	Internet Explorerを起動します。
無線LANキー	無線LANの有効/無効を切り替えます。 p.168「無線LAN機能の有効/無効の設定」
タッチパッドキー	タッチパッドの有効/無効を切り替えます。タッチパッドを使わないときは、タッチパッド機能を一時的に無効にしておくことができます。 p.71「タッチパッド機能を無効にする」
Power Gearキー	4段階のモードに設定されたパフォーマンス(処理速度)を切り替えて、消費電力を低減します。 p.160「Power Gear(パワーギア)機能」

これらのキーに割り当てられた機能を変更することはできません。

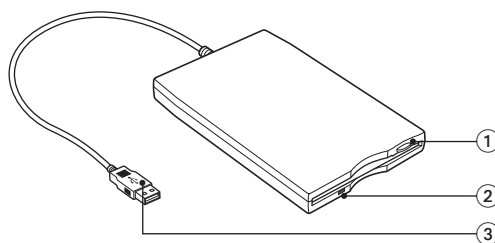
USB FDDを使う

（オプション）

本機にはオプションのUSB FDDを接続して使用することができます。
FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機のFDDでは、次のFDが使用できます。

- 3.5型2HD　：1. 44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD　：720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

USB FDDを使う前に、必ずp.16「製品保護上の注意」の「USB FDD」をお読みになり、取り扱い上の注意を確認してください。

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

① FDDイジェクトボタン
FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

② FDDアクセスランプ
メディアへのアクセス中に点灯･点滅します。

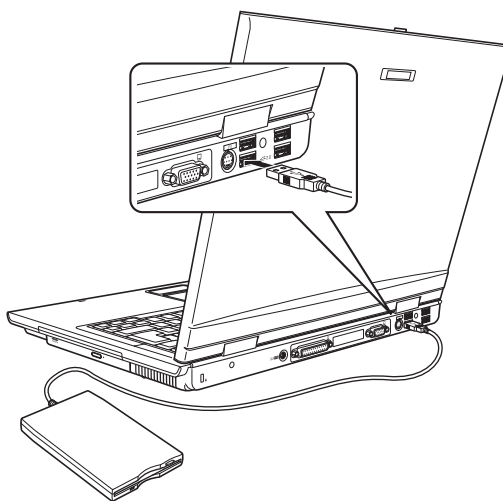
③ USBコネクタ
本機のUSBコネクタに接続します。

FDDの接続と取り外し

接続

FDDの接続方法は次のとおりです。接続は、本機の電源が入/切どちらの状態でも行うことができます。

1 **FDD のUSB コネクタの向きを合わせて、本機背面のUSB コネクタ（ ）に差し込みます。**

本機背面には、4 個のUSBコネクタが装備されており、どのコネクタにも接続できます。

2 **認識されると、タスクバーに次のアイコンが表示されます。**

〈Windows XP〉

〈Windows 2000〉

取り外し

USB FDD の取り外し方法は、次のとおりです。

Windows XPの場合

1. タスクバーに表示されている次のアイコンをクリックします。

2. 「USB Floppy - ドライブを安全に取り外します」を選択しクリックします。
3. 「ハードウェアの取り外し」画面が表示されたら、USB Floppy ドライブを選択し、[停止]をクリックします。
4. 「・・・は安全に取り外すことができます。」と表示されたら、FDDのUSBコネクタを本機から取り外します。

Windows 2000の場合

1. タスクバーに表示されている次のアイコンをダブルクリックします。

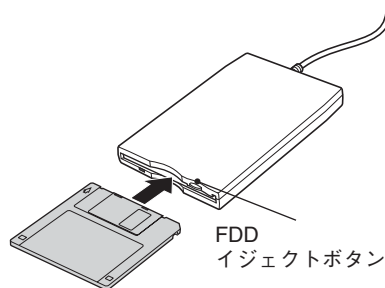
2. USB FDDを選択して、[停止]をクリックします。
3. 「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。
4. 「・・・は安全に取り外すことができます。」と表示されたら、[OK]をクリックして、FDDのUSBコネクタを本機から取り外します。

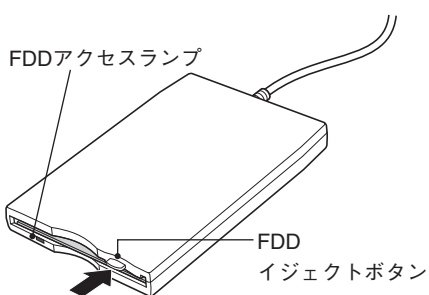
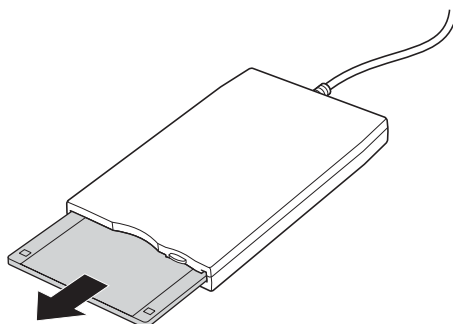
FDのセットと取り出し

- FDD アクセスランプ点灯中に FD を取り出したり、コンピュータを再起動しないでください。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

1 ラベル面を上に向け、FDD に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

2 正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

取り出し方法

1 FDD アクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

2 FD が飛び出しますので、静かに引き抜きます。

FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や、登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。

- FD をフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
- Windows XPでは720KBのFDをフォーマットできません。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。

Windows 2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、FDを入れかえて下記手順3～5を繰り返してください。

1 FDDにFDをセットします。

2 [スタート]－「マイコンピュータ」をクリックします。(Windows 2000では、「マイコンピュータ」をダブルクリックします。)

3 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。

4 [開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は[OK]をクリックします。

5 **「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。**

続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順4～5をくり返します。

6 **[閉じる]をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。**

データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

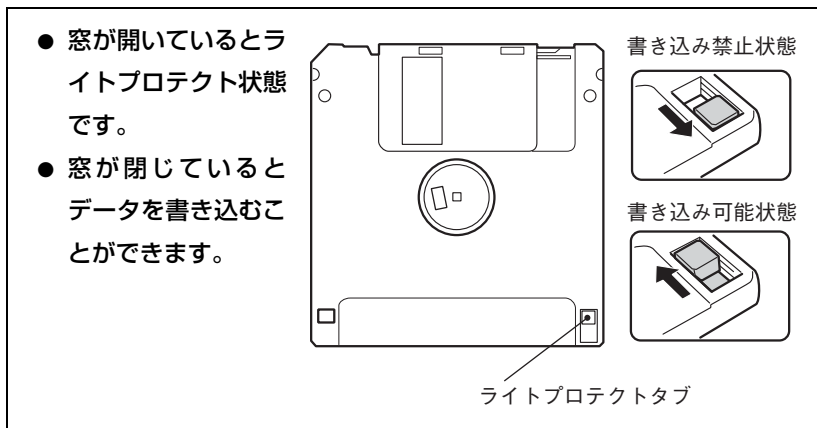
FDから起動させるときは

FDから起動させるときは、起動させる前に、「BIOS Setupユーティリティ」-「Boot」メニュー画面で、「1st Boot Device」を「Removable Dev.」に設定する必要があります。

p.205「Bootメニュー画面」

設定後、FDDにFD(システムが登録されたFD)をセットしてから、本機の電源を入れます。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくと安心です。

HDD(ハードディスクドライブ)を使う

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。本機では、次のHDDを使用することができます。

● 内蔵HDD

本機には、1基のHDDが内蔵されています。購入時の内蔵HDDには、Windowsがインストールされています。

● セカンドHDD(オプション)

セカンドHDDには、内蔵HDDのデータをバックアップしたり、大容量のデータを登録したりすることができます。セカンドHDDは、モジュラーベイに装着して使用します。

p.87「モジュラーベイを使う」

● 誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

・HDDを分解しないでください。

・アクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、再起動しないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

・セカンドHDDを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。

● HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

● 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、ショックから守るようにしてください。

データのバックアップ

HDDの重要なデータは、別のメディアに予備を作成（バックアップ）しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。バックアップには、次のような方法があります。

- 重要なファイルを作成したら、必ずFDやCD-Rなど別のメディアにも登録しておく。
- 専用のバックアップソフトウェアを使用して複数のファイルを一度にバックアップする。

購入時のHDD領域について

内蔵HDD

購入時の内蔵HDDは、すべての容量が1つの領域として確保されNTFSでフォーマットされています。

HDD領域の構成を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

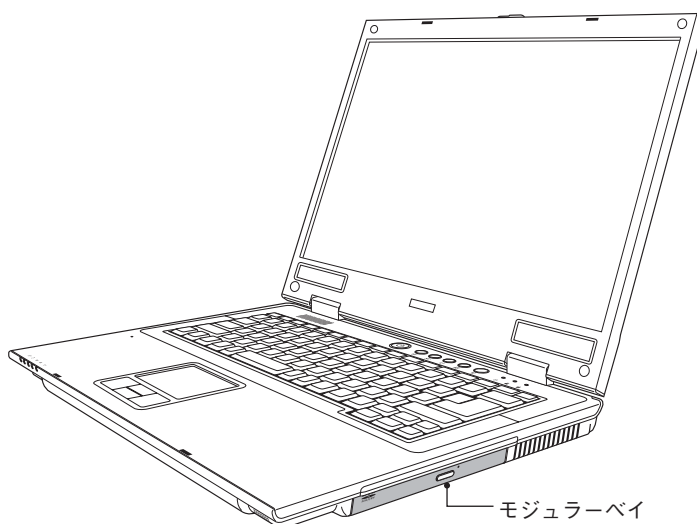
p.209「ソフトウェアの 再インストール」

セカンドHDD（オプション）

購入時のセカンドHDDは、HDD領域が作成されていません。セカンドHDDをはじめて使用する場合は、HDD領域を作成する必要があります。

p.255「HDD領域の作成」

モジュラーベイを使う

本機右側面にはモジュラーベイが装備されています。購入時、本機のモジュラーベイには、スリムドライブが装着されています。スリムドライブを取り外して、オプションのモジュラーベイモジュールを装着することができます。モジュラーベイモジュールは簡単に交換できるため、用途に応じて使い分けることができます。

注意

- モジュラーベイには、弊社が指定した以外の機器を装着しないでください。本機がショートして火災の原因となります。
- モジュラーベイに何も装着しない状態で、本機を使用しないでください。本機内部にホコリやゴミなどが付着して、火災の原因となります。必ずモジュラーベイモジュールを装着してお使いください。

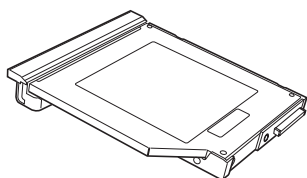
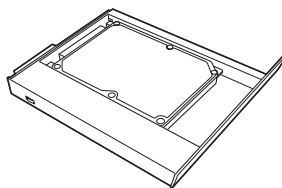
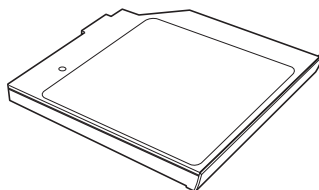
制限

モジュラーベイモジュールの分解、改造を行わないでください。

コンピュータの基本操作

装着可能なモジュラーベイモジュール

モジュラーベイには、次のモジュラーベイモジュールが装着できます。

スリムドライブ

セカンドHDD（オプション）

セカンドバッテリ（オプション）

各モジュラーベイモジュールの使い方は、次の参照先をご覧ください。

使用用途	参照先
スリムドライブを使う	p.92「スリムドライブを使う」
セカンドHDDを使う	p.50「セカンドHDDモジュール（オプション）の準備」
セカンドバッテリを使う	p.58「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

モジュラーベイモジュールの交換

ここでは、スリムドライブを取り外してオプションのモジュラーベイモジュールを装着する手順について説明します。

- モジュラーベイモジュールの向きを間違えて、モジュラーベイに装着しないでください。無理に取り付けると外せなくなったり、破損したりする恐れがあります。
- モジュラーベイモジュールの交換は、必ず本機の電源を切ったあとで行ってください。
- 使用直後のモジュラーベイモジュールは、高温になっている可能性があります。交換の際は、注意してください。

モジュラーベイモジュールの交換は、次の手順で行います。

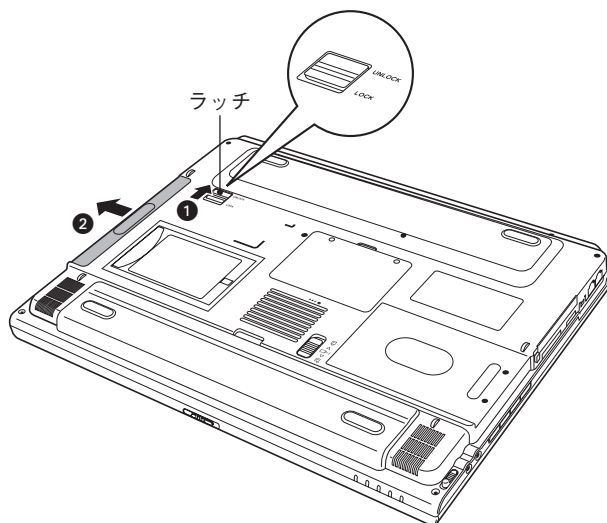
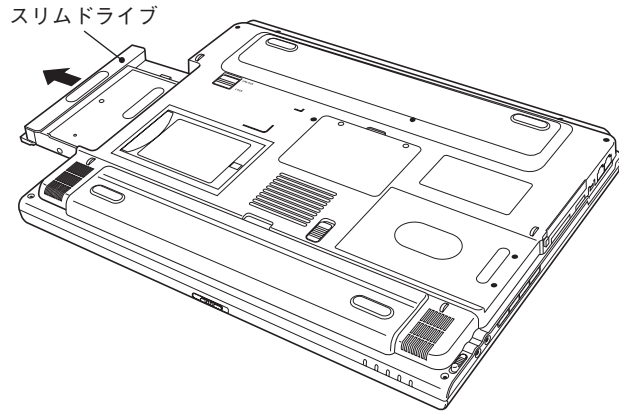
1 **コンピュータの電源を切ります。**

2 **本機に接続されているすべてのケーブルを外します。**

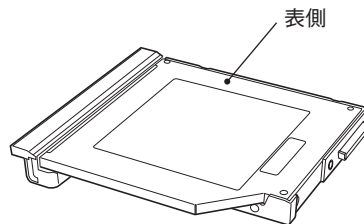
3 **本機底面を上にして置きます。**

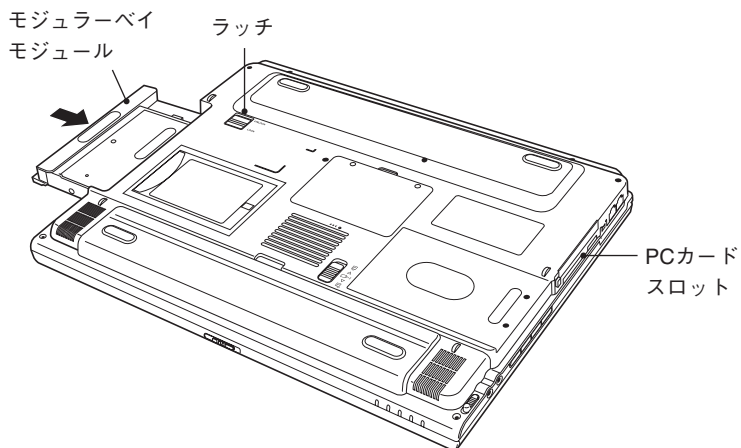
4 **スリムドライブをモジュラーベイから取り外します。**

❶ ラッチを矢印の方向にスライドさせます。

❷ ラッチをスライドさせたまま、スリムドライブを矢印の方向に引きます。

❸ スリムドライブをモジュラーベイから引き抜きます。

5 オプションのモジュラーベイモジュールをモジュラーベイに取り付けます。

❶ モジュラーベイモジュールをモジュラーベイに差し込みます。

モジュラーベイモジュールの表側を下に向けてモジュラーベイに差し込みます。

<モジュラーベイモジュール>

❷ 本機のPCカードスロット側を軽く手で押さえながら、モジュラーベイモジュールを矢印の方向に押し込みます。正しく装着すると、「カチッ」と音がしてモジュラーベイモジュールがラッチで固定されます。

6 本機のLCDユニット側を上にして置き、取り外したケーブルを取り付けます。

これでモジュラーベイモジュールの交換は完了です。

取り外したスリムドライブは、ごみやホコリなどが付着しないようにして大切に保管してください。

コンピュータの基本操作

スリムドライブを使う

本機右側面のモジュラーベイには、標準でスリムドライブが装着されています。本章では、メディアのセットや取り出しなどの操作方法や基本的な機能について説明します。

購入時に選択されたドライブの種類により使用できるメディアや機能が異なります。CD-ROMドライブ以外のスリムドライブをお使いの場合、デスクトップ上に登録されているスリムドライブのPDFマニュアルもあわせてご覧ください。

スリムドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

本機では、CD(コンパクトディスク)の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクについては、動作保証しておりません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

適応メディア

CD-ROMドライブモデルで使用できるメディアは、次のとおりです。

		読み込み (Read)	書き込み (Write)
CDメディア	CD-R	○	×
	CD-RW	○	×
	CD-ROM	○	×

CD-ROMドライブモデルでは、DVDメディアの読み込みまたは書き込みはできません。

なお、CD-ROMドライブモデル以外のスリムドライブに関する適応メディアについては、デスクトップ上に登録されているスリムドライブのPDFマニュアルをご覧ください。

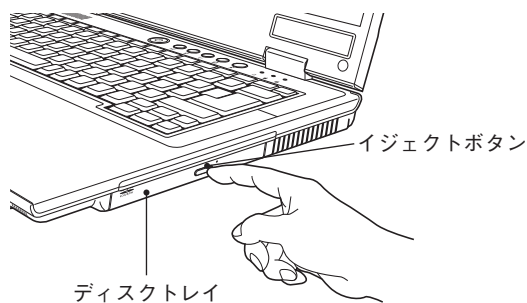
 『スリムドライブのPDFマニュアル』

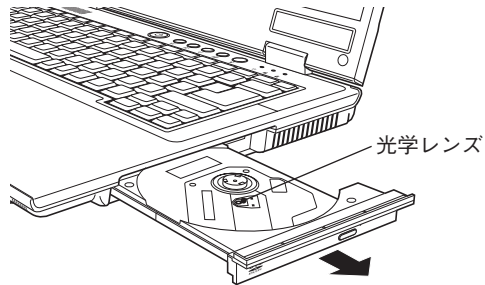
メディアのセットと取り出し

メディアのセットと取り出し方法について説明します。

- スリムドライブアクセス中(アクセスランプ点滅・点灯中)にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動しないでください。
- ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露(水滴が付着する状態)します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。

セット方法

1 イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。

2 ディスクトレイを静かに引き出します。

光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。
メディアのデータが読めなくなります。

3 印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。

4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

取り出し方法

1 アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。

2 メディアをディスクトレイから取り出します。

3 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

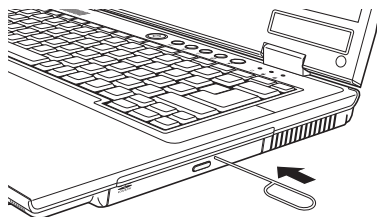
強制的なメディアの取り出し

次のような場合には、強制的にメディアを取り出すことができます。

- スリムドライブが故障して、メディアが取り出せない場合
- メディアをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

1 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

p.54「電源の切り方」

2 イジェクトホールに先が細く丈夫なもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。

3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出し、メディアを取り出します。

メディアの種類

CD、DVDメディアには以下のような種類があります。使用できるメディアは、お使いのスリムドライブにより異なります。お使いのスリムドライブで使用可能なメディアは、デスクトップ上のスリムドライブPDFマニュアルでご確認ください。

● CD-ROM

データ、音楽、画像などが登録されている読み込み専用メディアです。書き込みをすることはできません。

● CD-R

最大700MBの容量を持ち、データなどを1度だけ書き込むことが可能なメディアです。書き込まれたデータなどを消去したり、移動したりすることはできません。ただし、マルチセッションという方法により、CD-Rメディアに空き容量があれば、繰り返し追記することができます。

● CD-RW

最大700MBの容量を持ち、書き換え可能なメディアです。書き込んだデータをフォーマットすることで、繰り返し書き込みが行えます。

● DVD-ROM

CD-ROMより大容量のデータ、音楽、画像などが登録されている読み込み専用メディアです。書き込みをすることはできません。

● DVD+R、DVD-R

最大4.7GBの容量を持ち、データなどを1度だけ書き込むことが可能なメディアです。マルチセッションという方法により、空き容量があれば、繰り返し追記することができます。

● DVD+RW、DVD-RW

最大4.7GBの容量を持ち、書き換えが可能なメディアです。大容量のデータの保存や、DVD VIDEO形式でオリジナルDVD VIDEOを作成することができます。メディアをフォーマットすることにより、繰り返し書き込みが行えます。

● DVD-RAM

片面タイプは最大4.7GB、両面タイプは最大9.4GBの容量を持ち、フォーマットすることで、繰り返し書き込みが可能なメディアです。大容量のデータの保存や、DVD VIDEO形式でオリジナルDVDを作成することができます。

DVD-RAMには、両面タイプがあります。表面、裏面を入れ替えることにより、ほかのDVDメディアに比べ、2倍の9.4GBのデータを読み書きできます。

CDメディアの読み込み・再生

スリムドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CD、ビデオCDや、フォトCDなどのメディアを再生することができます。これらのメディアの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

メディアの再生

本機に装着されているスリムドライブは、メディアの認識に時間がかかることがありますが、不具合ではありません。
また、メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

DVDメディアの読み込み・再生

DVDメディアの読み込み・再生機能のあるスリムドライブでは、データが登録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。CD-ROMドライブにこの機能はありません。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD再生機能のあるスリムドライブの場合、DVD VIDEO再生のためのソフトウェア「Win DVD」がインストールされています。Win DVDの詳しい使用方法は「Win DVD CD-ROM」に登録されている『Win DVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。

Windows XP　：［スタート］－「マイコンピュータ」－「CD-ROM」アイコンを右クリック－「開く」－「Manual」

Windows 2000：「マイコンピュータ」－「CD-ROM」アイコンを右クリック－「開く」－「Manual」

メディアへの書き込み

書き込み機能のあるスリムドライブでは、データ、音楽、画像などをCDやDVDメディアに書き込むことができます。CD-ROMドライブにこの機能はありません。書き込み可能なメディアは選択されたスリムドライブにより異なります。お使いのスリムドライブで書き込み可能なメディアについては、デスクトップ上のスリムドライブPDFマニュアルをご覧ください。

スリムドライブには、バッファアンダーランエラー*の発生を自動的に防止する機能を搭載しています。そのため、書き込みエラーを未然に防ぐことができ、メディアを無駄にすることなく、安心して書き込みが行えます。

* 遅延無くメディアへ書き込まないと、発生するエラーのこと。
メディアへの書き込みは、ドライブ側のバッファメモリに一時的に書き込むデータを蓄えながら書き込んでいるが、書き込み中にコンピュータで他の作業をするなど、バッファメモリのデータを使い切ってしまうと発生する。

作成したDVD VIDEOは、市販のDVDプレイヤーで再生できますが、一部のDVDプレイヤーでは再生できない場合があります。

速度に対応したメディアを選ぶ

各メディアには書き込みの対応速度によって異なる種類があります。書き込みを行う場合は、書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

ライティングソフト

書き込み機能のあるスリムドライブで書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機には「B's Recorder GOLD」が添付されています。「B's Recorder GOLD」では、CDメディアやDVDメディアに、データや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

メディア書き込み時の注意

メディアへの書き込みを行っているときに、Windowsが省電力モードに切り替わると、メディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。
書き込みを始める前に、省電力機能を無効にしてください。

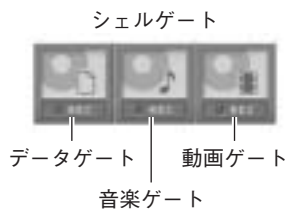
p.158「省電力機能を無効にする」

B's Recorder GOLDの使い方

CD/DVDメディアへの書き込みができるライティングソフト「B’s Recorder GOLD」の使い方は、『B’s Recorder GOLDユーザーズマニュアル』をご覧ください。マニュアルは、次の方法で見ることができます。

［スタート］－「（すべての）プログラム」－「B.H.A」－「B's Recorder GOLD PE」－「DOC」－「ユーザーズマニュアル」

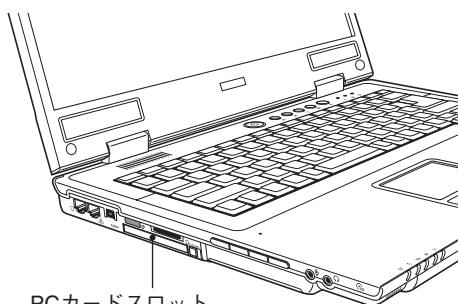
シェルゲート

デスクトップ上に表示されている「シェルゲート」を使うと、CD/DVDの作成をより簡単に行うことができます。

シェルゲートの使い方は、［スタート］－「（すべての）プログラム」－「B.H.A」－「B’s Recorder GOLD PE」－「DOC」－「シェルゲート」をご覧ください。

PCカードを使う

本機の左側面には、PCカードスロットが装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IまたはType IIのPCカード(Card Bus対応)を装着することができます。

PCカードスロット

制限

- PC カードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- FAXモデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に、電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力モードを無効にしてください。

  p.158「省電力機能を無効にする」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴らないFAXモデムカードもあります。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。
- PCカードの形状によっては装着できないカードがあります。

PCカードのセットと取り外し

制限

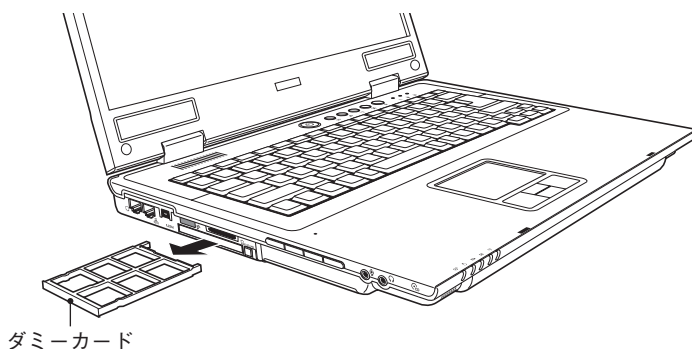
- PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- PCカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力モード時はPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

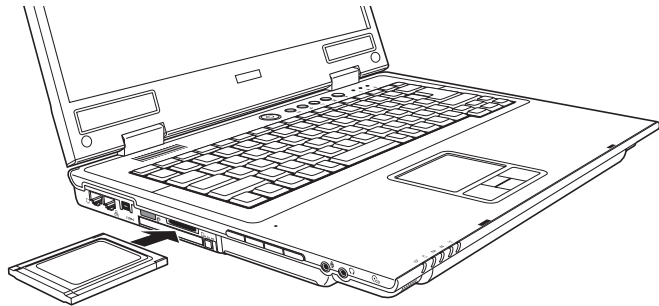
PCカードのセット

PCカードは、次の手順でセットします。

1 **PCカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、ダミーカードを取り外します。**

p.103「PCカードの取り外し」

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2 PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。

3 コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4 認識されるとPCカードが使用できます。

正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、タスクバーに「PCカード」アイコンが表示されます。

<Windows XP>

<Windows 2000>

PCカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中に「Windows CD-ROM」を要求された場合は、添付の「リカバリCD Disc1」をセットしてください(Windows 2000の場合は、Windows 2000のCDをご用意の上、セットしてください)。

参考

PCカードの内容の確認

タスクバーにある「PCカード」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの(安全な)取り外し」画面で[プロパティ]をクリックすると、PCカードの内容を確認することができます。

PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。

制限

本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。取り外す際は注意してください。

1 **「PCカードの終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。**

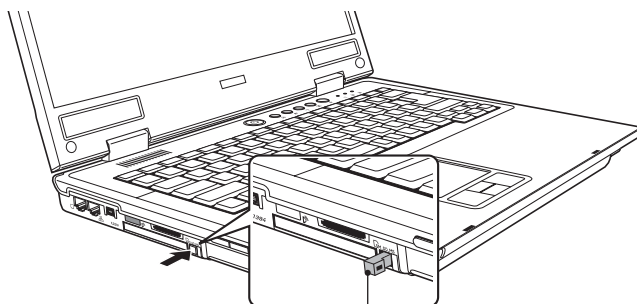
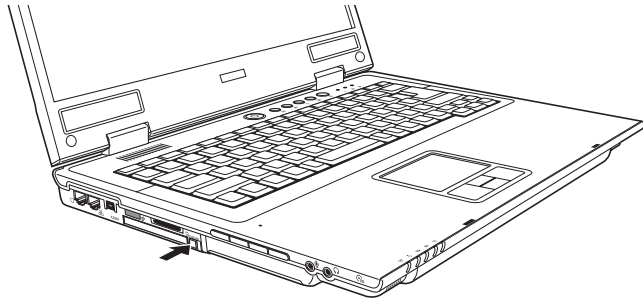
PCカードの終了処理は、次の手順で行います。

❶ タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。

❷ 取り外すPCカードを選択して[停止]をクリックします。

❸ 画面の指示にしたがいます。「安全に取り外すことができます。」と表示されたら、PCカードの終了処理は完了です。

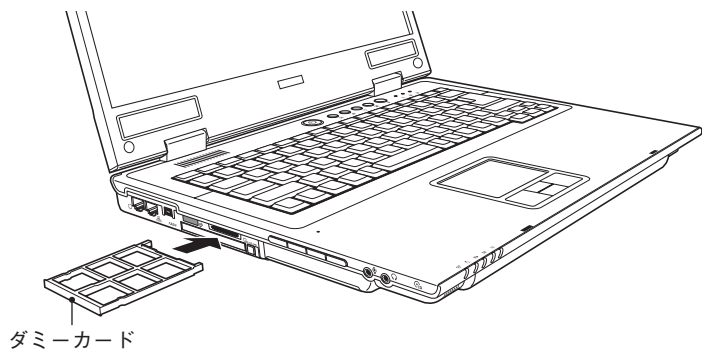
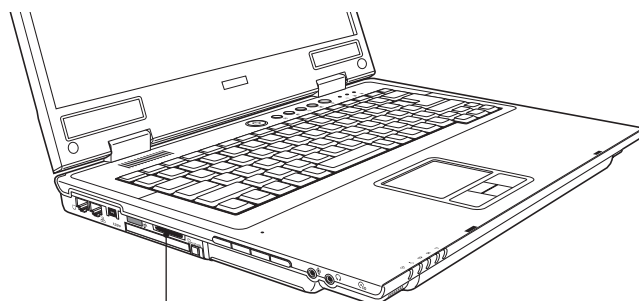
2 **PCカードイジェクトボタンを押すと、PCカードイジェクトボタンが出てきます。**

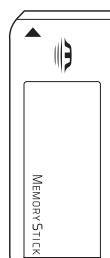
コンピュータの基本操作

3 **出てきたPCカードイジェクトボタンを再び押し込むと､PCカードが出ます。**

4 **出てきたPCカードをまっすぐに引き抜きます。**

取り外したPCカードは､専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

5 **ダミーカードをPCカードスロットにセットします。**

コンピュータ内部にホコリが入らないように､必ずダミーカードをセットしておいてください。

メモリカードを使う

本機左側面にはメモリカードスロットが装備されています。本機では、3種類のメモリカードを使用することができます。

本機で使用できるメモリカード

本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック(Pro対応)、マルチメディアカード、SDメモリーカードの3種類です。下記のイラストは、各メモリカード表面のイラストです。

<メモリースティック>　<マルチメディアカード>

<SDメモリーカード>

メモリカード使用時の注意

メモリカードを使用する前に、必ずお読みください。

- メモリカードにアクセス中は、メモリカードを抜かないでください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力機能を無効にしてください。
  p.158「省電力機能を無効にする」
- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックおよびメモリースティックProの高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカードのセットと取り出し

メモリカードを使用する前に、必ず「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

p.106「メモリカード使用時の注意」

メモリカードのセット

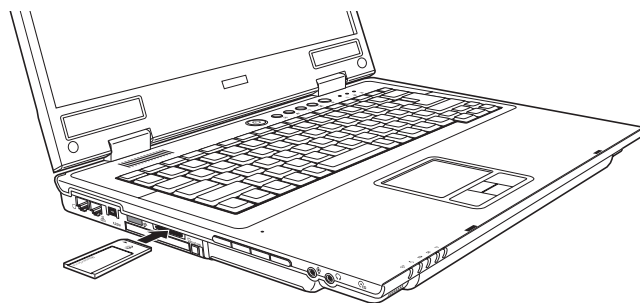
メモリカードは、次の手順でセットします。

1 **メモリカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、p.108「メモリカードの取り出し」を参照してダミーカードを取り外します。**

ダミーカードはメモリカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2 **メモリカードの表面を上に向けて、メモリカードスロットに「カチッ」と音がするまで挿入します。**

メモリカードの表面は、「本機で使用できるメモリカード」をご覧ください。

p.105「本機で使用できるメモリカード 」

3 **認識されると、メモリカードが使用できます。**

正しくセットされると、タスクバーにPCカードアイコンが表示されます。

〈Windows XP〉

〈Windows 2000〉

メモリカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中に「Windows CD-ROM」を要求された場合は、添付の「リカバリCD Disc1」をセットしてください(Windows 2000の場合は、Windows 2000のCDをご用意の上、セットしてください)。

メモリカードの取り出し

メモリカードは、次の手順で取り出します。

1 **「PCカード終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。**

PCカード終了処理

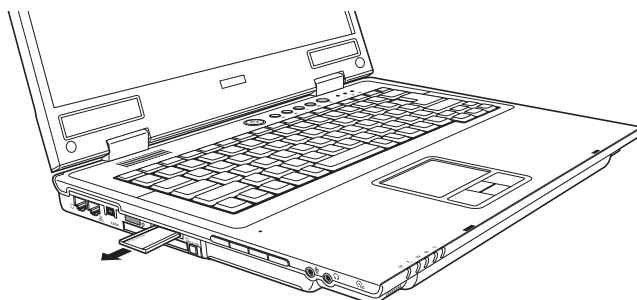
❶ タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。

❷「ハードウェアの安全な取り外し」画面で、「Ricoh SD/MMC Controller」を選択して、[停止]をクリックします。

❸「ハードウェアデバイスの停止」画面で、「Ricoh SD/MMC Controller」を選択して[OK]をクリックします。「･･･は、安全に取り外すことができます。」と表示されたら、PCカード終了処理は完了です。

2 **メモリカードを「カチッ」と音がするまで押すと、メモリカードが少し出ます。**

強く押すと、メモリカードが飛び出すことがあるので注意してください。

3 **メモリカードをまっすぐに引き抜きます。**

取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

4 **ダミーカードをメモリカードスロットにセットします。**

コンピュータ内部にホコリが入らないように、必ずダミーカードをセットしておいてください。

赤外線通信を使う

本機の左側面には赤外線通信ポートが装備されています。本機の赤外線通信ポートと赤外線通信機能を持つ機器の間で、データのやり取りができます。赤外線通信はケーブルの接続をせずに、簡単にデータの通信を行うことができます。
赤外線通信を行うためには、通信用のソフトウェアが別途必要です。また通信を行うコンピュータ同士では、お互いに同じソフトウェアを使用する必要があります。本章では、Windows標準の「ワイヤレスリンク」を使用して通信を行う方法について説明します。

本機の赤外線通信機能は、次の仕様に対応しています。

仕様(通信モード)	特長
FIR (Fast InfraRed)	通信速度4Mbps
SIR (Serial InfraRed)	通信速度115.2Kbps

本機は、通常FIRモードで通信を行います。通信を行う相手の機器がSIRモードのときは、本機の通信モードがSIRモードに自動で切り替わります。

赤外線デバイスの設定

本機で赤外線通信を行うためには、赤外線デバイスの設定が必要です。購入時には設定されていませんので設定を行ってください。

Windows XPの場合

Windows XPの赤外線デバイスの設定は、次の手順で行います。

1. [スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックします。
2. 「ハードウェア」タブ－[デバイスマネージャ]をクリックします。
3. 「赤外線デバイス」－「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。
4. 「詳細設定」タブをクリックします。
5. 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「HP HSDL-2300/3600」を選択して[OK]をクリックします。

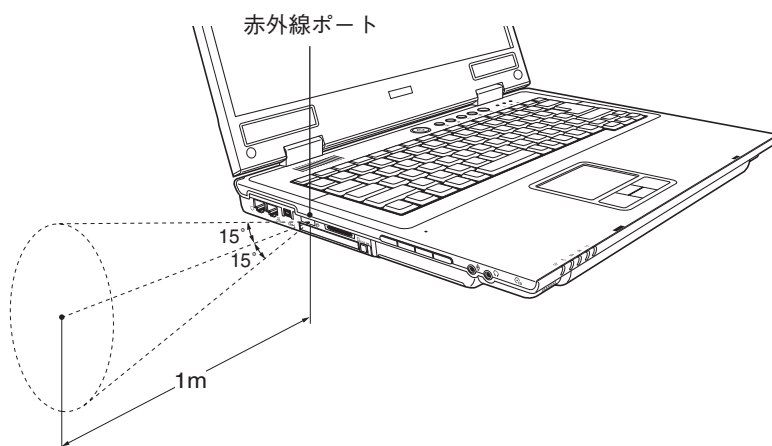
Windows 2000の場合

Windows 2000の赤外線デバイスの設定は、次の手順で行います。

1. [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「システム」をダブルクリックします。
2. 「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]をクリックします。
3. 「赤外線デバイス」-「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。
4. 「詳細設定」タブをクリックします。
5. 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「HP HSDL-2300/3600」を選択して[OK]をクリックします。

赤外線通信の実行

通信可能範囲

赤外線通信を行うときは、お互いの赤外線通信ポートが真正面に向い合うように設置して、通信してください。2つの赤外線通信ポートの位置は1m以内で、角度は垂直水平共に15度以内に設置します。

通信時の注意

- 赤外線通信機器の間に障害物を置かないでください。
- 赤外線通信中は、赤外線通信機器を動かさないでください。通信が切断されることがあります。
- 直射日光や蛍光灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たらないようにしてください。誤動作をすることがあります。
- オーディオ機器のリモコンやワイヤレスヘッドホンなどを赤外線通信ポートに向けないでください。誤動作をすることがあります。

赤外線通信の実行

Windowsの「ワイヤレスリンク」を使った赤外線通信は、次のとおり行います。

1 **2台の赤外線通信ポートを通信可能範囲に設置します。**

p.110「通信可能範囲」

2 **赤外線ポートを検出すると、タスクバーに「ワイヤレスリンク」アイコンが表示されます（Windows 2000の場合はデスクトップに表示されます）。**

3 **送信側の「ワイヤレスリンク」をダブルクリックします。**

4 **送信するファイルを指定して[送信]をクリックします。**

5 **受信側に、「このファイルを受信しますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。**

6 **「･･･正常にファイルを受信しました。」と表示されたら[閉じる]クリックします。**

受信されたファイルは、デスクトップ上に保存されます。

表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。
本機で表示可能な表示装置は次のとおりです。

- 本機LCDユニット
- 外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)
- テレビ

LCDユニット

本機には次のいずれかのLCD(液晶ディスプレイ)を搭載しています。

・15型　SXGA＋　最大解像度　1400×1050
・15.4型　WXGA　最大解像度　1280×　800
・15.4型　WSXGA+　最大解像度　1680×1050

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるもので故障ではありません。

・LCDは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。
・色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
・Windows の背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

明るさの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状態
Fn + F5	暗くなる
Fn + F6	明るくなる

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は次の方法で行います。

- 【Fn】+【F7】(LCD)を押す：本機が起動している状態で押すとバックライトを消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。
- LCDユニットを閉じる：LCD ユニットを閉じるとバックライトが消灯します。本機では、LCDユニットを閉じたときの動作の設定変更が行えます。

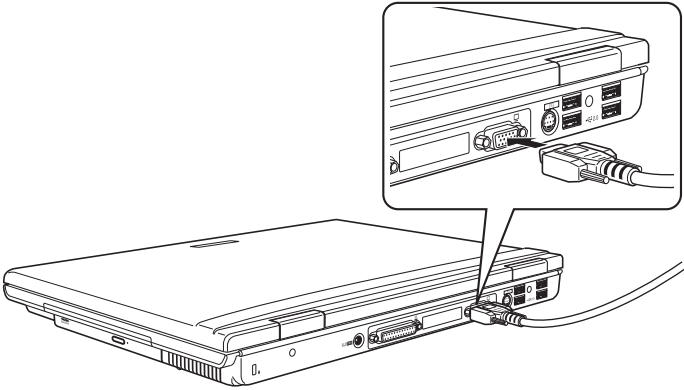
LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときにスタンバイモードや休止状態に移るなどの動作を設定できます。

初期値は「何もしない(Windows 2000では「なし」)」(バックライトの消灯)です。

設定は次のプロパティ画面から行います。

Windows XP　：［スタート］ー「コントロールパネル」ー「パフォーマンスとメンテナンス」ー「電源オプション」ー「詳細設定」タブ

Windows 2000：［スタート］ー「設定」ー「コントロールパネル」ー「電源オプション」ー「詳細」タブ

〈Windows XPの場合〉

外付けディスプレイ

ディスプレイの接続

本機では、外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)を接続して使用できます。ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1. **本機と外付けディスプレイの電源を切ります。**
2. **外付けデイスプレイの接続コードを本機背面のVGAコネクタ( )に接続します。**

3. **外付けディスプレイと本機の電源を入れます。**

ビデオプロジェクタへの接続

ビデオプロジェクタを使用する場合は、本機のVGAコネクタに接続します。

外付けディスプレイに表示するには

本機に外付けディスプレイを接続したときは、次の組み合わせで画面を表示することができます。

● LCD画面のみに表示

● 外付けディスプレイのみに表示

● LCD画面と外付けディスプレイに同じ画面を表示

● 大きな1つの画面を、LCD画面と外付けディスプレイに分割し、仮想的に並べて表示（マルチモニタ機能）

p.117「マルチモニタ機能」

表示装置の切り替え方法

●LCD画面と外付けディスプレイに同じ画面を表示する場合、外付けディスプレイでLCDとは違う解像度を設定していたときには、2つの装置の解像度のうち、低い解像度で表示されます。

●15.4型TFT WXGAモデルをお使いの場合、表示装置の切り替え（外付けディスプレイに表示など）は、LCD画面の解像度を1024×768ピクセルに変更してから行ってください。LCD画面が1280×800ピクセルのまま表示装置の切り替えを行うと、LCD画面と外付けディスプレイのどちらも正しく表示されなくなります。

●マルチモニタ機能への表示の切り替えや、マルチモニタ機能から別の表示への切り替えは、キーボードでは行えません。

p.117「マルチモニタ機能」

●動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードで表示装置の切り替えができないことがあります。

表示装置の切り替えは、次の2つの方法で行います。

● キーボードで操作する

Fn + F8（LCD/モニタ）を押すたびに表示装置が切り替わります。

表示装置の組み合わせは次のとおりです。

・ LCD Only

・ CRT Only

・ CRT+LCD

表示装置を切り替える場合は、接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置には切り替わりません。

コンピュータの基本操作

● コントロールパネルから操作する

コントロールパネルから切り替える場合は、次の画面で行います。

Windows XP　：[スタート]－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面」－「設定」タブ－「詳細設定」－「画面」タブ

Windows2000：[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「画面」アイコンをダブルクリック－「設定」タブ－[詳細]－「画面」タブ

①表示装置の切り替え
クリックして、表示・非表示を切り替えます。

モニタ：外付けディスプレイ
パネル：本機のLCD

③設定の反映
項目の設定が終わったらクリックします。以降は画面の指示に従います。

<Windows XPの場合>

②ディスプレイの優先度の設定
(LCD＋外付けディスプレイで表示させる場合)

どちらの装置の設定で画面を表示させるのかを設定します。

プライマリ：優先して表示させる装置

セカンダリ：プライマリにあわせて表示させる装置

どちらか一方の装置をプライマリ、もう一方の装置をセカンダリに設定してください。

マルチモニタ機能

マルチモニタ機能を使用すると、本機のLCD画面と外付けディスプレイ上に、大きな1つの画面を仮想的に上下左右に並べて表示できます。このため、2つのアプリケーションを別々の画面で表示することができます。

マルチモニタ機能の設定は、次の手順で行います。

● Windows XPの場合

Windows XPでの設定は、次の画面で行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「解像度を変更する」

分割した画面を表示するディスプレイの位置関係を示しています。
通常は「1」がLCD、「2」がCRTです。
この設定ではLCDの右側をCRTが表示します。
「2」をドラッグして位置を変更します。

マルチモニタ機能を有効にする
「ディスプレイ」で「2」を選択してチェックを付けるとマルチモニタ機能が有効になります。設定後は［適用］をクリックします。

マルチモニタ機能を無効にするには

「Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」のチェックを外して［適用］をクリック（このとき画面が乱れる場合があります）します。画面表示が「LCD Only」に切り替わります。

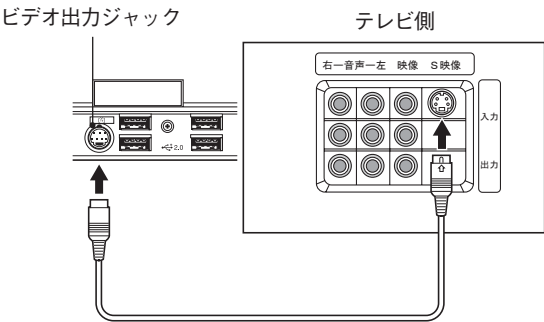
● Windows 2000の場合

Windows 2000での設定は、次の画面で行います。

[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「画面」アイコンをダブルクリック－「設定」タブ－「詳細」－「画面」タブ

マルチモニタ機能を無効にするには

モニタまたはパネルの アイコンをクリックし、電源が切れた状態にします。

「適用」ボタンをクリックし、画面の指示に従って操作します。

テレビ

S端子ケーブルを使用して、本機とテレビを接続すると、テレビに表示できます。S端子ケーブルは市販のものをご利用ください。

ビデオ出力ジャックから出力される信号は、一般のテレビで表示可能に変換したNTSC信号です。NTSC信号では、コンピュータ用のディスプレイに使用されるアナログRGB信号ほどきめ細かい表示を行うことはできません。

接続

1 **テレビと本機の電源を切ります。**

2 **市販のS端子ケーブルを使用して、テレビのビデオ入力コネクタ(S端子)と、本機のビデオ出力ジャック(TV)を接続します。**

3 **テレビと本機の電源を入れます。**

表示の切り替え方法

Fn + F8 (LCD/■)を押すたびに表示装置の組み合わせが切り替わります。接続している表示装置を自動的に認識するため、テレビが接続されている場合にはテレビに表示できます。テレビは次の表示装置の組み合わせで表示できます。

- TV Only
- TV+LCD
- LCD Only

解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更や、そのほか表示に関する設定について説明します。変更時には、Windowsのヘルプも参照してください。

セーフモードでの起動

本機のディスプレイ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

 p.237「LCDユニットの不具合」

解像度や表示色の変更方法

Windows XPの場合

1. [スタート]－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。

2. 「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。

3. 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

Windows 2000の場合

1 [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「画面」アイコンをダブルクリックします。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「画面の領域」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。

4 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。
LCDと外付けディスプレイに同時に表示する場合は、同じ画面が表示されます。

- 下記の表以外の設定を選択することもできますが、それらの設定に関しては動作保証していません。
- 接続する外付けディスプレイの仕様により、下記の解像度や表示色を設定できない場合があります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

Windows XPの場合

Windows XPで表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。
下記の表中の解像度では、中(16ビット)と最高(32ビット)の表示色が選択できます。
なお、本機では下記の表以外の設定をすることも可能ですが、仮想スクリーン表示になります。

LCDまたは外付けディスプレイのみに表示

表示装置 / 解像度	LCD			外付けディスプレイ
	15型TFT SXGA+	15.4型TFT WXGA	15.4型TFT WSXGA+	
800×600	○	○	○	○
1024×768	○	○	○	○
1280×800	−	○	−	−
1280×1024	○	−	○	○
1400×1050	○	−	−	−
1680×1050	−	−	○	−
1600×1200	−	−	−	○

LCDと外付けディスプレイで同じ画面を表示/マルチモニタ機能

表示装置 / 解像度	LCD(15型TFT SXGA+)と外付けディスプレイ	LCD(15.4型TFT WXGA)と外付けディスプレイ	LCD(15.4型TFT WSXGA+)と外付けディスプレイ
800×600	○	○	○
1024×768	○	○	○
1280×1024	○	−	○
1400×1050	○*	−	−
1680×1050	−	−	○*

* マルチモニタ機能のみ

Windows 2000の場合

Windows 2000で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。

下記の表中の解像度では、256色、High Color(16ビット)、True Color(32ビット)の表示色が選択できます。

なお、本機では下記の表以外の設定をすることも可能ですが、仮想スクリーン表示になります。

LCDまたは外付けディスプレイのみに表示

表示装置 / 解像度	LCD			外付けディスプレイ
	15型TFT SXGA+	15.4型TFT WXGA	15.4型TFT WSXGA+	
640×480	○	○	○	○
800×600	○	○	○	○
1024×768	○	○	○	○
1280×800	−	○	−	−
1280×1024	○	−	○	○
1400×1050	○	−	−	−
1680×1050	−	−	○	−
1600×1200	−	−	−	○

LCDと外付けディスプレイで同じ画面を表示/マルチモニタ機能

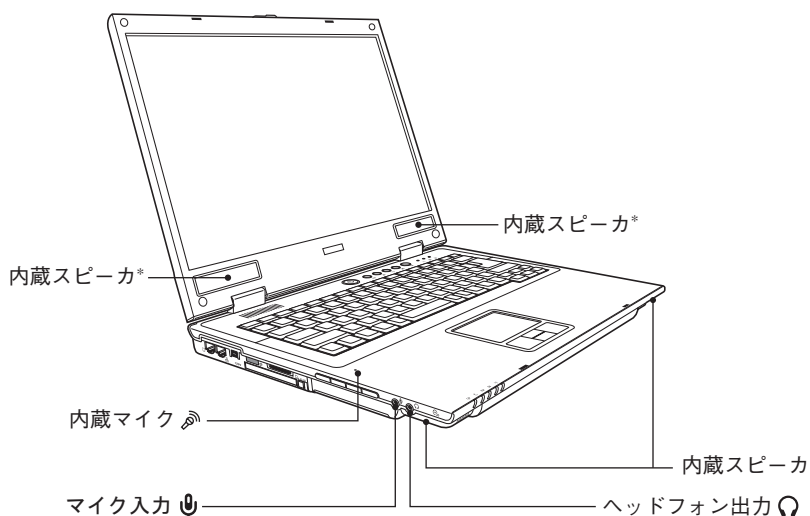
表示装置 / 解像度	LCD(15型TFT SXGA+)と外付けディスプレイ	LCD(15.4型TFT WXGA)と外付けディスプレイ	LCD(15.4型TFT WSXGA+)と外付けディスプレイ
640×480	○	○	○
800×600	○	○	○
1024×768	○	○	○
1280×1024	○	−	○
1400×1050	○*	−	−
1680×1050	−	−	○*

* マルチモニタ機能のみ

サウンド機能を使う

本機には、サウンド機能が搭載されています。

注意

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

*15.4型液晶ディスプレイモデルのみ

内蔵ステレオスピーカ

本機底面およびLCDユニット下部の左右(15.4型液晶ディスプレイモデルのみ)には、ステレオスピーカが内蔵されています。この内蔵スピーカを使って、音源からの音声を出力することができます。

音量の調節

スピーカの音量は次のキーを押して調節します。

Fn + F10 ( ):ミュートになります。もう一度押すとミュートが解除されます。

Fn + F11 ( ):音量が小さくなります。

Fn + F12 ( ):音量が大きくなります。

PCカードやアプリケーションによっては、ファンクションキーで音量調節ができないものがあります。詳しくは、PCカードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

内蔵マイク

本機のキーボード左下には、マイク(モノラル)が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。
内蔵マイクでの録音と再生にはWindows標準のサウンドユーティリティ(サウンドレコーダー)を使用します。録音した音声はWAVEファイルとして保存できます。
サウンドユーティリティは次の場所に登録されています。

Windows XP　：［スタート］-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」
Windows 2000：［スタート］-「プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」

内蔵マイクの設定

内蔵マイクを使用して録音をする場合は、次の設定が必要です。

1 次の方法で、「サウンドとオーディオのプロパティ」(Windows 2000の場合は、「サウンドとマルチメディアのプロパティ」)を開きます。

Windows XP　：［スタート］-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「サウンドとオーディオデバイス」
Windows 2000：［スタート］-「設定」-「コントロールパネル」-「サウンドとマルチメディア」

2 「オーディオ」タブを開きます。

3 「録音」項目の［音量］をクリックします。

4 「オプション」メニュー-「トーン調整」をクリックします。

5 「マイク」項目の［トーン］をクリックします。

6 「1 マイクブースト」にチェックを付けて［閉じる］をクリックします。

内蔵マイクを使用しない場合は、必ずチェックを外してください。

これで、マイク録音時の設定は終了です。

外部オーディオ機器などの接続

本機左側面には、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

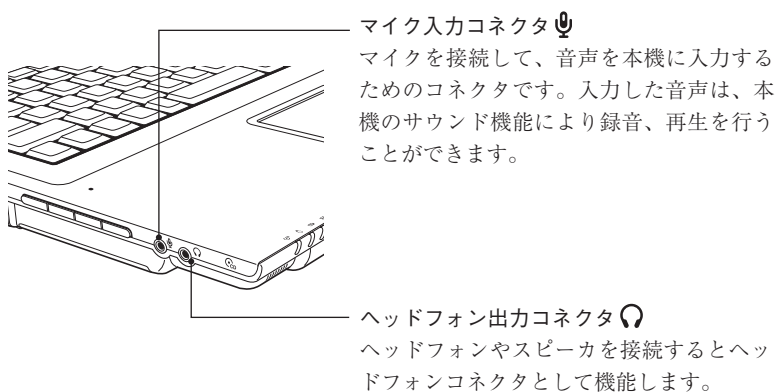
スピーカやマイクの接続

スピーカやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は自動的に無効になります。

マイク入力コネクタ

マイクを接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

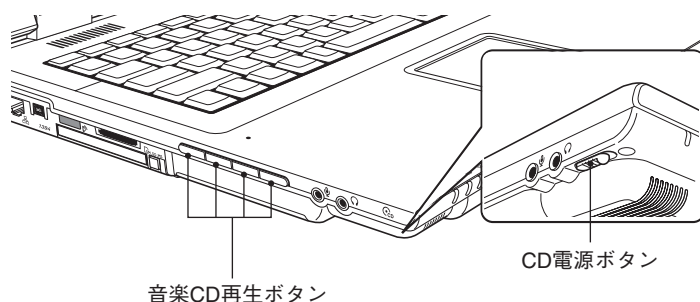
ヘッドフォン出力コネクタ

ヘッドフォンやスピーカを接続するとヘッドフォンコネクタとして機能します。

音楽CD再生機能

モジュラーベイにスリムドライブが装着されている場合、本機左側面にある音楽CD再生ボタンで、音楽CDの再生ができます。
この機能は、コンピュータの電源が切れているときでも、ACアダプタやバッテリから電源供給がされていれば使用することができます。

本機では、CD(コンパクトディスク)の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクについては、動作保証しておりません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

ボタンの機能

音楽CD再生ボタンの機能は次のとおりです。

音楽CD再生ボタン	機　能
CD電源ボタン	コンピュータの電源が切れているときに、CD電源の入/切を行います。
再生ボタン ▶II	再生/一時停止をします。
停止ボタン ■	再生を停止します。 コンピュータの電源が切れている場合は、停止中に押すと、ディスクトレイを開きます。
頭出しボタン ▶▶I	1回押すと、次のトラックへ進みます。長押しで、音量が大きくなります。
頭出しボタン I◀◀	1回押すと、前のトラックへ戻ります。長押しで、音量が小さくなります。

コンピュータの電源が切れている状態での使い方

音楽CD再生を行う手順は、次のとおりです。

1. **CD電源ボタンを手前にスライドして電源を入れます。**
   電源が入ると、CDランプ(CD)が点灯します。

2. **音楽CDをCD-ROMドライブにセットして、音楽CD再生ボタンで操作します。**
   音楽CDをセットすると、自動再生します。

3. **音楽CDの再生を終了するときは、[■]ボタンを押してCDの再生を停止します。**

4. **音楽CDを取り出す場合は、もう一度[■]ボタンを押します。CD-ROMドライブのディスクトレイが少し飛び出します。**

5. **CD電源ボタンを手前にスライドさせて、電源を切ります。**
   電源が切れると、CDランプ(CD)が消灯します。

音楽CD再生機能を無効にする

音楽CD再生機能を使用しない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で音楽CD再生機能を無効にすることができます。
コンピュータの電源が切れている状態でのみ無効になります。

p.199「Securityメニュー画面」−「I/O Interface Security」−「Audio DJ」

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りをするためには、インターネットへの接続が必要です。ナローバンドとブロードバンドから接続方法を選択し、プロバイダと契約することにより、インターネットに接続することができます。

接続方法の選択（ナローバンドとブロードバンド）

インターネットへ接続するには、まず接続環境を選択します。接続環境は、大きく分けてナローバンドとブロードバンドの２つがあります。使用頻度や通信速度などを考慮して、使い方にあわせて選択します。

接続方法	接続環境	料金	インターネットでの通信速度イメージ
アナログ	ナローバンド	安い	
携帯			
PHS			
ISDN			
CATV	ブロードバンド		
ADSL			
FTTH		高い	

＊料金や通信速度は、サービス内容や接続環境により異なります。

ナローバンド

ナローバンドとは、電話回線や携帯電話やPHSからプロバイダのAP（アクセスポイント）へダイヤルアップ接続してインターネットに接続する環境のことを言います。ナローバンドで使用できる接続方法は次のとおりです。

- ISDN回線
- アナログ回線
- 携帯・PHS

ナローバンドの通信速度は1MBに満たない速度ですが、利点として、日本全国どこからでもアクセスすることができます。アナログ回線や携帯電話、PHSはインターネット接続中は電話の使用ができません。
ISDN回線やアナログ回線を使用する場合、TA（ターミナルアダプタ）またはFAXモデムに接続します。回線によっては、工事が必要になる場合があります。
携帯電話やPHSを使用する場合は、別途、接続機器が必要です。
サービスの詳細は通信サービス業者（NTTなど）へお問い合わせください。

ブロードバンド

ブロードバンドとは、FTTH(光ファイバー)やADSLおよびCATVでの接続方法でインターネットに接続する環境のことを言います。ブロードバンドで使用できる接続方法は次のとおりです。

- FTTH(光ファイバー)
- ADSL
- CATV

ブロードバンドの場合、一定の料金で常時接続することができます。通信速度は、設置環境によって異なりますが、8MB以上の高速通信が可能です。ナローバンドと比較した場合、最大で約780倍もの速さでインターネット接続ができます。また、インターネット接続中でも、電話を使用することが可能です。

ブロードバンドの場合、ブロードバンド専用モデムと本機背面のLANコネクタをLANケーブルで接続します。専用モデムや接続の詳細、サービスの詳細は、通信サービス業者(NTTなど)へお問い合わせください。

プロバイダとの契約

インターネットに接続するには、プロバイダと契約する必要があります。接続方法を選択したら、選択した接続方法に対応しているプロバイダと契約します。プロバイダは、サービスや料金プランなどを考慮して選びましょう。サービスや料金プランなどの詳細は、プロバイダへお問い合わせください。

インターネットを使う上での注意

インターネットを使って、ホームページや電子メールを利用すると、簡単に情報を得ることができたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気をつけてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。
- インターネット上の情報は、正しくない可能性があります。正しい情報であるかどうかを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。

- 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧すると、コンピュータに障害をもたらす場合があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、コンピュータに障害をもたらしたり、ナローバンドの場合、高額な電話料金などを請求されることがあります。
- ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。本機に添付の「Norton AntiVirus2004」のようなウィルスを検出・駆除するためのソフトウェアを使い、定期的にウィルスチェックすることをおすすめします。

  『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』
- コンピュータウィルスの種類によっては、「Windows Upadate」を行うことにより感染を防ぐことができます。定期的に「Windows Update」を行うことをおすすめします。

  p.51「Windows Updateについて」

FAXモデムを使う

本機には56Kbps（V.92対応）の通信速度に対応したFAXモデムが搭載されています。FAXモデムを使用すると、ナローバンドでの通信が可能です。

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

・ 構内交換機（PBX）
・ 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線について

本機のFAXモデムは、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。

ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ダイヤル回線（パルス）：回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- プッシュ回線（トーン）：押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

- **PBXやホームテレホン回線への接続**

  本機のFAXモデムは、構内交換機（PBX）やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。

● キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.92*通信方式により、最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は、56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、48000bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。

*V.92 : ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

ATコマンドについて

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「ドライバCD」の「MODEM」−「ATコマンドリファレンス.pdf」(英文)をご覧ください。

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 ダイヤル情報の設定画面を表示します。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」

2 「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います（ダイヤルアップ接続の設定）。
本書の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
接続ユーザー名	ユーザ名、コネクションID 、PPPログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID 、ID番号、接続アカウント、ダイアルアップログイン名
接続パスワード	パスワード、PPPパスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mailアカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mailアカウント、アカウント名
メールパスワード	Mailパスワード、パスワード、初期パスワード
受信メールサーバ	メールサーバ、受信メールサーバ(POP3)
送信メールサーバ	メールサーバ、送信メールサーバ(SMTP)

ダイヤルアップ接続の設定をする(Windows XP)

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1. [スタート]－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「新しい接続ウィザード」をクリックします。

2. 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ]をクリックします。

3. 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で[次へ]をクリックします。

4. 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

6 「接続名」と表示されたら、アクセスポイントの名前を入力して［次へ］をクリックします。

7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、アクセスポイントの電話番号を入力して［次へ］をクリックします。

8 「インターネット アカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して［次へ］をクリックします。

9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

10 ［スタート］－「接続」－「（手順6で設定したアクセスポイントの名前）」をクリックします。

11 ［プロパティ］をクリックします。

12 プロバイダからDNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。

❶「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP）」の［プロパティ］をクリックします。

❷「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。

❸「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS（ネーム）サーバのアドレスを入力し、［OK］をクリックします。

13 「全般」タブ－「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて［OK］をクリックします。

14 ［キャンセル］をクリックします。

p.139「回線接続前の設定（Windows XPのみ）」に進みます。

ダイヤルアップ接続の設定をする（Windows 2000）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 [スタート]－「プログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「インターネット接続ウィザード」をクリックします。

2 「インターネット接続ウィザードの開始」が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、･･･」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。

4 「ステップ1：インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、アクセスポイント電話番号を入力します。

5 プロバイダからDNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合は[詳細設定]をクリックして次の設定を行います。

❶「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。

❷「ISP による DNS（ドメインネームサービス）アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。

❸「プライマリDNSサーバー」、「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS（ネーム）サーバのアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

6 「ステップ1」画面で[次へ]をクリックします。

7 「ステップ2：インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、[次へ]をクリックします。

8 「ステップ3：コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、[次へ]をクリックします。

9 **「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。**

10 **プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。**

❶「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、[次へ]をクリックします。

❷「電子メールアドレス」を入力して[次へ]をクリックします。

❸「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して[次へ]をクリックします。

❹「アカウント名」と「パスワード」にメールアカウントとメールパスワードを入力して[次へ]をクリックします。

11 **「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら[完了]をクリックします。**

「今すぐインターネットに…」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動して、「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。

p.141の「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」に進みます。

回線接続前の設定(Windows XPのみ)

Windows XPでは回線に接続する前に、次の設定を行います。

- 接続に関する設定
- Outlook Expressの初期設定

接続に関する設定

接続に関する設定は次のとおりです。

- 接続方法の設定
  電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定をします。
- 切断画面の設定
  InternetExplorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定は、次の手順で行います。

1 [スタート]−「コントロールパネル」−「ネットワークとインターネット接続」−「インターネットオプション」−「接続」タブをクリックします。

2 「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。
(接続方法の設定)

3 [設定]−[詳細設定]をクリックします。

4 「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて[OK]をクリックします。(切断画面の設定)

5 「(接続先の名前)の設定」画面で[OK]をクリックします。

6 「インターネットのプロパティ」画面で[OK]をクリックします。
これで接続に関する設定は終了です。

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際には、メールアドレスなどいくつかの情報を入力する必要があります。オンライン契約ではこの設定が必要ない場合があります。

初期設定は、次の手順で行います。

1. [スタート]－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」をクリックします。
2. 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して[次へ]をクリックします。
3. 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して[次へ]をクリックします。
4. 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して[次へ]をクリックします。
5. 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して[次へ]をクリックします。
6. 「設定完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。

初期設定をあとから行う

「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。
「ツール」メニュー－「アカウント」－[追加]－「メール」

Internet Explorerと Outlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

● Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)
　インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。
● Outlook Express(アウトルックエクスプレス)
　メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

起動方法

起動方法は、次のとおりです。
手順2～4は、ナローバンドでダイヤルアップ接続(FAXモデムなど)する場合の手順です。ブロードバンドで接続する場合は、手順1のみご覧ください。

1　ソフトウェアを起動します。

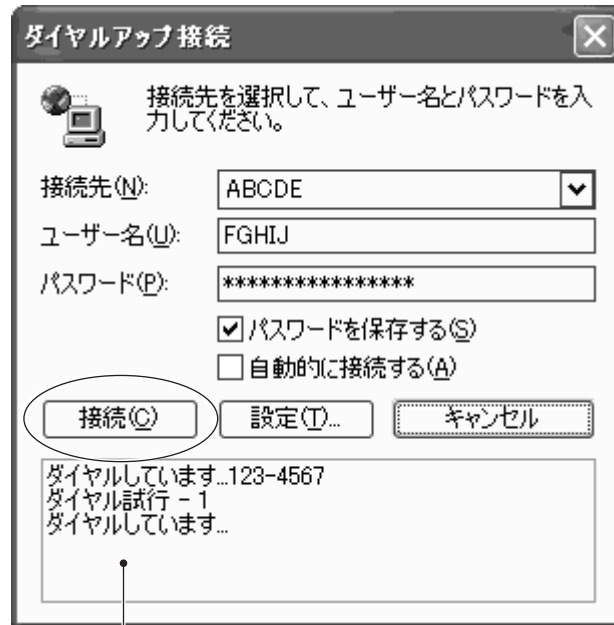
● Internet Explorer
・ スタートメニューを使用する場合
　Windows XP　:［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」
　Windows 2000：［スタート］－「プログラム」－「Internet Explorer」
・ インスタントキーを使用する場合
　キーを押します。

● Outlook Express
・ スタートメニューを使用する場合
　Windows XP　:［スタート］－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」
　Windows 2000：［スタート］－「プログラム」－「Outlook Express」
・ インスタントキーを使用する場合
　キーを押します。

Outlook Expressを起動したときに、「オンラインに切り替えますか？」と表示されることがあります。インターネットに接続する場合は、[はい]をクリックします。
Windows XPで初期設定を行っていない場合は、初期設定を行います。
p.140「Outlook Expressの初期設定」

2 **「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」「ユーザー名」「パスワード」を入力します。**

自動的に入力されている項目もあります。

3 **入力内容を確認して[接続]をクリックします。**

[接続]をクリックすると接続状態が表示されます。

4 **接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。**

〈Windows XPの場合〉　〈Windows 2000の場合〉

インターネットへの接続について

- ダイヤルアップネットワークからの接続(ナローバンド接続の場合)
  ナローバンドで接続する場合、インターネットへの接続は次の方法でも行えます。
  Windows XP　：[スタート]-「接続」-「(接続先の名前)」をクリック
  Windows 2000：[スタート]-「設定」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」-「(接続先の名前)」をダブルクリック
  この場合は、接続完了後にソフトウェアを起動します。
- メールソフトウェア使用時のインターネット接続
  インターネットに接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

終了方法

Internet Explorerの場合

Internet Explorerの終了方法は、次のとおりです。

1. 画面右上の☒をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
2. 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する]をクリックします。

Outlook Expressの場合

Outlook Expressの終了方法は、次のとおりです。

1. インターネットに接続している場合は、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。
2. 「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか」と表示されたら[はい]をクリックします。
3. 画面右上の☒をクリックして、「Outlook Express」を終了します。

Internet Explorerの使い方

※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

● 見たいホームページを開くには

・アドレスバーにアドレス(URL)を入力して［↵］を押します。

・キーワードを使って検索します。[検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

● 「お気に入り」にページを登録する

よく見るページは「お気に入り」に登録しておくと、すぐにアクセスできます。

・登録:「お気に入り」−「お気に入りに追加」をクリックして登録します。

・登録したお気に入りにアクセスする:「お気に入り」をクリックすると、一覧が表示されます。

● リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でマウスポインタが［矢印］から［指］に変わる場所があります。そこでクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

● 便利な追加機能について

アドレスバーを利用して、簡単に検索します。

p.180「JWordでインターネットを検索する」

再インストール時のデータのバックアップ

Windowsの再インストールを行うと、HDDに保存されているデータは消去されてしまいます。Windowsの再インストールの際は、必要に応じてFDなどの別のメディアにデータのバックアップを取っておいてください。バックアップしたデータは、再インストール後に、復元することができます。

● 「お気に入り」のバックアップを取る

「お気に入り」のバックアップは、次の手順で行います。

1. **Internet Explorerを起動します。**
2. **[ファイル]－[インポートおよびエクスポート]を選択します。**
3. **「インポート/エクスポート ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。**
4. **「インポート/エクスポートの選択」と表示されたら、「お気に入りのエクスポート」を選択して、[次へ]をクリックします。**
5. **「お気に入りのエクスポート元のフォルダ」と表示されたら、「Favorites」が選択されていることを確認して、[次へ]をクリックします。**
6. **「お気に入りのエクスポート先」と表示されたら、「ファイルまたはアドレスにエクスポートする」にチェックが付いていることを確認し、テキストボックスに保存先を入力後、[次へ]をクリックします。**

   保存するファイルの拡張子は「htm」とします。
7. **「インポート/エクスポート ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。**
8. **「お気に入りのエクスポートに成功しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。**

   これで「お気に入り」のバックアップは完了です。

● バックアップした「お気に入り」を復元する

バックアップした「お気に入り」の復元は、次の手順で行います。

1. Internet Explorer を起動します。
2. [ファイル] − [インポートおよびエクスポート] を選択します。
3. 「インポート / エクスポート ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
4. 「インポート / エクスポートの選択」と表示されたら、[お気に入りのインポート] を選択して、[次へ] をクリックします。
5. 「お気に入りのインポート元」と表示されたら、「ファイルまたはアドレスからインポートする」にチェックが付いていることを確認し、テキストボックスにバックアップしたファイルの場所を入力して、[次へ] をクリックします。
6. 「お気に入りのインポート先のフォルダ」と表示されたら、「Favorites」が選択されていることを確認して、[次へ] をクリックします。
7. 「インポート / エクスポート ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
8. 「お気に入りのインポートに成功しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。

   これでバックアップした「お気に入り」の復元は完了です。

Outlook Expressの使い方

使い方

ボタン

フォルダ
メールが保存されます。

アドレス帳に登録されたアドレスの一覧です。

接続の状態を表示します。
オンライン:インターネットに接続しています。
オフライン:インターネットに接続していません。

メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときはインターネットに接続されている必要はありません。Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。

メールを送信する(オンラインの場合、ブロードバンドで接続する場合)

1. [メールの作成](Windows 2000では[新しいメール])をクリックしてメール作成画面を表示します。
2. 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
3. [送信]ボタンをクリックします。

メールを送信する(オフラインの場合)

1. [メールの作成](Windows 2000では[新しいメール])をクリックしてメール作成画面を表示します。
2. 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
3. [送信]をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。
   複数のメールを作成し、一度に送信することができます。
4. [送受信]をクリックして、「…オンラインに切り換えますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。
5. 「ダイヤルアップ接続」画面で[接続]をクリックします。
   接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

1 **「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。**

インターネットに接続されていない場合は、[送受信]をクリックすると接続作業が行われます。

2 **受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。**

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

1 **[アドレス]をクリックします。**

2 **[新規作成]をクリックして、「新しい連絡先」をクリックします。**

3 **情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。**

再インストール時のデータのバックアップ

Windowsの再インストールを行うと、HDDに保存されているデータは消去されてしまいます。Windowsの再インストールの際は、必要に応じてFDなどの別のメディアにデータのバックアップを取っておいてください。バックアップしたデータは、再インストール後に、復元することができます。

● アドレス帳のバックアップを取る

アドレス帳のバックアップは、次の手順で行います。

1. **Outlook Expressを起動します。**
2. **[ツール]－[アドレス帳]を選択します。**
3. **「アドレス帳」画面が表示されたら、[ファイル]－[エクスポート]－[アドレス帳]を選択します。**
4. **「エクスポートするアドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、バックアップ先を選択して、「ファイル名」ボックスに任意のファイル名を入力し、[保存]をクリックします。**
5. **「アドレス帳が次の場所にエクスポートされました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。**

   これでアドレス帳のバックアップは完了です。

● バックアップしたアドレス帳を復元する

バックアップしたアドレス帳の復元は、次の手順で行います。

1. **Outlook Expressを起動します。**
2. **[ファイル]－[インポート]－[アドレス帳]を選択します。**
3. **「インポートするアドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、バックアップしたファイルを選択して、[開く]をクリックします。**
4. **「インポートは完了しました。」と表示されたら[OK]をクリックします。**

   これでバックアップしたアドレス帳の復元は完了です。

バックアップしたアドレス帳の復元

複数のユーザーでOutlook Expressを使用している場合、複数のユーザーがログオンしている状態でアドレス帳の復元を行うと、ログオンしているユーザーすべてのアドレス帳にアドレスが登録されてしまいます。
1ユーザーのみがログオンしている状態で、アドレス帳のバックアップ、復元を行い、それをユーザーごとに繰り返せば、アドレス帳を分けることができます。

● メールデータのバックアップを取る

メールデータのバックアップは、次の手順で行います。

1. Outlook Expressを起動します。
2. [ツール]－[オプション]を選択します。
3. 「オプション」画面が表示されたら、「メンテナンス」タブ－[保存フォルダ]をクリックします。
4. 「保存場所」画面が表示されたら、テキストボックスに記述されたフォルダの場所を控え、[キャンセル]をクリックします。
5. 「オプション」画面の[キャンセル]をクリックします。
6. Outlook Expressを終了します。
7. [スタート]－[ファイル名を指定して実行]を選択します。
8. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、手順４で控えたフォルダの場所を入力して、[OK]をクリックします。
9. 「Outlook Express」画面が表示されたら、 をクリックします。
10. 「Microsoft」画面が表示されたら、「Outlook Express」フォルダをバックアップ先にコピーします。

これでメールデータのバックアップは完了です。

● バックアップしたメールデータを復元する

バックアップしたメールデータの復元は、次の手順で行います。

1. **Outlook Expressを起動します。**

2. **[ファイル]－[インポート]－[メッセージ]を選択します。**

3. **「プログラムの選択」と表示されたら、「Microsoft Outlook Express 6」を選択して、[次へ]をクリックします。**

4. **「Outlook Express 6 からインポート」画面が表示されたら、「Outlook Express 6 ストアディレクトリからメールをインポートする」にチェックを付けて、[OK]をクリックします。**

5. **「メッセージの場所」と表示されたら、バックアップしたフォルダの場所を入力して、[次へ]をクリックします。**

6. **「フォルダの選択」と表示されたら、「すべてのフォルダ」か、「選択されたフォルダ」のどちらかにチェックを付け、[次へ]をクリックします。**
すべてのメールデータを復元したい場合は、「すべてのフォルダ」、選択したデータのみ、復元したい場合は、「選択されたフォルダ」をクリックしてください。

7. **「インポートの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。**
これでバックアップしたメールデータの復元は完了です。

メールユーティリティを使う

「メールユーティリティ」をインストールすると「Outlook Express」または「Outlook」を起動している間、未開封メールがあるとメール着信ランプ（✉）が点灯します。「メールユーティリティ」は、購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.225「メールユーティリティのインストール」

省電力機能を使う

省電力機能を使うとコンピュータを使用していない間、コンピュータが省電力モードに移行して消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使用する場合は、省電力機能を使うことで本機の使用可能時間を延ばすことができます。

本章ではWindowsの省電力機能について説明していますが、本機ではこのほかに「スピードステップ機能」、「Power Gear機能」を使用することができます。これらの機能を使用するとCPUの処理速度やLCD輝度を調整して、消費電力を抑えることができます。

p.159「パフォーマンスを調整する」

省電力モード使用時の制限

省電力モードを使用する際には、次のような制限事項があります。使用する前に、必ず確認してください。

- 周辺機器を接続している場合やアプリケーションを起動している場合などに、省電力モードが動作しないことがあります。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。
- NetWare サーバを利用している場合や NetBEUI を使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  - 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
  - 再起動する。
  - 省電力モードを無効にする。
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書やデータなど)は保存しておいてください。
- 赤外線通信や FAX モデム、ネットワークなどの PC カードを使って通信を行っている場合は、省電力モードに移行しないでください。通信が切断されることがあります。
- サウンド機能を使って録音･再生している場合に、省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 省電力モード時にPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

● CD、DVDメディアへの書き込み中に省電力モードに移行すると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを行う場合は、省電力モードを無効にしてください。

p.158「省電力機能を無効にする」

省電力モードの種類

省電力機能には、次の省電力モードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

● **HDD/ディスプレイの電源を切る**

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

● **スタンバイ**

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが点滅します。通常モードへは、十数秒で復帰できます(使用環境により復帰時間は異なります)。

● **休止状態**

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

ローバッテリ省電力モード

本機は、バッテリ残量が低下したときに上記の省電力モードに移行します。

バッテリ残量低下時の通知方法や、通知する残量の設定を変更することができます。

p.63「バッテリアラームの設定」

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	点　灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	点　灯
スタンバイ	点　滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

休止状態を有効にする

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする（Windows 2000の場合「休止状態をサポートする」）」にチェックを付けると休止状態が有効になります。

休止状態の設定は、次の画面で行います。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「休止状態」タブ

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「休止状態」タブ

〈Windows XPの場合〉

実行方法

省電力モードを実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)は保存しておいてください。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力モードに関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。

〈Windows XPの場合〉

直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

- ［スタート］−「終了オプション（シャットダウン）」から選択、実行する。
- LCDユニットを閉じる。
- 電源スイッチを押す。
- Fn＋F1（Z）を押す。

「LCDユニットを閉じる」、「電源スイッチを押す」、「Fn＋F1を押す」方法で、どのモードに移行するかの設定は、「詳細設定（詳細）」タブで行います。

購入時の設定は、次のとおりです。

・LCDユニットを閉じる：何もしない*（バックライトの消灯のみ）
*Windows 2000では「なし」
・電源スイッチを押す：シャットダウン
・Fn＋F1を押す：スタンバイ

〈Windows XPの場合〉

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、ディスプレイの電源が切れている状態	点　灯	● タッチパッド、キーボードを操作する（誤って電源スイッチを押さないでください）。
スタンバイ	点　滅	● 電源スイッチを押す。 ● キーボードを操作する。
休止状態	消　灯	● 電源スイッチを押す。

省電力機能を無効にする

CD、DVDメディアへ書き込みを行う場合などは、省電力機能を無効にします。

省電力機能を無効にする手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。**

Windows 2000の場合は、［スタート］－［設定］－［コントロールパネル］をクリックします。

2 **「電源オプション」アイコンをクリック（Windows 2000 の場合はダブルクリック）し、「電源オプションのプロパティ」を表示します。**

3 **「電源設定」タブで「モニタの電源を切る」などすべての項目の時間設定を「なし」に変更します。**

4 **［適用］をクリックし、［OK］をクリックします。**

パフォーマンスを調整する

本機には、CPUの処理速度やLCD輝度を調整して消費電力を抑える2つの機能があります。
これらの機能を使用すると、バッテリ使用時に使用可能時間を延ばしたりすることができます。

スピードステップ機能

スピードステップ機能とは、使用電源にあわせて、自動的にCPUの処理速度を調整する機能です。
バッテリのみで使用しているときは、CPUの処理速度を抑えて、本機の使用可能時間を延ばすことができます。また、ACアダプタ使用時は、搭載しているCPUの最大パフォーマンスで処理を行います。

Windows XPの場合

Windows XPの場合は、現在のCPUの処理速度を次の画面で確認できます。
[スタート]–「コントロールパネル」–「パフォーマンスとメンテナンス」–「システム」–「システムのプロパティ」画面

Windows 2000の場合

Windows 2000では、タスクバーに「スピードステップ」アイコンが表示されていると、スピードステップ機能がCPUの処理速度を調整しています。

Power Gear（パワーギア）機能

Power Gear機能は、使用環境に応じて、あらかじめ設定されたパフォーマンス（CPU処理速度およびLCD輝度）に切り替えることにより、本機の処理能力を上げたり下げたりする機能です。パフォーマンスは、4種類のモードに区別されています。4種類のモードの切り替えはインスタントキーのPower Gearキー（ ）で行います。

Power Gear 機能を有効にするためのPower Gearユーティリティは購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.224「Power Gearユーティリティのインストール」

モードの種類

4種類のモードは次のとおりです。現在のモードはタスクバーにアイコンで表示されます。アイコンが表示されていない場合は、Power Gearユーティリティは起動していません。[スタート]－「（すべての）プログラム」－「Power Gear」－「Power Gear」を選択してください。

モード	使用電源	パフォーマンス	消費電力
	ACアダプタ	■■■■（最大）	■■■■（最大）
	ACアダプタ/バッテリ	■■■	■■■
	バッテリ	■■	■■
	バッテリ	■（最小）	■（最小）

＊パフォーマンスと消費電力は使用環境によって異なります。

本機を、ACアダプタを接続して使用しているときと、バッテリのみで使用しているときでは、使用できるモードが異なります。また、パフォーマンスが大きいモードほど消費電力も大きくなります。

省電力モードへの移行時間設定

Power Gearユーティリティをインストールすると､Windows電源管理のプロパティの｢電源設定｣タブの｢電源設定｣に｢Power 4 Gear｣が追加され､Power Gearのモードにあわせて省電力モードへの移行時間が設定されます｡この設定はタスクバーのPower Gearアイコンを右クリックして｢Configuration｣でも表示できます｡

p.156「時間経過で実行」

ネットワーク(有線LAN)を使う

ネットワーク機能(有線LAN)について説明します。

LANコネクタを使う

本機左側面には、10Base-T/100Base-TX/1000Base-Tに対応したLANコネクタが標準で搭載されています。
本機のネットワーク機能(有線LAN)を使用してネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従って行ってください。

無線LAN機能搭載モデルをお使いの場合は、無線LAN機能を利用してネットワークを構築することもできます。

p.163「無線LANを使う(無線LAN機能搭載モデル)」

- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
  ・再起動する。
  ・省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。

リモートブート

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、リモートブート機能を使用できます。
リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにOSがインストールされていなくても、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができます。
リモートブートを行う場合は、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

無線LANを使う（無線LAN機能搭載モデル）

本章では、無線LANについて説明しています。
無線LANとは、電波などを利用して通信を行うネットワークのことです。
本機には、IEEE802.11a/b/gの3つの規格に準拠した無線LAN機能が搭載されています。

無線LAN機能をお使いの前に

- 航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本機を22cm以上離して使用してください。
  電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 医療機関の屋内では次のことを守ってください。
  - 手術室、集中治療室(ICU)、冠状動脈疾患監視室(CCU)には、本機を持ち込まないでください。
  - 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
  - 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 自宅療養など医療機関以外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

- NetWare サーバを利用している場合や NetBEUI を使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
  ・再起動する。
  ・省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。
- IEEE802.11a と b/g では、使用する周波数帯域が異なります。データ通信を行う場合は、同じ方式での通信が可能かどうか、事前に確認してください。

特長

本機に搭載している無線LANの特長は次のとおりです。

- IEEE802.11a
  5.2GHzの周波帯域で通信し、高速な転送速度を実現しています。家電製品と異なる周波帯域を使用するため、電波の干渉を避けることができます。ただし、電波法の規定により、屋内のみの使用に限られます。
- IEEE802.11b、IEEE802.11g
  IEEE802.11bは、従来より広く使用されている通信規格で、2.4GHzの周波帯域を使用します。IEEE802.11g は、同じく 2.4GHz の周波帯域を使用し、IEEE802.11bより高速な通信が可能です。

IEEE802.11aとIEEE802.11b/gでは互換がありません。

電波に関する注意事項

無線LANをお使いの前に、次の電波に関する注意事項をお読みください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- IEEE802.11aは、電波法の規定により屋外では使用できません。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - ・本機を分解/改造する
  - ・本機の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす

- 2.4GHz 付近の電波を使用している無線装置などの近くで使用すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。、IEEE802.11b/gで通信する場合は、電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください(環境により電波が届かない場合があります)。

- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉する恐れがあります。
  - ・産業･科学･医療用機器
  - ・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    - ① 構内無線局(免許を要する無線局)
    - ② 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止(電波の発射を停止)してください。

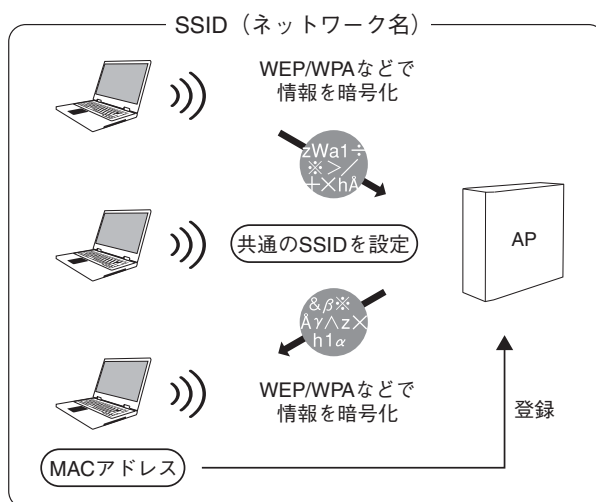
無線LANの種類

無線LANを使用して通信を行う場合、次の2とおりの方法があります。

● 構築された無線LANを利用する

電波を受信する無線LANアクセスポイント(以降、AP)と呼ばれる機器がすでに設定されており、APを介してコンピュータ同士が通信する方法です。

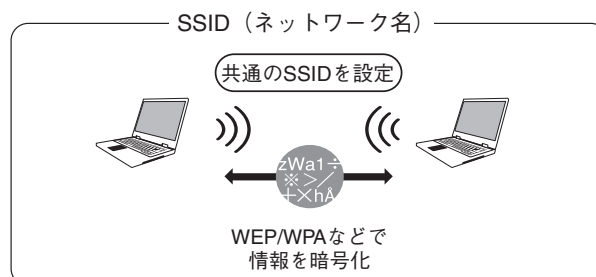
通信を行う際は、ネットワーク環境の構築と、「SSIDの設定」「情報の暗号化」「MACアドレスの登録」などの設定を行ってください。

p.167「セキュリティ確保に必要な設定」

● コンピュータ間で通信する

APを介さずに、コンピュータ間で直接通信する方法です。

APがなくても、双方のコンピュータが無線LAN機能を持っていれば、通信が可能です。

通信を行う際は、「SSIDの設定」「情報の暗号化」などの設定を行ってください。

p.167「セキュリティ確保に必要な設定」
p.172「2台のコンピュータ間で通信を行う」

セキュリティ確保に必要な設定

無線LANは電波を使用して通信するため、第三者に電波を傍受され、ネットワークに不正に侵入されたり通信データを盗み読みされる恐れがあります。このため、無線LANで通信する場合は、セキュリティの確保のために、次のような設定が必要になります。
ここでは、それぞれの対策内容について説明します。
無線LANを使用する前に、p.20「無線LAN使用時におけるセキュリティに関する注意(無線LAN機能搭載モデル)」もあわせてお読みください。

SSIDの設定

SSIDとは、無線LANで通信を行う際に特定のネットワークを識別するための名称です。
構築されたネットワークで通信を行う場合は、APとコンピュータの双方に同じSSIDを設定します。コンピュータ間で通信を行う場合には、通信する2台で、同じネットワーク名を設定します。
SSIDは、ESS-ID、またはネットワーク名とも呼ばれています。

情報の暗号化

無線LANを使用して通信する場合、通信データを暗号化すると、セキュリティの強度がより高まります。
暗号化方式の1つとして「WEPキー」があります。これにより、APにWEPキーを設定し、同じWEPキーを本機にも設定すると、APと本機のデータ通信が暗号化され、データが傍受されにくくなります。コンピュータ間で通信を行う場合には、通信する2台の間で、同じWEPキーを設定します。
また、WEPキーの機能をさらに強化した「WPA」という方式もあります。WPAでは、暗号鍵を一定時間ごとに自動更新するなどさらにセキュリティが強化されます。
本書では、暗号化方式の1つとしてWEPキーを説明していますが、お使いになる環境によっては、異なる暗号化方式を使用する場合があります。

MACアドレスの登録

MACアドレスとは、各ネットワーク製品に割り当てられている固有の番号のことです。AP側に無線LAN機能のMACアドレスを登録しておけば、登録されていないMACアドレスからのアクセスをAP側で防ぐことができます。
コンピュータ間で通信を行う場合、設定は不要です。
p.171「MACアドレスの確認」

無線LAN機能の有効/無効の設定

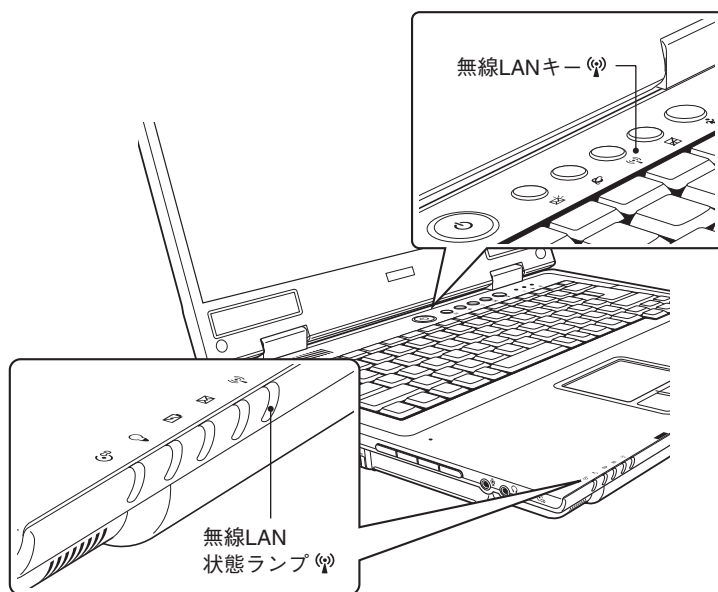
無線LANキー

無線LAN機能を使用する場合は、無線LANキーを押して無線LANの状態を有効に設定します。購入時には、ネットワーク機能(有線LAN)が有効、無線LAN機能が無効に設定されています。

次のような場合は、無線LAN機能の設定を無効にしてください。

- 航空機や病院など、使用を禁止された区域に持ち込む場合
- ネットワーク機能(有線LAN)に戻して使用する場合

無線LANの有効/無効は、無線LAN状態ランプ( )で確認できます。

無線LANの状態	無線LAN状態ランプ
有　効	青点灯
無　効	消　灯

構築された無線LAN環境を利用する場合

構築された無線LAN環境のAPに接続する方法について説明します。
APの設定に必要な項目の詳細やネットワークの環境が整っていない場合は、お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧いただくか、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従って、環境を整えてください。

制限

本機の無線LAN機能は、リモートブートに対応していません。

設定は、無線LANユーティリティ「Atheros Client Utility」を使用して行います。本機の無線LAN機能とAPを接続する手順は、次のとおりです。
設定を行う前に、APに設定されている「SSID」や「暗号化」などに関する情報を、あらかじめ確認しておいてください。

1 デスクトップの「Atheros Client Utility」アイコンをダブルクリックします。

2 「Atheros Client Utility」画面が表示されたら、「Profile Management」タブをクリックします。

3 [New]ボタンをクリックします。

4 「Profile Management」画面が表示されたら、「General」タブで次の設定を行います。

❶「Profile Name」に、任意の名前を入力します。
本ユーティリティでは、APに接続する際に必要な設定を、Profileとして管理します。
❷「SSID1」に、接続するAPで決められたSSIDを入力します。

5 「Security」タブで、暗号化に関する設定を行います。

APの設定にあわせて各項目を入力してください。

<APにWEPキーが設定されている場合>

APのWEPキーの設定と同じ内容を入力してください。
❶「Pre-Shared Key (Static WEP)」にチェックを付けます。
❷「Configure」ボタンをクリックします。

❸「Define Pre-Shared Keys」画面が表示されたら、「Key Entry」項目から、「Hexadecimal」または「ASCII Text」を選択します。

❹「Encryption Keys」項目で、「WEP Key Size」から「64」、「128」、または「152」を選択します。

❺ 同項目で、WEP Key 1～4のいずれかにWEPキーを入力します。

❻ ［OK］ボタンをクリックします。

＜APにWEPキー以外の暗号化方式が設定されている場合＞

お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧いただくか、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従って、AP接続に必要な項目の設定を行います。

＜APに暗号化方式が設定されていない場合＞

「None」を選択します。

6 **「Advanced」タブで、「Network Type」では「Infrastructure」が選択されていることを確認し、［OK］をクリックします。**

7 **「Profile Management」タブで、作成したProfileが選択されていることを確認して、［Activate］ボタンをクリックします。**

これでAPとの接続は終了です。

ネットワークの切り替え

複数のネットワーク環境をProfileとして登録している場合は、「Profile Management」タブで、接続したいAPのProfileを選択し、［Activate］ボタンをクリックして接続先を切り替えることができます。

MACアドレスの確認

MACアドレスの確認は、Atheros Client Utilityで行います。「Current Status」タブ－［Advanced］ボタンをクリックして、「Advanced Status」画面が表示されたら、そこでMACアドレスの確認をしてください。APでの設定の詳細は、お使いのAPに添付のマニュアルをご覧ください。

チャンネルの切り替え

本機から発信する電波がほかの無線LANの環境と干渉してしまった場合は、使用チャンネルを変更してください。使用チャンネルの変更方法は、お使いになるAPにより異なります。詳しくは、お使いのAPに添付のマニュアルをご覧ください。

2台のコンピュータ間で通信を行う

本機は、無線LAN機能を持つ別のコンピュータと1対1で通信することができます。通信時は、双方のコンピュータで同じ通信規格を使用してください。
本機を別のコンピュータと接続して通信するためには、次の設定が必要です。

● ネットワーク接続の設定
通信を行うコンピュータの双方でネットワーク接続の設定が必要です。通信を行う相手のコンピュータでも、同様の設定を行ってください。

p.173「ネットワーク接続の設定」

● コンピュータ名とワークグループの設定

p.176「コンピュータ名とワークグループの設定」

ここで設定したワークグループに接続しているコンピュータを確認することもできます。

● ワークグループのコンピュータを確認する

p.178「ワークグループのコンピュータを確認する」

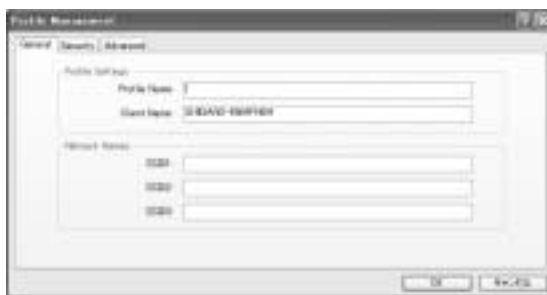
ネットワーク接続の設定

ネットワーク接続設定は、次の手順で行います。

1 デスクトップの「Atheros Client Utility」アイコンをダブルクリックします。

2 「Atheros Client Utility」画面が表示されたら、[Profile Management]をクリックします。

3 [New]ボタンをクリックします。

4 「Profile Management」画面が表示されたら、「General」タブで次の設定を行います。

❶「Profile Name」に、任意の名前を入力します。

本ユーティリティでは、通信する際に必要な設定項目を、Profileとして管理します。

❷「SSID1」に、任意のネットワーク名を入力します。

「ネットワーク名(SSID)」は、通信する相手側でも同じ設定にしてください。

5 WEPキーを設定する場合は、「Security」タブで次の設定を行います。

通信する2台のコンピュータで同じWEPキーを設定します。

❶「Pre-Shared Key (Static WEP)」にチェックを付けます。
❷「Configure」ボタンをクリックします。

❸「Define Pre-Shared Keys」画面が表示されたら、「Key Entry」項目から、「Hexadecimal」または「ASCII Text」を選択します。
❹「WEP Key Size」から「64」、「128」、または「152」を選択します。
❺同項目で、「Encryption Keys」項目で、WEP Key 1～4のいずれかにWEPキーを入力します。
❻[OK]ボタンをクリックします。

6 「Advanced」タブをクリックして、次の設定を行います。

❶ 「Network Type」項目から「Ad Hoc」を選択します。

❷ 「Wireless Mode When Starting Ad Hoc Network」項目を、次のように設定します。

IEEE802.11aで通信する場合　:「5GHz 54Mbps」

IEEE802.11b/gで通信する場合:「2.4GHz 54/11Mbps」

❸ [OK]ボタンをクリックします。

7 「Profile Management」タブで、作成したProfileが選択されていることを確認して、[Activate]ボタンをクリックします。

これで、ネットワーク接続の設定は終了です。

コンピュータの基本操作

コンピュータ名とワークグループの設定

2台のコンピュータを同一のネットワーク内に接続するために、コンピュータ名とワークグループの設定が必要です。本機と別のコンピュータそれぞれで設定を行います。

Windows XPの場合

「コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定は、次の手順で行います。

1. **[スタート]−「コントロールパネル」−「パフォーマンスとメンテナンス」−「システム」をクリックします。**

2. **「システムのプロパティ」画面−「コンピュータ名」タブ−[変更]をクリックします。**

3. **「コンピュータ名」に任意のコンピュータ名を、「ワークグループ」にワークグループ名を入力します。**
「コンピュータ名」は、コンピュータを識別するための名前です。本機と接続する別のコンピュータで違う名前を設定します。
「ワークグループ」は、通信する2台のコンピュータで同じ名前を設定します。

4. **[OK]をクリックして、「コンピュータ名の変更」画面を閉じます。**

5. **「・・・ワークグループへようこそ。」と表示されたら[OK]をクリックします。**

6. **「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」と表示されたら[OK]をクリックします。**

7. **[OK]をクリックして、「システムのプロパティ」画面を閉じます。**
以降は、画面のメッセージに従ってコンピュータを再起動します。コンピュータが再起動したら、「コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定は終了です。

Windows 2000の場合

「コンピュータ名」と「ワークグループ名」の設定は、次の手順で行います。

1 [スタート]−「設定」−「コントロールパネル」−「システム」をダブルクリックします。

2 「システムのプロパティ」画面−「ネットワークID 」タブ−[プロパティ]をクリックします。

3 「識別の変更」画面で「コンピュータ名」に任意のコンピュータ名を、「ワークグループ」にワークグループ名を入力します。

「コンピュータ名」は、コンピュータを識別するための名前です。本機と接続する別のコンピュータで違う名前を設定します。

「ワークグループ」は、通信する2台のコンピュータで同じ名前を設定します。

4 [OK]をクリックして、「識別の変更」画面を閉じます。

5 「・・・ワークグループへようこそ。」と表示されたら[OK]をクリックします。

6 「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」と表示されたら[OK]をクリックします。

7 [OK]をクリックして、「システムのプロパティ」画面を閉じます。

以降は、画面のメッセージに従ってコンピュータを再起動します。コンピュータが再起動したら、「コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定は終了です。

ワークグループのコンピュータを確認する

ワークグループに接続しているコンピュータは、次の方法で確認できます。

● Windows XPの場合

1 **［スタート］－［マイコンピュータ］をクリックします。**

2 **「マイコンピュータ」画面が表示されたら、画面左側の「その他」項目－「マイネットワーク」をクリックします。**

3 **「ネットワークタスク」項目－「ワークグループのコンピュータを表示する」をクリックします。**

同じワークグループに接続しているコンピュータが表示されます。

● Windows 2000の場合

［マイネットワーク］－［近くのコンピュータ］をダブルクリックすると、同じワークグループに接続しているコンピュータが表示されます。

ファイルやフォルダを共有する

ファイルやフォルダを共有するように設定すると、接続している相手側のコンピュータのファイルやフォルダを参照できるようになります。詳細については、Windowsのヘルプを参照してください。

そのほかの機能

パラレルコネクタを使う

本機背面にはパラレルコネクタが用意されています。パラレルコネクタには、パラレル接続のプリンタなどを接続します。

USBコネクタを使う

本機背面にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが4個用意されています。
USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コントローラに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

IEEE1394コネクタを使う

本機左側面にはIEEE1394コネクタ(4ピン)が1個用意されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2004」が添付されています。購入時には「Norton AntiVirus2004」はインストールされていませんので、インストールを行ってください。インストール方法や詳しい使い方は、『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』をご覧ください。

さらに、「Windows Update」を行うことで本機のウィルス対策を強化できます。定期的に「Windows Update」を行う事をおすすめします。

p.51「Windows Updateについて」

JWordでインターネットを検索する

本機には、Internet Explorerのアドレスバーを利用して、簡単にインターネットの検索ができるソフトウェア「JWord Plugin」がインストールされています。

JWordには、次のような機能があります。

- アドレスバーに企業名や商品名などを直接入力して、目的のホームページを開く。
- アドレスバーに日本語のキーワードを入力して、インターネットを検索する。

JWordの詳しい使い方については、デスクトップ上にあるアイコンをクリックしてください。

システムの拡張

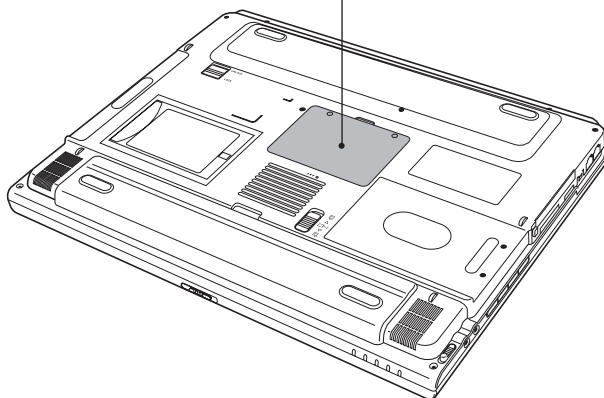
メモリの増設・交換方法、コンピュータに接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機内部には、次の装置を増設・交換して、機能を拡張することができます。

■ メモリモジュール

本機のメモリスロットは、本機底面とキーボード下の2本あります。ご自身で拡張が可能なスロットは本機底面の1本です。メモリスロット1本には、最大512MBのメモリを搭載できます。

p.183「メモリモジュールの増設」

メモリモジュールの増設・交換

メモリモジュールの増設・交換作業はコンピュータ内部の精密部品に触れる可能性があるので十分に注意して作業を行ってください。弊社では、お客様に代わってメモリモジュールの増設・交換作業を行います(有償)。

弊社による増設・交換をご希望の場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

メモリモジュールの増設

本機底面のメモリスロットは、お客様ご自身でメモリモジュール(以降、メモリ)の増設または交換をすることができます。

メモリを増設する場合は、下記仕様と一致するメモリを、弊社のオプション一覧より選択してください。

- PC2700 SODIMM(DDR333 SDRAM使用、200ピン)
- メモリ容量* 256MB、512MB
- Non ECC

*今後、新しい容量のメモリを取り扱う場合があります。

最新のオプション一覧は、ホームページに掲載しています。ホームページのアドレスは『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

作業時の注意

メモリの増設、交換をする場合は、次の点に注意してください。

- 電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま分解しないでください。感電や火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。

- メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や、傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- 本機の電源を切っていてもコンセントに接続されていると微少な電流が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。
- コンピュータ内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの増設・交換

メモリの増設・交換は、次の手順で行います。

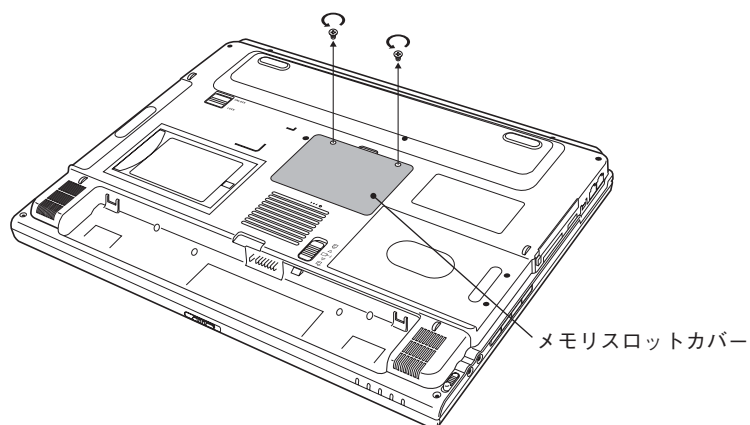
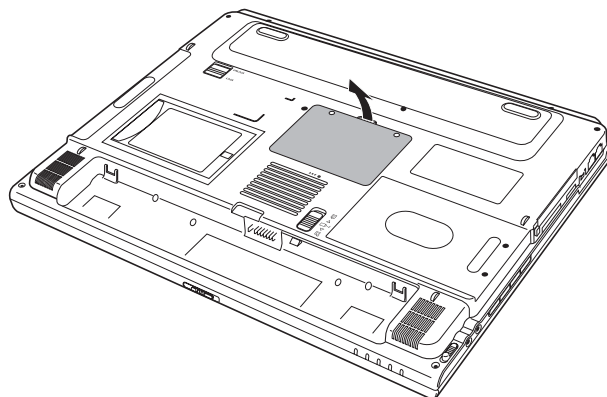
メモリの取り付け

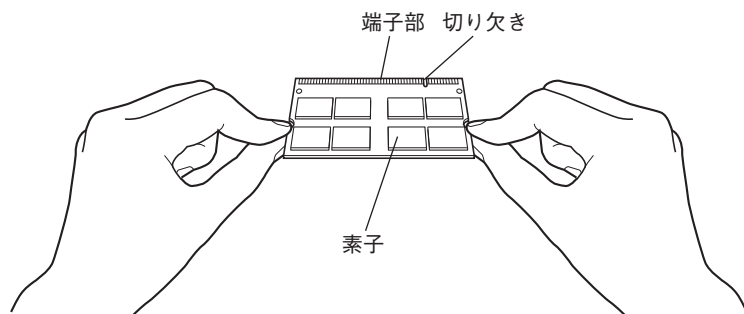
1 本機の電源を切ります。

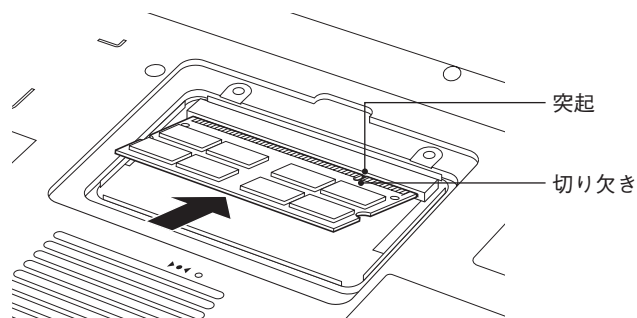
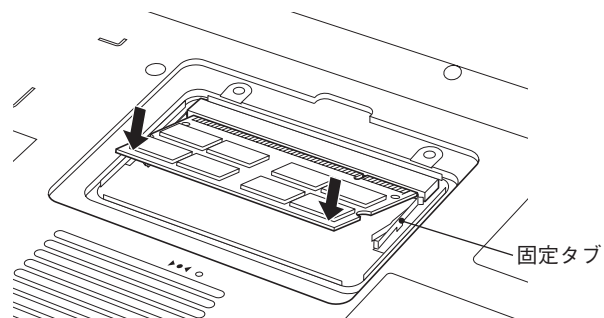
2 接続しているすべてのケーブルを外します。

3 本機の底面部を上にして置き、バッテリを取り外します。

p.66「バッテリの交換」手順3

4 メモリスロットカバーのネジ(2本)を外します。

5 メモリスロットカバーを矢印の方向に持ち上げて取り外します。

6 取り付けるメモリを梱包から取り出します。

取り出すときは､メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。

7 メモリを差し込みます。

切り欠きを突起に合わせ､メモリを約45度の角度でメモリスロットに差し込みます。

8 メモリを静かに倒します。正しく装着すると固定タブがメモリを固定して｢カチッ｣と音がします。

9 メモリスロットのカバーを取り付け､ネジで固定します。

10 バッテリを取り付けます。

p.66「バッテリの交換」手順4

11 本機のLCDユニット側を上にして置き、取り外したケーブルを取り付けます。

12 「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、総メモリ容量を確認します。

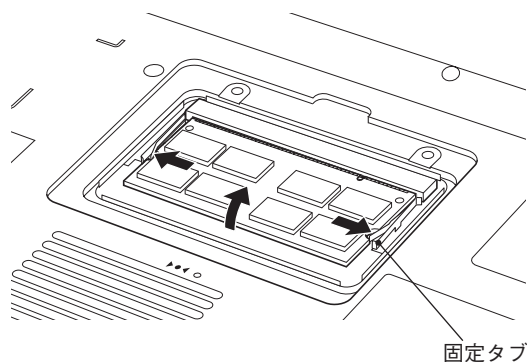
1. コンピュータの電源を入れて、F2 を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

   p.191「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Main」メニュー画面ー「System Memory Size」で総メモリ容量を確認します。

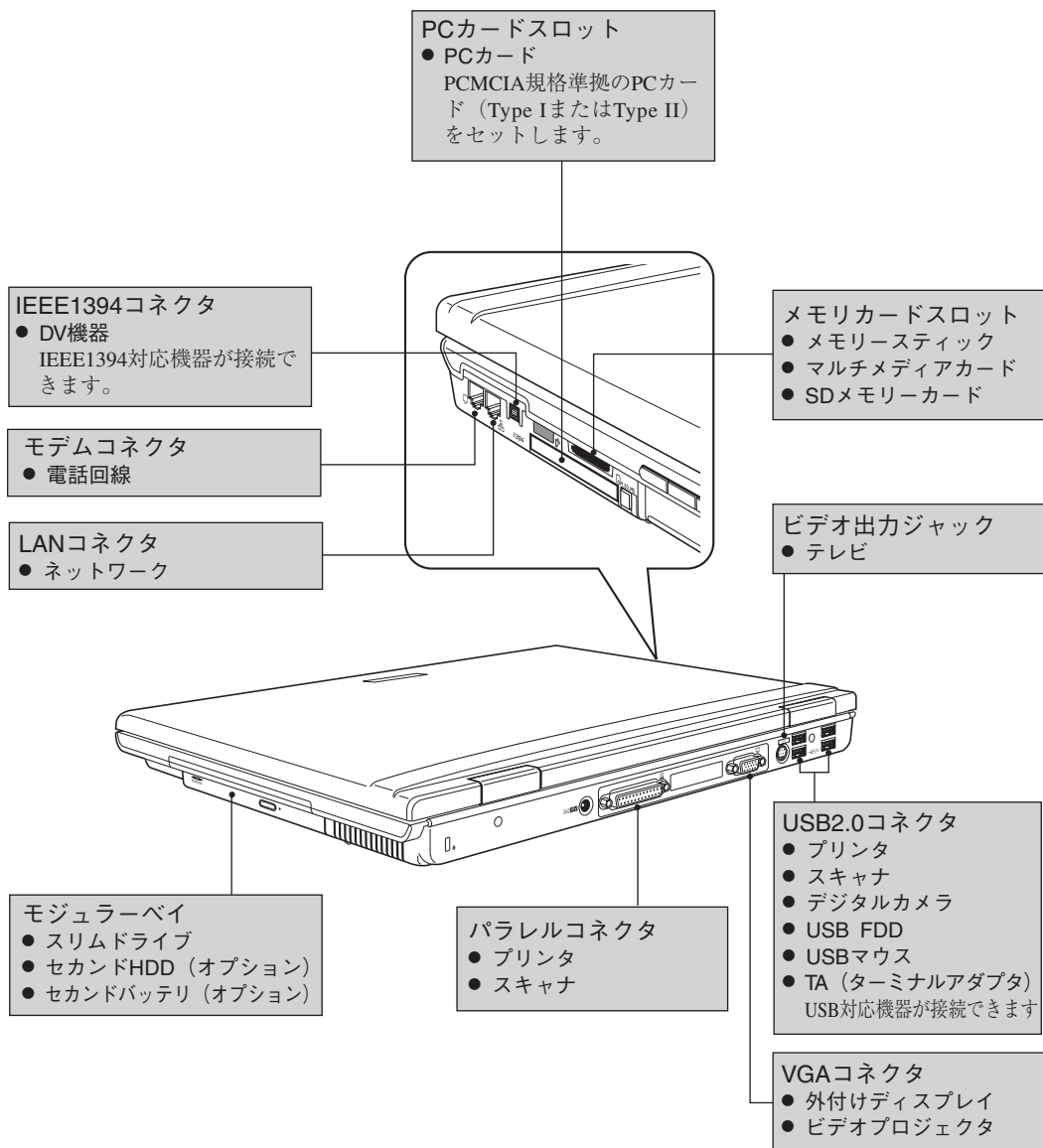
装着した容量だけメモリ容量が増えていれば、作業は完了です。「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
容量が増えていない場合は、メモリが正しく装着されていないことが考えられます。電源を切ってからメモリを装着し直してください。

メモリの取り外し

1 スロット両側の固定タブを外側に広げるとメモリが起き上がります。

2 起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。
取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

システムの拡張

外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。

設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。

『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

- 設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。

  p.207「BIOS Setup ユーティリティの設定値」

- 設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Optimal Defaults」(初期値に戻す)または「Discard Changes」(前回保存した設定値に戻す)を実行することでもとの値に戻すことができます。

  p.194「設定値をもとに戻すには」

- 弊社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。弊社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

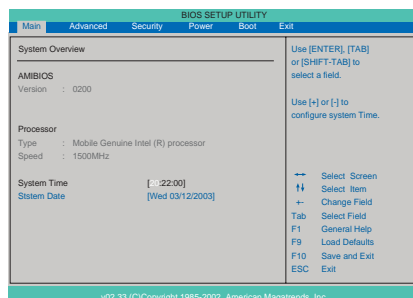
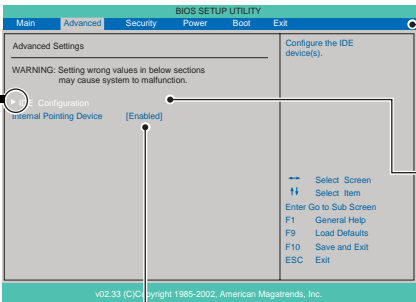
BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

1 **コンピュータの電源を入れます。すでにコンピュータが起動している場合は再起動します。**

2 **コンピュータの起動直後、黒い画面の中央にロゴが表示されたら、すぐにキーボードの F2 を押します。**

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3 **「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**

BIOS Setup ユーティリティ（イメージ）

BIOS Setupユーティリティの操作

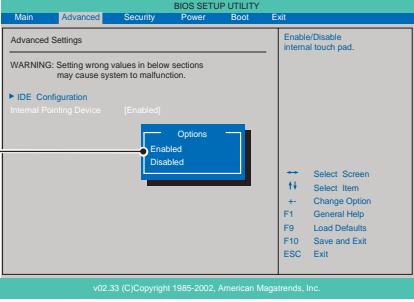
「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。
操作は、次の順番で行います。

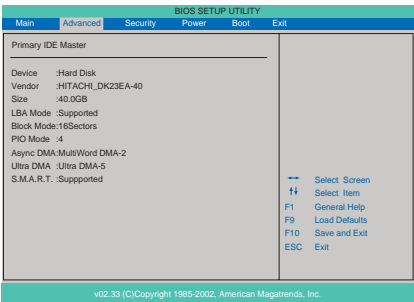
①「処理メニュー」を選択 → ②「設定項目」を選択 → ③「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。なお、各設定項目の説明は、p.196をご覧ください。

＜メニュー画面＞

BIOS SETUP UTILITY
Main　Advanced　Security　Power　Boot　Exit
Advanced Settings
WARNING: Setting wrong values in below sections may cause system to malfunction.
▸ IDE Configuration
Internal Pointing Device　[Enabled]
Configure the IDE device(s).
←→ Select Screen
↑↓ Select Item
Enter Go to Sub Screen
F1 General Help
F9 Load Defaults
F10 Save and Exit
ESC Exit
v02.33 (C)Copyright 1985-2002, American Magatrends, Inc.

①「処理メニュー」を選択
[→] [←] で変更します。
起動直後は、「Main」メニュー画面が表示されています。

②「設定項目」を選択
青字表示されていると、選択可能です。
[↑] [↓] で選択変更します。
選択した項目は白字表示に変わります。

③「設定値」を選択
[Fn]+[+]/[Fn]+[-] を押すと値が変わります。
[↵] を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

＜選択ウィンドウ＞
選択ウィンドウ内の設定値を [↑] [↓] で変更し、[↵] で設定します。

BIOS SETUP UTILITY
Main　Advanced　Security　Power　Boot　Exit
Advanced Settings
WARNING: Setting wrong values in below sections may cause system to malfunction.
▸ IDE Configuration
Internal Pointing Device　[Enabled]
Options
Enabled
Disabled
Enable/Disable internal touch pad.
←→ Select Screen
↑↓ Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F9 Load Defaults
F10 Save and Exit
ESC Exit
v02.33 (C)Copyright 1985-2002, American Magatrends, Inc.

▸マークの付いている設定項目を選択して [↵] を押すと、＜サブメニュー画面＞が表示されます。

＜サブメニュー画面＞

BIOS SETUP UTILITY
Main　Advanced　Security　Power　Boot　Exit
Primary IDE Master
Device :Hard Disk
Vendor :HITACHI_DK23EA-40
Size :40.0GB
LBA Mode :Supported
Block Mode:16Sectors
PIO Mode :4
Async DMA:MultiWord DMA-2
Ultra DMA :Ultra DMA-5
S.M.A.R.T. :Suppported
←→ Select Screen
↑↓ Select Item
F1 General Help
F9 Load Defaults
F10 Save and Exit
ESC Exit
v02.33 (C)Copyright 1985-2002, American Magatrends, Inc.

＜サブメニュー画面＞での設定方法は、＜メニュー画面＞での設定方法と同様です。
[Esc] を押すと＜メニュー画面＞に戻ります。

キー操作一覧

Fn キーと組み合わせて使うキーは、キートップに青色で印字されています。

キー	操作できる内容
F1	ヘルプを表示します。
Esc	・変更した内容を破棄し、終了するか確認するメッセージを表示します。 ・サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑，↓	設定を変更する項目を選択します。
←，→	処理メニューを選択します。
Fn ＋ - （P せ） Fn ＋ ＋ （＋ れ）	項目の値を変更します。
↵	・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニューを表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
F9	全設定項目の値を初期値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。
PgUp Home	表示されているメニューの中の最初の項目に移動します。
PgDn End	表示されているメニュー画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults(初期値に戻す)

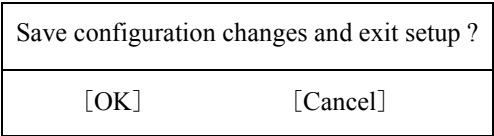
BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

1 F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

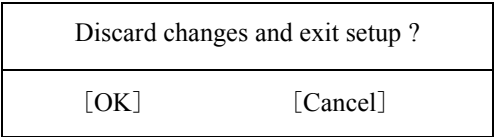
Load Optimal Defaults ?	
［OK］	［Cancel］

2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[OK]を選択して ↵ を押します。
変更しない場合は[Cancel]を選択して ↵ を押します。

Discard Changes(前回保存した設定値に戻す)

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
［OK］	［Cancel］

2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[OK]を選択して ↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2とおりの方法があります。

Save Changes and Exit(変更した内容を保存し、終了する)

1. F10 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージ表示されます。

Save configuration changes and exit setup ?	
［OK］	［Cancel］

2. 変更した設定値を保存して終了する場合は[OK]を選択し、↵ を押します。

Discard Changes and Exit(変更した内容を破棄し、終了する)

1. Esc を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup ?	
［OK］	［Cancel］

2. 変更した設定値を保存せずに終了する場合は[OK]を選択し、↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
- Advancedメニュー画面
- Securityメニュー画面
- Powerメニュー画面
- Bootメニュー画面
- Exitメニュー画面

表の見方

各メニュー画面の設定項目の表では、次のように記載しています。

※　：表示のみの項目

（網かけ）：項目の初期値

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付と時刻の設定を行います。

設定項目と詳細は、次のとおりです。

AMI BIOS	Version※	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
Processor	Type※	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	Speed※	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	Size※	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time（hh:mm:ss）時間の設定		時刻を設定します。
System Date（mm:dd:yy）日付の設定		日付を設定します。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、タッチパッドの設定を行います。

設定項目と詳細は、次のとおりです。

項目		詳細
IDE Configuration		IDE装置の仕様を表示します。
Primary IDE Master Primary IDE Slave Secondary IDE Master Secondary IDE Slave * 表示される項目や選択できる値は、IDE装置によって異なります。		接続しているIDEの機種を表示します。
	Device ※	IDE装置の機器の名称を表示します。
	Vendor ※	IDE装置の型番を表示します。
	Size ※	HDDの容量を表示します。
	LBA Mode ※	LBA(Logical Block Addressing)をサポートしているかどうかを表示します。
	Block Mode ※	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	PIO Mode ※	IDE装置の転送モードを表示します。
	Async DMA ※	IDE装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	Ultra DMA ※	Ultra DMA対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	S.M.A.R.T. ※	S.M.A.R.T(Self Monitoring Analysis and Reporting Technology)をサポートしているかどうかを表示します
	Type	IDE装置の仕様を設定します。 Not Installed : IDE装置を使用しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。
	LBA / Large Mode	LBA(Logical Block Addressing)を使用するかどうかを表示します。 Auto : LBAを使用します。 Disabled : 使用しません。
	Block (Multi-Sector Transfer) Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto : BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 Auto : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4 : 転送モードを設定します。
	DMA Mode	IDE装置のDMA転送モードを設定します。 Auto : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0/SWDMA1/SWDMA2/MWDMA0/MWDMA1/MWDMA2/UDMA0/UDMA1/UDMA2/UDMA3/UDMA4/
	S.M.A.R.T.	初期値[Auto]のまま使用します。
	32Bit Data Transfter	32Bitデータ転送を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。

TV Display Type	ビデオ出力ジャック出力時の仕様を設定します。 NTSC　　　:NTSC方式で映像信号を出力します。 PAL　　　:PAL方式で映像信号を出力します。
Internal Pointing Device	本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Disabled　　　:タッチパッドを使用しません。 Enabled　　　:タッチパッドを使用します。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定を行います。
パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時または「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。
設定項目と詳細は、次のとおりです。

項目	説明
Security Settings	システムやI/Oポートのセキュリティに関する設定を行います。
Supervisor Password/ User Password※	Supervisor Password(管理者用パスワード)とUser Password(ユーザーパスワード)が設定されているかどうかを表示します。 Installed　：パスワードが設定されています。 Not Installed：パスワードが設定されていません。
Change Supervisor Password (管理者パスワードの設定)	管理者用パスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level	「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると表示されます。「User Password」(ユーザーパスワード)を入力したユーザーが「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスすることを4段階で制限します。 No Access　：「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。 View Only　：「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited　：「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、「日付」と「時間」のみ変更できます。 Full Access：管理者と同一の権利を許可します。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password (ユーザーパスワードの設定)	ユーザーパスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password	ユーザーパスワードを削除します。 ↵ を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。

	Boot Sector Virus Protection		HDDのブートセクタ(システム領域)への書き込みを禁止するかどうかを設定します。書き込みを禁止すると、ウィルスがHDDのブートセクタ(システム領域)への感染を防ぐことができます。 Enabled ：書き込みを禁止します。 Disabled：書き込みを許可します。
	I/O Interface Security		各I/Oポートのセキュリティに関する設定を行います。
		MODEM INTERFACE	FAX モデム機能を使用するかどうかを設定します。 Unlocked： FAX モデム機能を使用します。 Locked ： FAX モデム機能を使用しません。
		LAN NETWORK INTERFACE	ネットワーク(有線LAN) 機能を使用するかどうかを設定します。 Unlocked： LAN 機能を使用します。 Locked ： LAN 機能を使用しません。
		WIRELESS INTERFACE	無線LAN 機能を使用するかどうかを設定します。 Unlocked：無線LAN 機能を使用します。 Locked ：無線LAN 機能を使用しません。
		CARD BUS/ 1394/ Card Reader	PC カード/IEEE1394/メモリカード 機能を使用するかどうかを設定します。 Unlocked：PC カード/IEEE1394/メモリカード 機能を使用します。 Locked ：PC カード/IEEE1394/メモリカード 機能を使用しません。
		USB INTERFACE	USB 機能を使用するかどうかを設定します。 Unlocked： USB 機能を使用します。 Locked ：USB 機能を使用しません。
		Parallel Port	パラレルポートを使用するかどうかを設定します。 Unlocked： パラレルポート機能を使用します。 Locked ： パラレルポート機能を使用しません。
		On Board Audio	マイク入力 / ヘッドフォン出力などのオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。 Unlocked： オーディオ機能を使用します。 Locked ： オーディオ機能を使用しません。
		Audio DJ	コンピュータの電源が切れた状態で音楽 CD 再生機能を使用するかどうかを設定します。 Unlocked： 音楽CD再生機能を使用します。 Locked ： 音楽CD再生機能を使用しません。
Hard Drive Security			
		Primary Master HD Password (HDDパスワードの設定)	内蔵HDDを認識するためのパスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
		Secondary Master HD Password	オプションのセカンドHDDを装着している場合に表示されます。パスワードを設定すると、「Primary Master HD Password」が設定されていなくても、「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワードを要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。

パスワード入力時の注意

パスワード設定時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更

管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

1 **「Change Supervisor Password」または、「Change User Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。**

```
Enter New Password
```

2 **パスワードを入力し、↵ を押します。**

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは6文字まで入力可能です。

3 **続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、↵ を押します。**

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not Match」というメッセージが表示されます。[OK]が選択された状態で ↵ を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。

```
Confirm New Password
```

4 **「Password Installed.」というメッセージが表示されたら、[OK]が選択された状態で ↵ を押します。**

5 **パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。**

HDDパスワードの設定・変更

HDDパスワードの設定・変更は次のとおりです。

1 **「Primary Master HD Password」を選択して、[↵]を押します。**

オプションのセカンドHDDを装着している場合は、「Secondary Master HD Password」も選択できます。

2 **すでにHDDパスワードが設定されている場合は、次のメッセージが表示されます。**

HDDパスワードが設定されていない場合は、手順3に移ります。

```
Enter Password
```

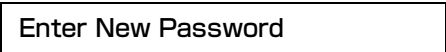
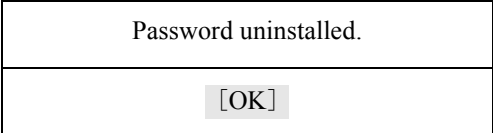
すでに設定されているパスワードを入力し、[↵]を押します。

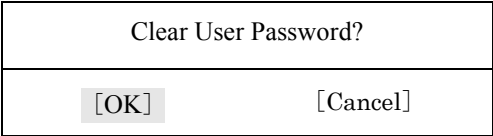
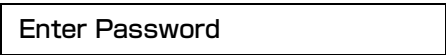
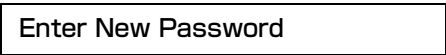
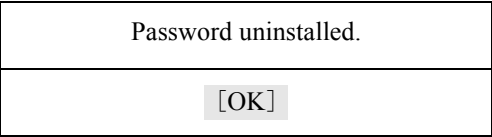
3 **次のメッセージが表示されます。パスワードを入力し、[↵]を押します。**

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは32文字まで入力可能です。

```
Enter New Password
```

4 **続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、[↵]を押します。**

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not Match」というメッセージが表示されます。[OK]が選択された状態で[↵]を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。

```
Confirm New Password
```

5 **「Password Installed.」というメッセージが表示されたら、[OK]が選択された状態で[↵]を押します。これでHDDパスワードの変更は完了です。**

- 「Primary Master HD Password」および、「Secondary Master HD Password」は、パスワードが設定されているかどうかを設定項目で確認することができません。
- 登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。
  万一、パスワードを忘れた場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

管理者パスワードの削除

1. 「Change Supervisor Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

   Enter New Password

2. 何も入力せずに ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

   Password uninstalled.

   ［OK］

3. 「OK」が選択された状態で ↵ を押します。「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されます。

ユーザーパスワードの削除

1. 「Clear User Password」を選択して、↵ を押すと、次の画面が表示されます。

   Clear User Password?

   ［OK］　［Cancel］

2. [OK]を選択して、↵ を押します。「User Password」項目の表示が、「Not Installed」に変わります。これで、ユーザーパスワードが削除されます。

HDDパスワードの削除

1 「Primary Master HD Password」または、「Secondary Master HD Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password

2 HDDパスワードを入力し、↵ を押します。次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

3 何も入力せずに ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
［OK］

4 [OK]が選択された状態で、↵ を押します。これでHDDパスワードが削除されます。

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、バッテリのリフレッシュを行います。

Start Battery Calibration（バッテリのリフレッシュの実行）	バッテリのリフレッシュを行う場合に実行します。 p.65「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムを起動するドライブの順番を設定します。コンピュータが[1st Boot Device]から順番にシステムのあるドライブを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。

システムを起動するドライブを[1st Boot Device]から順番に割り付けます。割り付け可能なドライブは、次のとおりです。

- Removable Dev.または、USB FDD(オプションのUSB FDDを接続している場合)
- 接続されているスリムドライブの型番
- 接続されている内蔵HDDの型番
- Disabled(ドライブを割り付けない場合に設定します)

Boot Device Priority		システムを起動するドライブの順番を設定します。
	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Removable Dev.」です。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は、接続されているスリムドライブの型番です。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は、接続されているHDDの型番です。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled　：無効にします。 Enabled　：有効にします。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティをどのように終了するかを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Save Changes and Exit	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。

BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupプログラムで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

Advancedメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Securityメニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
User Access Level		No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
I/O Interface Security	MODEM INTERFACE	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	LAN NETWORK INTERFACE	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	WIRELESS INTERFACE	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	CARDBUS/ 1394/Card Reader	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	USB INTERFACE	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Parallel Port	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	On Board Audio	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Audio DJ	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED

IBootメニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device				
	2nd Boot Device				
	3rd Boot Device				
Onboard LAN Boot ROM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
本書では、本機に内蔵されいているHDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、「再インストール」と記載します。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

- 弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

- Norton AntiVirus2004で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入してウィルス定義ファイルの更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスが無効になります。その場合は、再インストールを行ったあとに、シマンテックストアまでご連絡ください。
  『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

- HDD上の重要なデータは、FDなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。

- Windowsを再インストールすると、「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。本機のWindowsを再インストールしてから、はじめてインターネットに接続する際は、必ず「Windows Update」を行ってください。
  p.51「Windows Updateについて」

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールするには、次のメディアが必要です。

● リカバリCD（Windows XPのみ）
Windows XPが登録されているCD-ROMです。
Disc1とDisc2の2枚組になっています。

● ドライバCD
各種デバイスドライバ、Adobe Reader、Norton AntiVirus2004が登録されているCD-ROMです。

● B's Recorder GOLD CD-ROM（CD-ROMドライブモデルを除く）
スリムドライブのライティングソフトウェアが登録されています。

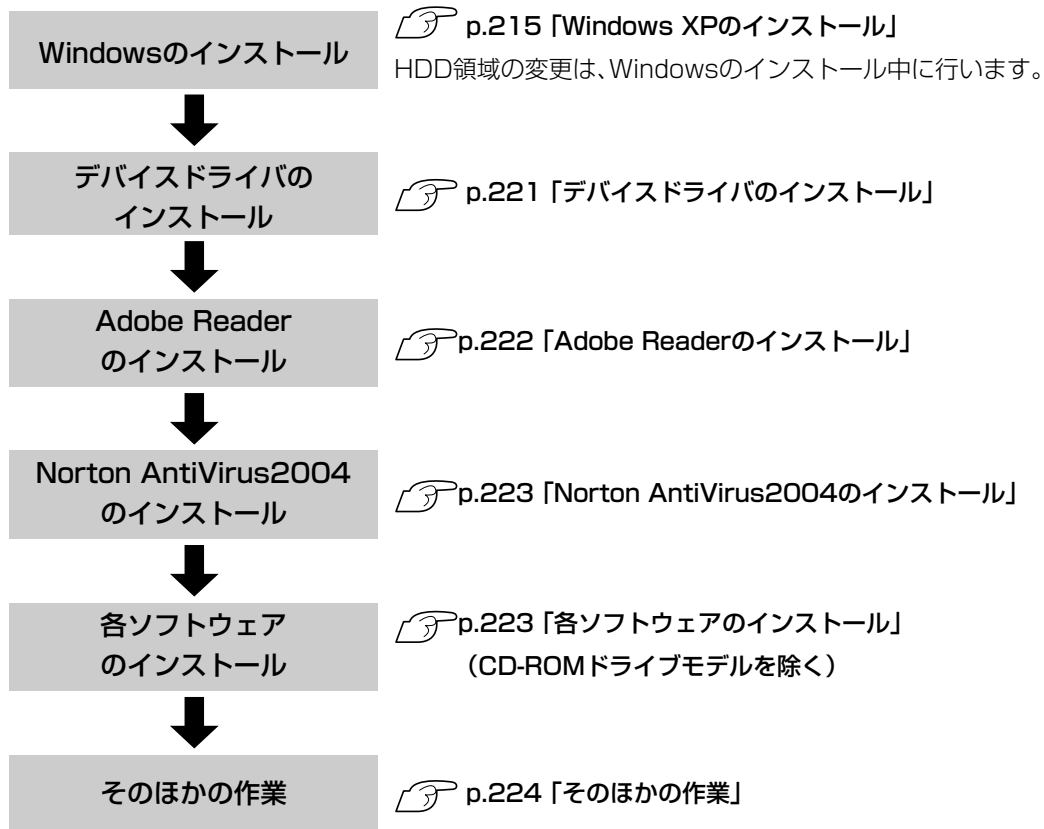
● Win DVD CD-ROM（CD-ROMドライブモデルを除く）
DVD VIDEO再生ソフトウェアが登録されています。

● そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

Windows 2000の再インストール

Windows 2000のリカバリCDは添付されていません。Windows 2000の再インストールは、Windows 2000のCDをご用意の上、行ってください。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

管理者権限でログオン

デバイスドライバのインストール作業は、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

モジュラーベイに、セカンドHDDモジュールなどを装着している場合は、スリムドライブに交換してください。

p.89「モジュラーベイモジュールの交換」

内蔵HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールは、必ずNTFSを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。

スリムドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Cドライブ:内蔵HDD

Dドライブ:スリムドライブ

入力文字

インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

Windows CD-ROMを要求されたら

デバイスドライバ類のインストール時に「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、リカバリCD Disc1をセットしてください。（Windows 2000の場合は、Windows 2000のCDをご用意の上、セットしてください）

スリムドライブのマニュアル（CD-ROMドライブモデルを除く）

CD-ROMドライブ以外のスリムドライブ搭載モデルの場合、Windowsの再インストールを行うと、デスクトップに登録されているスリムドライブのPDFマニュアルが消去されます。再インストールの前に必要に応じて、別のメディアにバックアップを行ってください。なお、PDFマニュアルは弊社ホームページよりダウンロードすることも可能です。

p.228「スリムドライブマニュアルのダウンロード（CD-ROMドライブモデルを除く）」

メーカー情報

Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「システム」

各種設定の確認

ネットワークやモデム、インターネットなどを使用している場合は、Windowsを再インストールすると、設定が消えてしまいます。再インストールする前に、設定を書き写しておいてください。

データのバックアップ

必要に応じてInternet Explorerの「お気に入り」やOutlook Expressの「アドレス帳」、「メールデータ」のバックアップを行っておいてください。

p.145「「お気に入り」のバックアップを取る」
p.150「アドレス帳のバックアップを取る」
p.151「メールデータのバックアップを取る」

Windows XPのインストール

Windows XPインストールの流れ

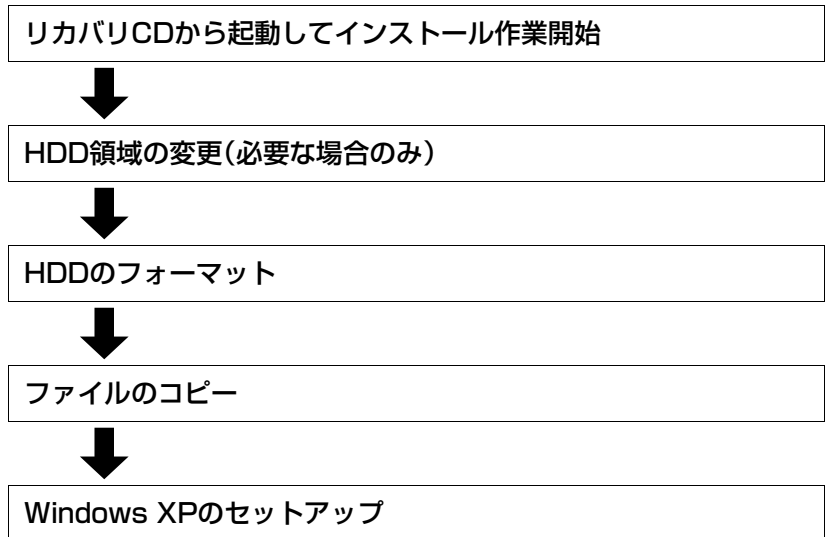
Windows XPのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、次ページからの手順に従ってください。

リカバリCDから起動してインストール作業開始

HDD領域の変更(必要な場合のみ)

HDDのフォーマット

ファイルのコピー

Windows XPのセットアップ

HDD領域の変更

HDDを分割して使用したい場合や、すでに分割してある領域の容量を変更したい場合は、「Windowsのインストール」作業中にHDD領域の変更を行います。Windowsをインストールする領域は、作業中にフォーマット、インストールを行いますが、残りの領域(未設定領域)はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定します。

p.255「HDD領域の作成」

Windows XPのインストール

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

1 コンピュータの電源を入れ、「リカバリCD Disc1」をスリムドライブにセットします。

「Microsoft Windows･･･」画面が表示された場合は、[終了]をクリックします。

2 [スタート]－[終了オプション]－[再起動]をクリックして、コンピュータを再起動します。

3 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順4の画面が表示されるまで少し時間がかかります。

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいますので、手順2からもう一度実行してください。

HDDを分割していない場合は、手順5に移ります。

4 HDDを分割している場合は、次の画面が表示されます。この場合は、Escを押します。

上の画面では必ずEscを押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。↵を押してしまうと、DドライブにWindowsがインストールされるため、Dドライブに登録されているデータは消えてしまうので注意してください。

5 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。･･･」と表示されます。
HDDの領域を変更しない場合は、Cドライブが選択されている状態で［↵］を押します。
HDD領域を変更する場合は、Cドライブが選択されている状態で［D］（削除）を押し、下記の手順❶～❻を行います。

＜HDD領域を変更する場合＞

❶「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、［↵］を押します。

❷「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら［L］を押します。

❸「次の一覧にはこのコンピュータ上の･･･」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

- 一覧の中に、まだパーティション（「D」や「E」など）が存在する場合
  HDD領域を変更するには、すべてのパーティションを削除する必要があります。削除したいパーティションを選択して［D］を押し、上記手順❶～❷を実行します。すべてのパーティションを削除したら、［C］を押して手順❹に移ります。
- 一覧の中に、「未使用の領域」の表示のみの場合
  ［C］を押して、手順❹に進みます。パーティションを作成します。

❹Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ（MB）」に表示されている数字を［Back space］で削除し、任意の数値を入力して［↵］を押します。

❺「次の一覧にはコンピュータ上の…」と表示されたら、「C:パーティション1（未フォーマット）」を選択して［↵］を押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。

☞ p.255「HDD領域の作成」

❻「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して［↵］を押します。
手順8に移ります。

6 **「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示された場合は、C を押します。**

7 **「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、↵ を押します。**

現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)を選択すると、Cドライブ上にOSが追加登録されます。(OSが複数になります。)

8 **「警告:このドライブをフォーマットすると･･･」と表示されたら、F を押します。**

9 **フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。**

10 **「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。**

「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。

11 **「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って設定を行います。**

- ソフトウェアの個人用設定
  ここでは「名前」を必ず入力してください。
- コンピュータ名(Windows XP Home Edition)または
  コンピュータ名と「Administrator」アカウントのパスワード
  (Windows XP Professional)
  コンピュータ名と「Administrator」アカウントのパスワードを入力します。
- 日付と時刻の設定
  コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- ワークグループまたはドメイン名(Windows XP Professional)
  ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従って必要事項を入力します。
  ネットワークに接続しない場合にも、任意の英数字(例:「WORK GROUP」など)を入力する必要があります。

12 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

13 「モニタの設定」画面が表示された場合は、[OK]をクリックします。

14 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の ⇨ をクリックします。

15 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して ⇨ をクリックします。

少なくともユーザー名を1つ入力してください。

16 「設定が完了しました」と表示されたら、⇨ をクリックします。

17 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows XPのインストールは終了です。

Windows 2000のインストール

Windows 2000の場合、再インストール時に使用する、リカバリCDは添付されていません。Windows 2000の再インストールは、Windows 2000のCDをご用意の上行ってください。

HDD領域の変更

Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)のHDD領域を変更したい場合は、「Windows 2000のインストール」作業中に行います。Cドライブ以外の領域は、インストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定することもできます。

p.255「HDD領域の作成」

デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。
インストール手順は次のとおりです。

1. **「ドライバCD」をスリムドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。**
表示されない場合は、([スタート]-)「マイコンピュータ」-「CDドライブ(Windows 2000はCD-ROM)」を右クリックして「自動再生」を選択します。

2. **表示された項目から「一括インストール」を選択して[開始]をクリックします。**

3. **「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。**

4. **表示されたドライバを確認して[インストール開始]をクリックします。**
インストールするドライバが自動的に検出されます。

5. **「確認」画面が表示されたら[OK]をクリックします。**
各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには数分かかります。

6. **「インストールの完了」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。**

7. **「Windowsの再起動」画面が表示されたら[はい]をクリックします。**

8. **Windowsが再起動します。Windows 2000の場合はこれでデバイスドライバのインストールは終了です。**

Windows XPの場合は、以降の手順が必要です。
Windows 2000の場合は必要ありません。

9 [スタート]－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

10 表示された項目から[Microsoft .Net Frameworkのインストール]を選択して、[開始]をクリックします。

11 「インストール開始」画面で[Microsoft .Net Frameworkのインストールを開始します]と表示されたら、[はい]をクリックします。

「インストール開始」画面が出ないときは、「マイコンピュータ」画面を移動するか、閉じてみてください。画面の下に隠れている場合があります。
インストールにはしばらく時間がかかります。

12 「インストール完了」画面が表示されます。[終了]をクリックします。

これでデバイスドライバのインストールは終了です。

Adobe Readerのインストール

Adobe Readerのインストールは、次の手順で行います。

1 「ドライバCD」をスリムドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。

表示されない場合は、(「スタート」－)「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 表示された項目から、「Adobe Readerのインストール」を選択して[開始]をクリックします。

3 「Adobe Reader6.0のセットアップ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

4 「Adobe Reader6.0－Japaneseのセットアップウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。

5 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。

6 **「プログラムをインストールする準備ができました･･･」と表示されたら、[インストール]をクリックします。**

インストールにはしばらく時間がかかります。

7 **「セットアップウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。これでAdobe Readerのインストールは終了です。**

Norton AntiVirus2004のインストール

Norton AntiVirus2004をインストールします。

『Norton AntiVirus2004をご使用の前に』

各ソフトウェアのインストール

次のソフトウェアをインストールします(CD-ROMドライブの場合、次のソフトウェアは添付されていません)。

- B's Recorder GOLD
- Win DVD

インストールは、各ソフトウェアの専用CDから行います。各ソフトウェアのインストールの方法については、各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。マニュアルは次の方法で見ることができます。

- B's Recorder GOLD
  B's Recorder GOLD CD-ROMをスリムドライブにセットし、([スタート]－)「マイコンピュータ」－CD-ROMアイコンを右クリック－「開く」－「BsGOLD」－「DOC」－quick

- Win DVD
  Win DVD CD-ROMをスリムドライブにセットし、([スタート]－)「マイコンピュータ」－CD-ROMアイコンを右クリック－「開く」－「manual」

そのほかの作業

Power Gearユーティリティのインストール

Power Gear（パワーギア）ユーティリティをインストールすると、4段階のパフォーマンス（CPU速度とLCD輝度）を切り替えて、消費電力を抑えることができます。必要に応じてインストールを行ってください。

Power Gearユーティリティのインストールは、次の手順で行います。

1. 「ドライバCD」をスリムドライブにセットします。
2. 正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
   表示されない場合は、（[スタート]－）「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。
3. 表示された項目から「そのほかのインストール」を選択して[開始]をクリックします。
4. 「…インストールするドライバソフトウェアを選択してください。」と表示されたら、「Power Gear」を選択して[インストール開始]をクリックします。
5. 「Welcome」画面が表示されたら[Next]をクリックします。
6. 「Choose Destination Location」画面が表示されたら[Next]をクリックします。
7. 「Select Program Folder」画面が表示されたら[Next]をクリックします。
8. 「Setup Complete」画面が表示されたら、[Finish]をクリックします。
9. [スタート]からWindowsを再起動します。これでPower Gearユーティリティのインストールは終了です。

メールユーティリティのインストール

メールユーティリティをインストールすると、「Outlook Express」または「Outlook」を起動している間、未開封メールがあるとメール着信ランプ（✉）が点灯します。必要に応じてインストールを行ってください。

「メールユーティリティ」のインストールは、次の手順で行います。

1. 「ドライバCD」をスリムドライブにセットします。
2. 正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
   表示されない場合は、（[スタート]－）「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。
3. 表示された項目から「そのほかのインストール」を選択して[開始]をクリックします。
4. 「…インストールするドライバソフトウェアを選択してください。」と表示されたら、「メールユーティリティ」を選択して[インストール開始]をクリックします。
5. 「Welcome」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。
6. 「Choose Destination Location」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。
7. 「Select Program Folder」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。
8. 「Setup Complete」画面が表示されたら、[Finish]をクリックします。
9. [スタート]からWindowsを再起動します。これでメールユーティリティのインストールは終了です。

SBSIのインストール(Windows XPのみ)

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「SBSI(ステップバイステップインタラクティブ)」をインストールします。

インストール中に「警告」が表示された場合には

Norton AntiVirus2004がインストールされている場合は、インストール中に「悪質なスクリプトを検出しました」という警告メッセージが表示されることがあります。このような場合は、メッセージ内の「処理」欄から「スクリプト全体を1回許可する」を選択して、インストール作業を続行してください。

SBSIのインストールは、次の手順で行います。

1. 「リカバリCD Disc2」をスリムドライブにセットします。
2. [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
3. 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
   D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
4. 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
5. 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
6. 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
7. 「この登録情報は正しいですか?」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
8. 「セットアップが完了しました。・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。
9. 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある☒をクリックします。
10. [スタート]-[終了オプション]-[再起動]からWindowsを再起動します。Windowsが再起動したら、SBSIのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　　：プリンタに添付のドライバ

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

p.255「HDD領域の作成」

ネットワークの設定

ネットワーク機能（有線LAN）や無線LAN機能搭載モデルの無線LAN機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.162「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.163「無線LANを使う（無線LAN機能搭載モデル）」

インターネットの設定

FAXモデムを使ってインターネットに接続する場合の設定を行います。

p.129「インターネットに接続するには」

Windows Update

本機をインターネットに接続する場合は、本機を快適に使用するために「Windows Update」を行ってください。

p.51「Windows Updateについて」

赤外線通信の設定

赤外線通信機能を使用する場合は、機能を有効に設定する必要があります。

p.109「赤外線通信を使う」

内蔵マイクの設定

内蔵マイクを使用して録音する場合は、機能を有効に設定する必要があります。

p.125「内蔵マイクの設定」

スリムドライブマニュアルのダウンロード（CD-ROMドライブモデルを除く）

マニュアルのダウンロードを行うには、インターネットに接続できる環境が必要です。

Windowsの再インストールを行うと、デスクトップ上のスリムドライブのPDFマニュアルは消去されます。必要に応じて、スリムドライブのPDFマニュアルを弊社ホームページからダウンロードしてご利用ください。
マニュアルは、スリムドライブの種類（型番）ごとに異なります。あらかじめ、お使いのドライブの種類をご確認の上、該当するマニュアルをダウンロードしてください。
スリムドライブの種類（型番）の確認は本機のドライバCDに登録されている「5.25型／スリムドライブの型番検索」ツールを使用します。ツールでは、弊社ホームページからダウンロード用サイトを表示するまでの方法も案内しています。

「5.25型／スリムドライブの型番検索」ツールを実行する手順は、次のとおりです。

1. **「ドライバCD」をスリムドライブにセットします。**
   「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示された場合は、[終了]をクリックして画面を閉じてください。
2. **[スタート]－「ファイル名を選択して実行」をクリックします。**
3. **名前に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。**
   D:¥DRIVE¥CHECK
   （スリムドライブがDドライブの場合）
4. **以降は、画面の指示に従ってください。**

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法について
説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

ホームページのサポート情報について

弊社ホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章とあわせてご覧ください。ホームページのアドレスは『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

コンピュータ本体の不具合

電源を切ってからもう一度入れ直す場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象　**起動時に電源ランプが点灯しない。**

確認と対処

- バッテリだけで使用している場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。
- バッテリ、ACアダプタが正しく接続されているか確認します。
  p.34「ハードウェアをセットアップしましょう」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品の電源コードを電源コンセントに接続して確認してください。
- バッテリ、ACアダプタ、電源コンセントに問題がない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

現象　**起動時に画面に警告メッセージが表示される、または警告音が鳴って起動しない。**

確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

- 起動時の自己診断テスト終了後（Windows の起動中）に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

- 起動時の自己診断テスト中に警告メッセージが表示されたり警告音（ビープ音）が鳴って止まったりする場合は、自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。
警告メッセージを確認するか、ビープ音の回数をメモしてから、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。
p.252「警告メッセージ/警告音」

- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。
p.194「設定値をもとに戻すには」

現象　**起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。**

Enter CURRENT Password:

Hard Drive Locked, enter password:

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。

  p.199「Securityメニュー画面」

- パスワードを正しく入力しているか確認します。Num Lkの状態により一部のキーが数値キーとして働きます。

  p.73「キーボードを使う」

- パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

現象　**起動時に次のようなメッセージが表示されて、Windows が起動しない。**

・Operating System not found

・DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER

・Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key

確認と対処

- システムが登録されていないFDがオプションのUSB FDDにセットしてある場合は、FDを抜いてどれかキーを押してください。

- USB フラッシュメモリなどの周辺機器をUSB コネクタに接続している場合は、一旦電源を切って周辺機器を取り外してから、再度電源を入れてください。

現象　**ハングアップしてしまい、何も反応しない。**

- タスクマネージャで応答のないプログラムを終了させます。
  応答のないプログラムを終了させる手順は、次のとおりです。

1 **Ctrl+Alt+Delを押します。**

2 **「Windowsのセキュリティ」画面が表示されたら「タスクマネージャ」をクリックします。**

3 **「Windows タスクマネージャ」画面－「アプリケーション」タブで、「応答なし」と表示されているタスクを選択して、[タスクの終了]をクリックします。**
プログラムが終了します。

4 **画面右上の☒をクリックして、「Windows タスクマネージャ」を終了します。**

- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってください。
- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

現象　**「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。**

確認と対処
- 本機内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

省電力機能に関する不具合

現象　　**正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない**

確認と対処

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- バッテリ残量が少なくなり、ローバッテリ省電力モードに入った場合は、ACアダプタを接続してから復帰させてみてください。
- 省電力モードから復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Delを押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 省電力モード時にPCカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl+Alt+Delを押して、コンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データは、すべて消失します。

バッテリパック使用時の不具合

現象　**充電されない。**

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認します。
- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
  p.65「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- 充電時にバッテリ充電ランプが橙色に点灯しているか確認します。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているかを確認します。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してみます。
- 電源コンセントに問題がない場合は、ACアダプタまたはコンピュータに問題があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

現象　**すぐにバッテリが終ってしまう。バッテリでの使用時間が短い。**

確認と対処

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
  p.65「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.68「使用済みバッテリの取り扱い」

キーボードの不具合

現象 **どのキーを押しても応答がない。**

確認と対処

- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでプログラムを終了してください。
  p.230「コンピュータ本体の不具合」

現象 **キートップにある文字や記号が入力できない。**

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。
  p.74「文字を入力するには」
- Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。
  Windows上で次のキーボードが選択されていることを確認します。
  101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

  確認方法は、次のとおりです。

  Windows XP　:　[スタート]－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「キーボード」をクリック－「キーボードのプロパティ」画面で「ハードウェア」タブをクリック

  Windows 2000 :　[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「キーボード」アイコンをダブルクリック

タッチパッドの不具合

現象　**ポインタの動きが悪い。**

確認と対処

- 手が濡れていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。
- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れ直してください。
- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。
  p.72「タッチパッドユーティリティを使う」

現象　**ポインタが動かない**

確認と対処

- タッチパッド機能が無効になっていないか確認します。

p.72「タッチパッドユーティリティを使う」

LCDユニットの不具合

現象　**LCD画面に何も表示されない。**

確認と対処

- 画面の明るさを調節してください。Fn+F5/Fn+F6で調節できます。
  p.112「表示装置を使う」
- バックライトが消灯していないか確認します。Fn+F7を押してみてください。
- 省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
  p.158「復帰方法」
- バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してもそのまま放置すると、スタンバイモードに移行します(購入時の設定)。ACアダプタを接続してください。

- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。ビープ音が鳴った場合は、ビープ音の回数をメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

p.252「警告メッセージ/警告音」

現象　**画面がちらつく。**

確認と対処

- LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生する場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

現象　**画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。**

確認と対処

- 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直し、解像度を正しく選択してください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

Windows XPの場合

1. **コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。**
2. **電源を入れた直後に、F8を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**
3. **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵を押します。**
以降は画面の指示にしたがってください。

Windows 2000の場合

1 **コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。**

2 **画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に [F8] を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。**

Windows 2000の問題解決と拡張起動オプションについては、F8キーを押してください。

3 **「Windows 2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、[↵] を押します。**

以降は画面の指示にしたがってください。

モジュラーベイモジュール使用時の不具合

スリムドライブやセカンドHDD、セカンドバッテリを装着している場合は、次の不具合もあわせてご覧ください。

- スリムドライブ

p.242「スリムドライブの不具合」

- セカンドHDD（オプション）

p.241「HDDの不具合」

- セカンドバッテリ（オプション）

p.235「バッテリパック使用時の不具合」

現象 **モジュラーベイモジュールの交換をしたあと、Windowsが起動しても認識されない。**

確認と対処

- モジュラーベイモジュールを取り外して、もう一度取り付けてください。

p.89「モジュラーベイモジュールの交換」

- モジュラーベイモジュールを取り付け直しても認識されない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

USB FDD(オプション)の不具合

現象　FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

- FDDが正しく接続または認識されているか確認してください。
  p.79「FDDの接続と取り外し」
- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥にアクセスできません。 デバイスの準備ができていません。 [再試行]　　[キャンセル]

ディスクの挿入 A:ドライブにディスクを挿入してください。 [キャンセル]

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。 今すぐフォーマットしますか? [はい]　　[いいえ]

- 使用しているFDが本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。
- 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、読み書きできないFDに異常があることが考えられます。
- システムが登録されたFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

現象　　FDに書き込みできない。

確認と対処

● ライトプロテクトされていないか確認します。

p.84「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象　　FDDから異常な音がする。

確認と対処

● 『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

HDDの不具合

現象　　それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処

● HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。

p.197「Advancedメニュー画面」

現象　　特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処

● ファイルのデータが壊れているおそれがあります。 HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

スリムドライブの不具合

現象　**音楽CD再生機能が使用できない。**

確認と対処

- BIOSの設定が無効になっている可能性があります。「Securityメニュー」画面－「I/O Interface Security」－「Audio DJ」の設定値が、「UNLOCKED」になっているか確認してください。

  p.192「BIOS Setupユーティリティの操作」

現象　**音楽用CDの音が聞こえない。**

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

  p.124「サウンド機能を使う」

現象　**セットしたメディアにアクセスできない。**

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面に傷などがないか確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式の CD-ROM メディアの場合、アクセスできない可能性があります。
- セットしたメディアが、書き込み済みの CD-R メディアまたは CD-RW メディアの場合、スリムドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象　**メディアをセットすると画面が開いてしまう。**

確認と対処

- セットしたメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や☒をクリックして、画面を閉じます。その後([スタート]－)「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、[開く]を選択します。

現象　**メディアに書き込みができない。またはエラーが発生する。**

確認と対処

- CD-ROMドライブでは、メディアへの書き込みはできません。
- 書き込み機能のあるスリムドライブで書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。書き込み機能のあるスリムドライブを選択された場合、購入時には、「B's Recorder GOLD」がインストールされています。
  メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『B's Recorder GOLD ユーザーズマニュアル』を参照してください。
  p.99「B's Recorder GOLDの使い方」
- Windowsが省電力モードに切り替わると、メディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力機能を無効にしてください。
- お使いのスリムドライブに対応しているメディアかどうか確認してください。詳細については、スリムドライブのPDFマニュアルを参照してください。
- メディアの残量があるか確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。
- スリムドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象　**DVD VIDEOの再生ができない。**

確認と対処

- CD-ROMドライブをお使いの場合、DVDの再生はできません。
- DVD再生機能のあるスリムドライブで、DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。DVD再生機能のあるスリムドライブの場合、「Win DVD」が購入時にインストールされています。
  DVD VIDEO再生に関する不具合については、WinDVD CD-ROMに登録されている『Win DVDユーザーズマニュアル』を参照してください。
  p.97「DVDメディアの読み込み・再生」

アプリケーションソフトの不具合

現象　**アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。**

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやホコリ、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象　**アプリケーションソフトが起動しない。**

確認と対処

- アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

- アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。スリムドライブやオプションのUSB FDDなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

- アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

- アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象　**メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。**

確認と対処

● Windows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを実行し、「Mainメニュー画面」−「System Memory Size」でメモリ容量を確認してください。

p.191「BIOS Setupユーティリティの操作」

● メモリモジュールを増設または交換した場合は、メモリモジュールのタイプが合っているか、メモリスロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

● 購入時から不具合がある場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

PCカードの不具合

現象　**PCカードを装着しても、使用できない。**

確認と対処

● 本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。

p.100「PCカードを使う」

● PCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。

p.100「PCカードを使う」

● PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

● 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。
詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードの不具合

現象　**メモリカードを装着しても使用できない。**

確認と対処

- メモリカードが裏表逆に装着されていないか確認します。メモリカードの裏表をイラストで確認してください。

  p.105「本機で使用できるメモリカード」

- メモリカードがメモリカードスロットの仕様に対応しているか確認します。

  p.106「メモリカード使用時の注意」

プリンタの不具合

現象　**印刷できない。**

確認と対処

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているか確認してください。
- プリンタの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
- Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

内蔵スピーカの不具合

現象　**システムは正常に動作しているのに音がしない。**

確認と対処

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

  p.124「サウンド機能を使う」

- 内蔵スピーカの不良が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

インストール時の不具合

現象　**インストールがマニュアルどおりにできない。**

確認と対処

- 本書では、インストール手順中のスリムドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。スリムドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。スリムドライブのドライブレターを確認してください。
  スリムドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。
- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
- 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までお問い合わせください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象　**起動時に、OSを選択する画面が表示される(OSが2つになってしまっている)。**

確認と対処

- p.215「Windows XPのインストール」の手順4で、Esc を押さずにCドライブ以外のドライブを選択してしまったり、手順5で、Cドライブ以外のドライブを選択してしまった場合、そのドライブにWindows XPがインストールされてしまい、OSが2つになってしまいます(Cドライブに1つ、他ドライブに1つという状態)。この場合は、Windows XPのインストールを行い、OSの入っているドライブをフォーマットしてください。手順4では Esc を押し、手順5では、Windows XPがインストールされている、Cドライブ以外のドライブを削除し、再度CドライブにWindows XPをインストールしてください。

  p.215「Windows XPのインストール」

- p.215「Windows XPのインストール」の手順7で「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、OSが追加登録されてしまいます(CドライブにOSが2つという状態)。OSが2つになってしまった場合は、Windows XPのインストールを行い、Cドライブをフォーマットしてください。手順7では、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してください。

  p.215「Windows XPのインストール」

現象　**リカバリ CD を入れても Windows の再インストールが開始されない。**

確認と対処

- スリムドライブのブートの順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、ブートの優先順位を変更してください。

  p.205「Bootメニュー画面」

FAXモデムの不具合

現象　**「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。**

確認と対処

- 「モデムのプロパティ」で[詳細情報]または[モデムの照会]を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。

  Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

  Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

現象　**インターネットへ接続できない**

確認と対処

- モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。
- 次の場所で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。

  Windows XP　：［スタート］－「接続」－「接続先の名前」－［プロパティ］－［ダイヤル情報］

  Windows 2000：［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」－「接続先の名前」－［プロパティ］－［ダイヤル情報］

● 次の方法でダイヤルの設定を変更してみてください。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「モデム」タブ－「ダイヤルの管理」項目－「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「全般」タブ－「ダイヤルの管理」項目－「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

● 接続ユーザー名や、接続パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。

・全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。

・大文字と小文字をきちんと区別しているか。

・数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのO など。

・接続ユーザー名とメールアカウントを混同していないか。

・接続パスワードとメールパスワードを混同していないか。

● DNS（ネーム）サーバの IP アドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でDNS（ネーム）サーバのIPアドレスを確認します。

・Windows XP

❶［スタート］－「接続」－「接続名（任意の名前）」－［プロパティ］をクリックします。

❷「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル（TCP/IP）」－［プロパティ］でDNS（ネーム）サーバのアドレスを確認します。

・ Windows 2000

❶［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ」－「接続（任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。

❷「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル」－［プロパティ］でDNS（ネーム）サーバのアドレスを確認します。

● 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

● 接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみてください。

● 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。

・ 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
・ 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
・ プロバイダのサーバが停止している。

現象　**V.92通信方式で通信できない。**

確認と対処

● 回線状況によって、V.92通信方式で接続できない場合があります。V.92通信方式のほかにはx2方式があります。x2方式のモデムとは、V.34通信方式（33600bps）以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.92通信方式で接続することができます。

現象　**V.92、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。**

確認と対処

● V.92、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

警告メッセージ/警告音

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に以下の警告メッセージが表示されたり、ビープ音が鳴ったりした場合は、以下の各対処を行ってください。処置を行っても直らない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり担当窓口までご連絡ください。

警告メッセージ

メッセージ	説明および対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	・ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」−「Bootメニュー画面」−「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。 ・ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、「EXITメニュー画面」−「Load Optimal Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、日付と時刻の設定を直してから「EXITメニュー画面」−「Save Changes and Exit」を選択してください。

警告音(ビープ音)

ビープ音の回数	警告の内容	説明および対処方法
1	Memory refresh timer error	メモリリフレッシュが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
3	Main memory read/write test error	メモリの読み込み、書き込みが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
6	Keyboard controller BAT test error	キーボードが正しく機能していません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。
7	General exception error	メモリ、キーボード以外のシステムが正しく動作していません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。
8	Display memory error	ビデオメモリが正しく動作していません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。

付　録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様
などについて説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

> ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

HDD領域の作成

HDD領域を分割した際、未割り当てとなっている領域は、HDD領域を作成することで使用できるようになります。購入時のHDDはあらかじめHDD領域が作成されていますので、HDD領域の作成は必要ありません。

次のような場合にHDD領域の作成が必要です。

● セカンドHDD(オプション)をはじめて使用する場合

購入時のセカンドHDDの全領域は未割り当ての領域です。HDD領域を作成すると、セカンドHDDが使用できるようになります。

● Windowsの再インストール中に内蔵HDDのHDD領域を変更した場合

Windowsがインストールされていない領域は未割り当ての領域です。HDD領域を作成すると、内蔵HDDのすべての領域が使用できるようになります。

参考

Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)のHDD領域を変更する場合

「Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)」のHDD領域を変更したい場合は、Windowsを再インストールする必要があります。

p.209「ソフトウェアの 再インストール」

付録

HDD領域の概要

HDDの未割り当ての領域には、HDD領域(パーティション)を作成します。パーティションを作成すると、そのパーティションの領域は、新しいドライブとしてWindowsに認識されます。

作成できるパーティションは、次のとおりです。

- プライマリパーティション
  プライマリパーティションは1つのドライブとしてWindowsに認識されます。
- 拡張パーティション
  拡張パーティションには論理ドライブを作成する必要があります。論理ドライブは、複数作成でき、1つ1つがドライブとしてWindowsに認識されます。

1つのHDDには、これらのパーティションを最大4つまで作成できます。そのうち、拡張パーティションは、1つのHDDに対して1つのみ作成できます。

プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせて作成すると、1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

HDD領域の作成手順

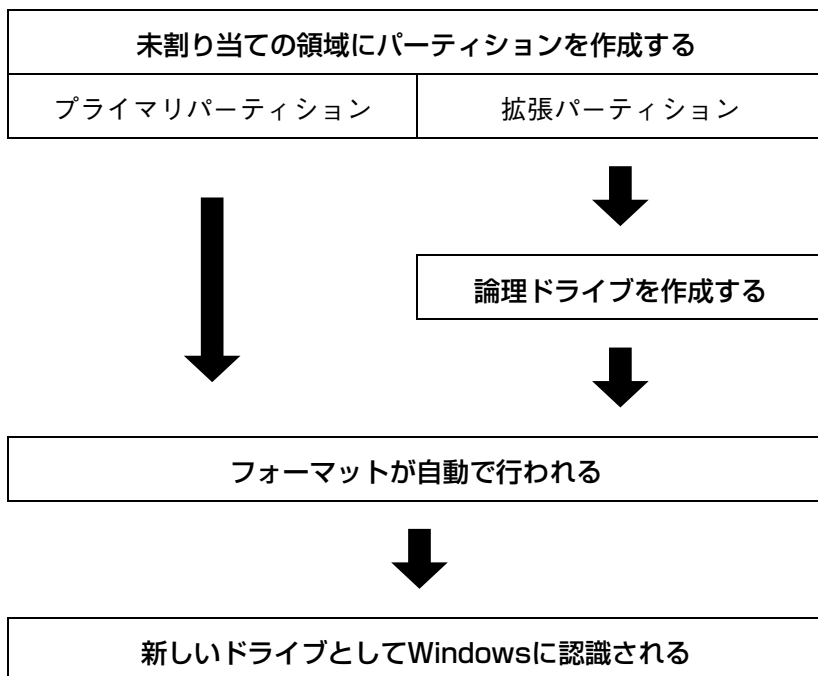
HDD領域(パーティション)の作成は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。

Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)のHDD領域を変更する場合

「ディスクの管理」では、「Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)」のHDD領域は変更できません。HDD領域を変更したい場合は、Windowsを再インストールする必要があります。

HDD領域の作成の流れ

HDD領域の作成の流れは次のとおりです。

付録

HDD領域の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

1 **[スタート]−「コントロールパネル」−「パフォーマンスとメンテナンス」−「管理ツール」−「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

Windows 2000の場合は、[スタート]−「設定」−「コントロールパネル」−「管理ツール」−「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

2 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。**

Windows 2000でセカンドHDDを装着している場合は、画面左下の「ディスクの管理」をクリックすると「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」画面が表示される場合があります。[キャンセル]をクリックすると、画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。

Windows XP でセカンド HDD を装着しているときの画面

3 **パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション(Windows2000では「パーティションの作成」)」をクリックします。**

4 **「新しいパーティションウィザード(Windows2000では「パーティションの作成ウィザード」)」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。**

5 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、パーティションの種類を選択して[次へ]をクリックします。

6 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ(Windows 2000の場合は、「使用するディスク領域」)」に任意の値を入力して[次へ]をクリックします。

複数のパーティションを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

手順5でプライマリパーティションを作成した場合は、手順8に移ります。

7 手順５で拡張パーティションを作成した場合は、「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了]をクリックします。続いて拡張パーティション内に論理ドライブを作成します。

p.260「論理ドライブの作成」

8 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「ドライブ文字の割り当て:」に任意のドライブレターを選択して、[次へ]をクリックします。

「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。

9 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ]をクリックします。

表示されている設定値を変更する必要はありません。

10 「新しいパーティションウィザードの完了(Windows 2000 の場合は、「パーティションの作成ウィザード」)」と表示されたら、[完了]をクリックします。

11 [完了]をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。フォーマットが終了するとHDD領域の作成は終了です。

複数のパーティションを作成する場合は、手順3〜11の作業を繰り返します。

論理ドライブの作成

拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。拡張パーティションの「空き領域」に論理ドライブを作成する手順は、次のとおりです。

1 **「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ(Windows 2000では「論理ドライブの作成」)」をクリックします。**

2 **「新しいパーティションウィザード(Windows 2000 では「パーティションの作成ウィザード」)」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。**

3 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ]をクリックします。**

4 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ(Windows 2000の場合は、「使用するディスク領域」)」に任意の値を入力して[次へ]をクリックします。**

複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

5 **「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「ドライブ文字の割り当て:」に任意のドライブレターを選択して、[次へ]をクリックします。**

「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。

6 **「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ]をクリックします。**

表示されている設定値を変更する必要はありません。

7 **「新しいパーティションウィザードの完了(Windows 2000 の場合は、パーティションの作成ウィザード)」と表示されたら、[完了]をクリックします。**

8 **[完了]をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。フォーマットが終了すると論理ドライブの作成は終了です。**

複数の論理ドライブを作成する場合は、手順1〜8の作業を繰り返します。

リチウム電池の交換

BIOS セットアップユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、担当窓口までご連絡ください。

付録

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本FAXモデムではモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。
本機で使えるATコマンドの一覧(ATコマンドリファレンス)は、「ドライバCD」の「MODEM」－「ATコマンドリファレンス.pdf」(英文)をご覧ください。

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア(Internet ExplorerやOutlook Expressなど)でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。
次ページの表のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

Windows XP ： [スタート]－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－[プロパティ]－「詳細」タブの「追加設定」

Windows 2000： [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－[プロパティ]－「詳細」タブの「追加設定」

現　象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=34」(V34) 「AT+MS=92」(V92) 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例:ATM0X3　(ATM0+ATX3)

機能仕様一覧

項目		仕様
CPU		インテルPentium Mプロセッサ
メモリ	ROM	AMI BIOS
	メインメモリ	SODIMM(DDR SDRAM)を使用して 最大1GBまで増設可能 (SODIMMスロット×2)
ビデオ	コントローラ	ATI MOBILITY RADEON 9700
	メモリ	64MB DDR SDRAM
画面表示	液晶タイプ	15型 SXGA+ カラー液晶 1400×1050ピクセル True Color(32ビット)*1
		15.4型 WXGA カラー液晶 1280× 800ピクセル True Color(32ビット)*1
		15.4型 WSXGA+ カラー液晶 1680×1050ピクセル True Color(32ビット)*1
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ピクセル、True Color (32ビット)
サウンド	コントローラ	インテル855PM Integrated AC'97対応
キーボード		日本語対応89キー(Windowsキー付き)、インスタントキー5個
ポインティングデバイス		タッチパッド (スクロールボタン付き)
記憶装置	HDD	2.5型IDE HDD1基内蔵
	スリムドライブ	購入時の仕様により異なります。
インタフェース	パラレル	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向ECP/EPPサポート)
	VGA	1(アナログRGB ミニD-SUB 15ピン)
	TV出力	1(S端子)
	サウンド	ステレオスピーカ、モノラルマイク内蔵 ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1
	IrDA	IrDA1.1準拠 FIR(4Mbps)、SIR(115.2Kbps) 対応
	USB	4(USB2.0対応)
	IEEE1394	1(4ピン)
	FAXモデム	1(RJ-11 V.92対応)*2
	ネットワーク	1(RJ-45 10Base-T/100Base-TX/1000Base-T自動認識)*2
モジュラーベイ		スリムドライブを標準で装着済み。オプションのモジュラーベイモジュールを装着可能。
PCカードスロット		1スロット TypeIまたはTypeII ×1 PC Card Standard準拠 (CardBus 対応)
メモリカードスロット		1スロット メモリースティック(Pro対応)、マルチメディアカード、SDメモリーカード対応
カレンダ時計		内蔵 (内蔵電池によりバックアップ)
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10V*3、1.5A (50/60Hz)、出力19V、3.42A、65WAC 重量270g
	バッテリパック(メインバッテリ)	容量 4400mAh Li-ion 14.8V 動作時間 約5時間 JEITA測定方法Ver1.0
温湿度条件		温度:10～35℃ 湿度:20～80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体:約354(幅)× 273(奥行)× 22～34(高さ)mm(突起部除く)
質量		本体:約3.0Kg(メインバッテリ装着時)
消費電力	定格消費電力	76.5WAC
	待機時消費電力	3.1WAC

*1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。

*2 認定番号ラベルはコンピュータの背面に貼付されています。

*3 標準添付されている電源コードはAC100V用(日本仕様)です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

● オプション

<table>
<tr><td colspan="2">USB FDD</td><td>USB接続3.5型FDD</td></tr>
<tr><td rowspan="2">モジュラーベイモジュール</td><td>セカンドHDD</td><td>2.5型IDE HDD1基内蔵</td></tr>
<tr><td>セカンドバッテリ</td><td>容量 3600mAh　Li-ion 11.1V　動作時間 約8.5時間(メイン併用のみ) JEITA測定方法Ver1.0</td></tr>
<tr><td rowspan="7">無線LAN*1</td><td>準拠規格</td><td>IEEE802.11a　：ARIB STD-T71(小電力データ通信システム規格)
5.2GHz　無線LAN標準プロトコル
IEEE802.11b/g：ARIB STD-T66(小電力データ通信システム規格)
2.4GHz　無線LAN標準プロトコル</td></tr>
<tr><td>データ転送速度(規格値)*2</td><td>802.11a/g:54Mbps
802.11b:11Mbps</td></tr>
<tr><td>伝送方式</td><td>OFDM方式(IEEE802.11a/g)
DS-SS方式(IEEE802.11b)</td></tr>
<tr><td>伝送距離(理論値)</td><td>11Mbps :40m(IEEE802.11b)
54Mbps :25m(IEEE802.11g)/12m(IEEE802.11a)
屋内におけるアクセスポイントとの通信時*3</td></tr>
<tr><td>セキュリティ</td><td>152/128/64bit WEP、WPA対応</td></tr>
<tr><td>使用無線チャンネル</td><td>IEEE802.11a　:34/38/42/46ch
IEEE802.11b/g:1～14ch</td></tr>
<tr><td>RF周波数帯域</td><td>IEEE802.11a　:5.2GHz帯全域(5.150～5.250GHz)
IEEE802.11b/g:2.4GHz帯全域(2.412～2.484GHz)</td></tr>
</table>

*1 認定番号ラベルは、コンピュータの底面に貼付されています。
*2 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
*3 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって短くなります。

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

● ACPI
Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● ADSL
Asymmetric Digital Subscriber Line(非対称デジタル加入者線)の略で、一般の電話回線を利用した高速通信サービスです。電話中でもインターネット接続ができ、高速通信が可能なうえ、月々の料金は定額で利用することができます。ブロードバンドの接続方法のひとつです。

● BIOS(バイオス)
Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。
類義語　CMOS RAM

● BIOS Setupユーティリティ
コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットで ROM で提供されています。BIOSSetupユーティリティで設定した値はCMOSRAMに保存されます。

● Boot（ブート）
コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

● CPU
Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

● DDR SDRAM
「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。

● DIMM
Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のスロットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

● DMA転送
Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

● DMAチャネル
DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります。

● DRAM(ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。
メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAM のデータは消失します。

● FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます。

● FTTH(光ファイバー)

Fiber To The Home(家庭向け光ファイバー)の略で、光ファイバーを利用した超高速通信サービスです。電話中でもインターネット接続ができ、高速通信が可能なうえ、月々の料金は定額で利用することができます。ブロードバンドの接続方法のひとつです。

● HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができ、それぞれドライブとして利用できます。

● I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

● IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。

● IEEE1394

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

● IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0〜IRQ15の16種類が用意されています。

● ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のこと。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータを送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

● LAN

Local Area Networkの略で、会社内や学校内など比較的限られたエリア内のコンピュータ同士をつなげた状態のことです。

● MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

● NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

● OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

● RAM

Random Access Memoryの略。RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● ROM

Read Only Memoryの略。読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● RS232C

シリアルインターフェイスとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA（ターミナルアダプタ）などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやりとりするときに用いられています。

● SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● SODIMM

Single Outline Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

● S/P DIF

Sony Philips Digital InterFaceの略。デジタル信号に変換された音声データをやりとりするためのインタフェースのことです。

● SXGA

Super eXtended Graphics Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、1280×1024ピクセルの解像度のこと。「Super-XGA」と表記されることもあります。

● TA（ターミナルアダプタ）
コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

● Ultra ATA /100
IDEインターフェイス上において100MB/ｓでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

● URL（ユーアールエル）
Uniform Resource Locatorの略。インターネット上の情報資源（文書や画像など）の場所を示す記述方式で、インターネットのアドレスのことです。

● USB
Universal Serial Busの略。周辺機器をシリアル通信で接続するための規格。USB対応機器を接続します。USB2.0はUSB1.1と完全互換ですが、USB2.0の動作速度で動作するには、コンピュータ、周辺機器の両方がUSB2.0に対応している必要があります。

● VGA
Video Graphics Arrayの略。640×480ピクセル、16色を表示するDOS/V機の基本的なビデオ表示機能です。
Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

● WXGA
Wide eXtend Graphic Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、ワイドディスプレイ対応の解像度のことを言います。

● XGA
eXtend Graphic Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、1024×768ピクセルの解像度のこと。解像度が高いほど、画像に多くの情報を表示することができます。

● アカウント
ネットワーク上で利用者を識別するための名前（記号や番号）のことです。

● アクセス
データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

● アクセスポイント
インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

● アクセスランプ
HDDやスリムドライブなど、ドライブにアクセスしていることを示すランプのことです。

● アップロード
手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

● アドレス
メモリやI/Oポートに付けられた番地（場所）のことです。一般的に16進数で示されます。

● アプリケーションソフト
プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

● インストール
ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

● インタフェース
コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

● オフライン
コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

● オンライン
他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

● 解像度
画面表示の細かさのことです。

● 外部キャッシュメモリ
CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。
類義語　キャッシュRAM、L2 キャッシュ、2次キャッシュ

● カーソル
文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

● 起動する
コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。
類義語　立ち上げる。

● キャッシュ処理、キャッシュ機能
一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

● コマンド
コンピュータに与える命令です。命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

● サーバ
ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● システム
コンピュータ（ハードウェア）、OS、アプリケーションソフト（ソフトウェア）など全体のことを示します。

● シリアルポート

シリアルインタフェース規格にのっとった周辺機器を接続するためのポート。外付けモデムやT A(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● ダイヤルアップ接続

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

● ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● ディザリング

複数の画素を組み合わせて、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

● ディスプレイ

表示装置のことです。モニタともいいます。

類義語　CRTディスプレイ、液晶ディスプレイ

● ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

● ドライブレター

FDD、HDDやスリムドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。

基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

● 内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● ナローバンド

電話回線や携帯電話・PHSからプロバイダのAP(アクセスポイント)へダイヤルアップ接続してインターネットへ接続する環境のことです。

● バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

● パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

● パラレルポート

パラレルインターフェース規格にのっとった周辺機器を接続するためのポート。主にプリンタを接続します。

● ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● ピクセル

表示画面のひとつひとつの点の単位です。ドットとも言います。

● ビデオメモリ
別名グラフィックスメモリ。ディスプレイに表示される内容を保持しているメモリのこと。画面の最大解像度や最大同時発色数はビデオメモリの容量に左右されます。メインメモリの一部をビデオメモリとして使用する機種もあります。

● ヒートシンク
放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

● ファイル
コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

● 物理ドライブ
HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● ブラウザ
インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットスケープ･コミュニケーションズ社の「Netscape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

● プラグアンドプレイ
取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。
拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

● ブロードバンド
FTTH(光ファイバー)やADSLおよびCATVでの接続方法でインターネットに接続する環境のことです。

● プログラム
コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。
類義語　ソフトウェア、アプリケーションソフト

● プロトコル
ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● ポート
コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● ボリュームラベル
HDDやFDにつけた名称のことです。

● 無線LAN
LANケーブルを使わずに、電波などの無線で通信を行うLANのことです。

● メインメモリ
メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

● メッセージ
コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● メモリ
実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● メモリチェック
コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● モデム
電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● リソース
拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語のことです。
類義語　システム資源

● ログオン
コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。
類義語　ログイン／ログアウト

● 論理ドライブ
OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

● リフレッシュレート
ディスプレイの表示において、1秒間に何回画面を更新するかの値です。リフレッシュレート60Hzといえば、1秒間に60回画面を更新することを意味します。リフレッシュレートが低いと画面のちらつきを感じますが、リフレッシュレートをあげることで、画面のちらつきを感じなくさせることができます。

索　引

数字

A

B

C

D

F

H

I

L

M

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

な

に

ね

は

ひ

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、弊社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
弊社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

PCリサイクルマークについて

PCリサイクルマーク付きの弊社製品は、弊社が無償で回収、再資源化いたします。
詳細は下記ホームページをご参照ください。

http://www.epson.co.jp/ecology/index.html

Macrovision著作権保護技術について（CD-ROMドライブモデルを除く）

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、Macrovision Corporationおよび他が所有する知的財産権や米国特許によって保護されています。
この技術の使用にはMacrovision Corporationの認可が必要です。また、Macrovision Corporationの許可なしに、家庭内や限られた範囲での視聴目的以外に使用することはできません。リバースエンジニアリングや、分解は禁止されています。
＊Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
(2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点 がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel、インテル、Pentiumはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
PS/2は International Business Machines の登録商標です。
Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
Adobe、Adobe ReaderおよびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標 (地域によっては登録商標)です。
そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。